

シラバス

2022年度



埼玉医療福祉会看護専門学校
看護学科

利用にあたって

1. 本校で履修する科目は、基礎分野、専門基礎分野、専門分野に分けられ、それぞれの分野に科目が組み込まれている。
2. 1年次は主に基礎分野を学習する。並行して専門基礎分野と専門分野を履修する。
3. すべての科目は必修科目となっている。
4. 記載内容は、科目名、単位、時間数、講義時期、担当教員、授業目的、到達目標、DP（ディプロマポリシー）、授業項目・内容、教授法、使用テキスト・参考書などである。
5. シラバスを活用し、予習、復習することにより主体的に学習する習慣を身につけ学力の向上を図る。

はじめに

校長 丸木 清之

少子高齢化が進展するなか、地域包括ケアシステムに向けた医療提供体制を実現するためには、看護の役割や活躍の場の変化と拡大が不可欠になってきます。このような社会の変遷に対応できる将来を担う看護師を育てる看護基礎教育のあり方の検討が行われ、カリキュラム改正案がとりまとめられ、令和2年10月30日には、「保健師助産師看護師学校養成所指定規則」の一部を改正する省令が公布されました。2022年入学生から第5次カリキュラムでの看護基礎教育がスタートします。新カリキュラムでは自由な裁量で柔軟なカリキュラム運営が可能になりましたので、対象の自己決定を支援し、健康を支える能力やコミュニケーション能力、臨床判断能力、多職種との連携・協働能力などの育成に向けて、自校の裁量を取り入れた教育内容を設定しました。これらの能力を強化するために97単位から103単位に増え、さらに、能力を習得するために教授方法も多様化し、シミュレーション教育、アクティブラーニング、情報通信技術（ICT）活用等を実施しながら、気づく、思考・洞察する、まとめる、自分の言葉で伝える場面を多く設けました。

看護の機能や役割が時代とともに変化しても、看護の本質は変わりません。人間（集団）を対象とする活動の基盤となる倫理観の育成も重要になってきます。そこで、設置母体である社会福祉法人埼玉医療福祉会の基本理念である「限りなき愛」を本校の教育のミッションとし、人としての尊厳を大切にし、信頼の基に、安心と安全の中で人間愛のあるサービスの提供ができる看護師の養成を目指しています。また、みなさんは将来看護専門職として社会的使命を果たす責務があります。今後ますます科学や医療が進歩し、社会的価値の変化に伴い多様化する人々の健康上のニーズに対応していくためには、高い教養と専門的能力が求められます。高度な専門的能力を持ち、より質の高い看護を提供するために、学生のうちから自己の資質の向上に努めることができる人材の育成も目的としています。

さて、みなさんがこれから3年間で学ぼうとしている学科目は、看護実践者に必要な基本的な知識・技術と看護のマインドです。また、履修は看護師国家試験の受験資格要件でもあります。時代の流れをキャッチしながら実践者として、患者のニーズに対応したケアが提供できるよう基礎教育課程で学んでいる学生に教科目ごとの授業要綱（シラバス）を作成しています。シラバスは、講師の授業計画書であり、参考文献などの情報が明記されています。また、履修者へのコメントも記載されています。シラバスは学生が主体的に学習するうえで不可欠なものです。シラバスを大いに活用し、本校の学生として“楽しく”そして“誇り”をもって学んでいただきたいと願っております。

令和4年度実務経験のある教員科目一覧表

学年	分野	科目名	単位数 (時間数)	授業内容	授業区分
1年前期	専門分野 (基礎看護学)	基礎看護技術論Ⅰ	1 (30)	病院で看護師として5年以上実務経験のある教員が担当している。臨床経験で培った看護の対称に必要な看護技術であるコミュニケーション、安全安楽について、臨床経験を活かしながら事例を取り入れた内容に重点を置き教授している。また、記録・報告については情報の伝達および共有の重要性を強調した授業構成にしている。	講義・演習
1年前期	専門分野 (基礎看護学)	基礎看護技術論Ⅱ	1 (30)	大学病院で看護師として5年以上実務経験のある教員が担当している。看護の対象にその実務経験を活かして対象の回復力の促進に影響する「生活環境」を整えることの重要性について教授している。また、対象の生活の場となる療養環境の整備、活動、休息・睡眠について病院という規制のある中でいかに整えていくかその考えと技術を教授している。	講義・演習
1年前期	専門分野 (基礎看護学)	基礎看護技術論Ⅲ	1 (30)	大学病院で消化器、循環器の看護実務経験（5年以上）を有する教員が、その実務経験を活かして、日常生活援助技術である食事、排泄の項目について、自身の実体験を踏まえながら教授している。これらの項目は臨床においては、頻度の高い看護技術であるため、さまざまな対象に適切な援助ができるように、患者設定した事例で食事の介助、排泄の介助技術について、多くの時間を費やし演習を実施している	講義・演習
1年前期	専門分野 (基礎看護学)	基礎看護技術論Ⅳ	1 (30)	大学病院で循環器、脳血管疾患の看護実務経験（5年以上）を有する教員が、その実務経験を活かして、日常生活援助技術である衣生活、清潔の項目について、自身の実体験を踏まえながら教授している。これらの項目は臨床においては、頻度の高い看護技術であるため、さまざまな対象に適切な援助ができるように、患者設定した事例で更衣、清拭・洗髪・口腔ケア等の清潔に保つ技術について、多くの時間を費やし演習を実施している。	講義・演習
1年前期	専門分野 (基礎看護学)	地域看護学概論	1 (15)	大学病院で看護師として5年以上実務経験のある教員がその実務経験を活かして人と人がつながり、協力し合って生活していることの大切さや地域で生活する人々の健康と暮らしを守るための制度や看護活動について教授する。	講義
1年後期	専門分野 (基礎看護学)	基礎看護技術論Ⅴ	1 (30)	大学病院で5年以上実務経験した教員がその実務経験を活かして呼吸・血圧・体温・脈拍（バイタルサイン）について教授している。臨床業務でもとりわけ重要な業務に位置づけている基本技術の1つであり、教員は豊富な実務経験を活かしながら、基本的な測定技術をまず講義でおさえ、さらに学生の理解が深まるよう、設定した患者の事例を通して演習を行い、学生の技術習得状況を確認している。この科目は対象の健康レベルを評価していくうえで、重要な科目である。	講義・演習
1年後期	専門分野 (基礎看護学)	基礎看護技術論Ⅵ	1 (30)	大学病院で5年以上実務経験がある教員が、自身の実務経験を活かして、病院勤務で経験した診療・検査・処置の技術について、実務経験を活かして教授している。この技術は治療方針にもかかわる技術であるため、正確性を強調しながら自身の実体験を踏まえて採血・与薬・注射の項目については演習を実施している。正確な技術が習得できるように臨床現場で行われている方法も取り入れた内容で構成している。薬物療法の看護技術は臨床業務では日常業務になっているため、演習では豊富な実務体験の事例を活かしながら薬物療法を受ける患者の心理についても触れ教授している。	講義・演習
1年後期	専門分野 (基礎看護学)	基礎看護技術論Ⅶ	1 (30)	大学病院で5年以上実務経験のある教員が、本校で採用している「ヘンダーソンの理論」について事例をもとに自身の実務経験を活かしながら看護過程の展開を行う。授業は一方的な講義形式に限らず演習を取り入れ、学生の思考を引き出すように展開している。また、その後更に1事例を提示し、6回の演習では大学病院で5年以上実務経験のある教員がグループ担当として関わっている。学生にとって難易度の高い病態の理解に関しては、教員の実務体験を活かしながら関わっている。臨地実習にでる前の科目として位置付けており看護過程の考え方、展開について理解できるよう教授している。	講義・演習
1年後期	専門分野 (基礎看護学)	在宅看護概論	1 (15)	病院で看護師として5年以上の実務経験がある教員が、その実務経験を活かして、在宅看護の変遷やその社会的背景を理解し、社会のニーズに応じた看護活動の必要性、在宅看護を支える制度、在宅看護を支援する保健医療福祉活動と多職種連携・協働について教授する。	講義
1年後期	専門分野 (成人看護学)	成人看護学概論	1 (30)	病院で看護師として5年以上実務経験のある教員が、その実務経験を活かして、成人期にある対象の健康生活に対する看護の働き、特徴的にみられる健康生活の様相に対応した看護の内容について教授する	講義

1年後期	専門分野 (老年看護学)	老年看護学概論	1 (30)	病院で看護師として5年以上の実務経験がある教員が、その実務経験を活かして、老年期にある対象の特徴、老年看護の役割・機能について教授する。	講義・演習
1年後期	専門分野 (小児看護学)	小児看護学概論	1 (30)	病院で看護師として5年以上実務経験のある教員が、その実務経験を活かして、小児看護の理念を教授する。小児各期の成長・発達の特徴と、小児を取り巻く環境を教授する。	講義
1年後期	専門分野 (母性看護学)	母性看護学概論	1 (15)	病院で助産師として5年以上実務経験のある教員が、その実務経験を活かして、母性看護の対象、母性看護の役割・機能について教授している。	講義
1年後期	専門分野 (精神看護学)	精神看護学概論	1 (30)	病院で看護師として5年以上実務経験のある教員が、その実務経験を活かして、人間の心の成長、発達と心の健康に関連する要因、精神(心)の健康の保持増進に必要な知識を教授している。精神看護学を展開する上で基盤となる倫理や人権について学ぶ。	講義
2年前期	専門分野Ⅰ (基礎看護学)	基礎看護技術論Ⅶ (看護過程)	1 (30)	病院で看護師として勤務経験のある教員が、自身の実務経験を活かしながら、本校で採用している「ヘンダーソンの理論」について理論の概要を自身の実体験を踏まえながら教授したあと、紙上事例の演習を12回実施している。また、紙上事例はグループワークにより進めており、病院で5年以上実務経験のある教員がグループ担当として関わっている。学生にとって難易度の高い病態の理解に関しては、教員の実務体験を活かしながら関わっている。臨地実習にでる前の科目として位置づけており看護過程の考え方、展開について理解できるように教授している	講義・演習
2年前期	専門分野Ⅰ (基礎看護学)	基礎看護技術論Ⅷ (フィジカルアセスメント)	1 (30)	病院で看護師として実務経験(5年以上)を有している教員が1年次の基礎看護技術論Ⅱ(観察、呼吸・循環・体温)の講義・演習での基本技術を抑えながら、教授している。また、臨地実習で経験する機会が多い呼吸器系と腹部のフィジカルアセスメント技術は演習でおさえしている	講義・演習
2年前期	専門分野Ⅱ (成人看護学)	成人看護援助論Ⅰ (急性期における対象の看護)	1 (30)	病院で看護師として実務経験(5年以上)を有している教員が、その実務経験をいかして、急性期にある対象のもつ健康上の問題を解決するための看護を教授している。	講義・演習
2年前期	専門分野Ⅱ (成人看護学)	成人看護援助論Ⅱ (慢性期における対象の看護)	1 (30)	病院で看護師として実務経験(5年以上)を有している教員が、その実務経験をいかして、慢性期にある対象のもつ健康上の問題を解決するための看護を教授している。	講義
2年前期	専門分野Ⅱ (成人看護学)	成人看護援助論Ⅲ (回復期における対象の看護)	1 (30)	病院で看護師として実務経験(5年以上)を有している教員が、その実務経験をいかして、回復期にある対象のもつ健康上の問題を解決するための看護を教授している。	講義
2年前期	専門分野Ⅱ (成人看護学)	成人看護援助論Ⅴ (看護過程の展開)	1 (15)	病院で看護師として実務経験(5年以上)を有している教員が、その実務経験をいかして、成人期にある対象のもつ健康上の問題を解決するための看護課程の考え方、展開について理解できるように教授している。	講義・演習
2年前期	専門分野Ⅱ (老年看護学)	老年看護援助論Ⅰ	1 (30)	病院で看護師として実務経験(5年以上)を有している教員が、その実務経験をいかして、老年期にある対象の生活行動を理解し、基本的な技術を教授している。	講義・演習
2年前期	専門分野Ⅱ (老年看護学)	老年看護援助論Ⅱ	1 (30)	病院で看護師として実務経験(5年以上)を有している教員が、その実務経験をいかして、老年期にある対象のもつ健康上の問題を解決するための援助方法を教授している。	講義
2年前期	専門分野Ⅱ (小児看護学)	小児看護援助論Ⅰ	1 (15)	病院で看護師として実務経験(5年以上)を有している教員が、その実務経験をいかして、健康な小児の養育に必要な知識と日常生活援助技術を教授している。	講義・演習
2年前期	専門分野Ⅱ (小児看護学)	小児看護援助論Ⅱ	1 (30)	病院で看護師として実務経験(5年以上)を有している教員が、その実務経験をいかして、健康問題のある小児と家族の看護、さまざまな健康段階にある小児の看護について教授している。	講義

2年前期	専門分野Ⅱ (母性看護学)	母性看護援助論Ⅰ	1 (30)	病院で助産師として実務経験(5年以上)を有している教員が、その実務経験をいかして、母性各期の健康に影響を及ぼす因子を理解し、健康の増進、対象が役割を果たすために必要な看護を教授している。周産期の母児の看護を通して、生命の神秘性や尊さを知り、生命尊重の価値観を養えるよう教授している。	講義
2年前期	専門分野Ⅱ (精神看護学)	精神看護援助論Ⅰ	1 (30)	病院で看護師として実務経験(5年以上)を有している教員が、その実務経験をいかして、精神障害者の社会復帰、地域生活に必要な制度や今後の精神看護における課題や展望について教授している。コミュニケーションのあり方を考察し、治療的関係の構築や発展過程について学びを深めるよう教授している。	講義
2年前期	専門分野Ⅱ (精神看護学)	精神看護援助論Ⅱ	1 (30)	病院で看護師として実務経験(5年以上)を有している教員が、その実務経験をいかして、代表的な精神疾患、精神障害、精神症状の概要及び看護の実際を教授する。精神障害のある対象への援助方法、精神科病棟における治療環境、安全管理を学ぶ。	講義・演習
2年前期	統合分野 (在宅看護論)	在宅看護概論	1 (30)	病院で看護師として実務経験(5年以上)を有している教員が、その実務経験をいかして、在宅看護の活動の場と機能、役割、対象について教授する。地域ケアシステムと社会資源を理解し調整的機能について考える。諸理論をもとに家族の機能と役割を学ぶ。	講義
2年前期	統合分野 (在宅看護論)	在宅看護援助論Ⅰ (日常生活の援助技術)	1 (30)	病院で看護師として実務経験(5年以上)を有している教員が、その実務経験をいかして、在宅看護に必要な日常生活援助に関する援助技術を教授する。	講義・演習
2年前期	統合分野 (在宅看護論)	在宅看護援助論Ⅱ (医療技術・対象の特性)	1 (30)	病院で看護師として実務経験(5年以上)を有している教員が、その実務経験をいかして在宅看護に必要な医療処置に関する援助技術を教授する。対象の特性をふまえ、在宅看護を行う上での健康課題を学ぶ。	講義・演習
2年後期	専門分野Ⅱ (成人看護学)	成人看護援助論Ⅳ (終末期における対象の看護)	1 (30)	病院で看護師として実務経験(5年以上)を有している教員が、その実務経験をいかして、終末期にある対象のもつ健康上の問題を解決するための看護を教授する。	講義・演習
2年後期	専門分野Ⅱ (老年看護学)	老年看護援助論Ⅲ	1 (15)	病院で看護師として実務経験(5年以上)を有している教員が、その実務経験をいかして、加齢変化によって起こる生活機能の変化、寝たきり予防の援助方法や看護過程の展開を教授する。	講義
2年後期	専門分野Ⅱ (小児看護学)	小児看護援助論Ⅲ	1 (30)	病院で看護師として実務経験(5年以上)を有している教員が、その実務経験をいかして、健康問題のある子どもに対する基本的な援助方法、健康問題のある子どもの回復過程を教授する。	講義・演習
2年後期	専門分野Ⅱ (母性看護学)	母性看護援助論Ⅱ	1 (30)	病院で看護師として実務経験(5年以上)を有している教員が、その実務経験をいかして、母性各期の健康に影響を及ぼす因子を理解し、疾病予防及び対象が役割を果たすために必要な看護を教授する。	講義・演習
2年後期	専門分野Ⅱ (母性看護学)	母性看護援助論Ⅲ	1 (30)	病院で助産師として実務経験(5年以上)を有している教員が、その実務経験をいかして、妊婦・産婦・褥婦および新生児の看護技術を理解し、実施する能力、産褥3日目の褥婦の身体的変化を理解し、観察・分析・報告ができる能力、褥婦の保健指導の必要性を理解し、実施できる能力、感染症の妊婦・不妊症の患者の看護を理解し、心理面への配慮について教授する。	講義・演習
2年後期	専門分野Ⅱ (精神看護学)	精神看護援助論Ⅲ	1 (15)	病院で看護師として実務経験(5年以上)を有している教員が、その実務経験をいかして、精神障害をもつ対象への看護援助の展開を教授する。	講義
2年後期	統合分野 (在宅看護論)	在宅看護援助論Ⅲ	1 (15)	病院で看護師として実務経験(5年以上)を有している教員が、その実務経験をいかして、在宅看護を展開するための援助方法や考え方を教授する。	講義
3年前期	統合分野 (看護の統合と実践)	看護の統合Ⅰ	1 (30)	病院で看護師として実務経験(5年以上)を有している教員が、その実務経験をいかして、医療安全対策や診療の補助業務場面や療養上の世話における医療事故を理解し、患者の安全・安楽を考慮した事故防止の基礎的能力について教授する。	講義・演習

3年後期	統合分野 (看護の統合と実践)	看護の実践	1 (30)	病院で看護師として実務経験（5年以上）を有している教員が、その実務経験をいかして、複数の事例を設定し、必要な援助の優先順位を考え、実施することで、総合的な看護技術を教授する。	講義・演習
3年後期	統合分野 (看護の統合と実践)	看護の統合Ⅱ	1 (30)	病院で看護師として実務経験（5年以上）を有している教員が、その実務経験をいかして、災害看護の基礎的知識を教授する。また、トリージ体験や救急処置・搬送などの演習を取り入れ実践できる能力についても教授する。	講義・演習
3年後期	統合分野 (看護の統合と実践)	看護の統合Ⅲ	1 (15)	病院で看護師として実務経験（5年以上）を有している教員が、その実務経験をいかして、既習の医療・医療保険（診療報酬）の知識をもとに医療チームの一員として看護サービスが実践できる基礎を教授する。チーム医療及び他職種との協働の中で、看護師として看護をマネジメントできる基礎的能力、看護管理の概要を理解し、専門職業人としての意義を高める。	講義・演習
臨 地 実 習					
1年前・後期	専門分野 (臨地実習)	基礎看護学実習Ⅰ	1 (45)	病院で看護師として実務経験（5年以上）を有している教員が、その実務経験をいかして、病院の概要を知り、看護の対象と看護活動を教授する。入院している対象の日常生活および基本的ニーズを理解し、対象が必要としている日常生活援助を実践するための能力を習得できるよう教授する。	実習
2年後期	専門分野Ⅰ (臨地実習)	基礎看護学実習Ⅱ	2 (90)	病院で看護師として実務経験（5年以上）を有している教員が、その実務経験をいかして、看護過程の構成要素と看護過程を展開する基礎的能力について教授する。	実習
2年後期	専門分野Ⅱ (臨地実習)	成人看護学実習Ⅰ (急性期)	2 (90)	病院で看護師として実務経験（5年以上）を有している教員が、その実務経験をいかして、急性期にある対象の特徴、対象の障害の変化に応じた援助について教授する。手術を見学し、手術を受ける対象を身体的・心理的側面についても教授する。	実習
3年前・後期	専門分野Ⅱ (臨地実習)	成人看護学実習Ⅱ (慢性期・回復期)	2 (90)	病院で看護師として実務経験（5年以上）を有している教員が、その実務経験をいかして、慢性期・回復期にある対象の特徴、障害に応じた援助や症状の自己管理、日常生活の自立と社会復帰に向けての援助について教授する。	実習
3年前・後期	専門分野Ⅱ (臨地実習)	成人看護学実習Ⅲ (終末期)	2 (90)	病院で看護師として実務経験（5年以上）を有している教員が、その実務経験をいかして、終末期にある対象の特徴、対象および家族の苦痛緩和とQOL実現のための援助について教授する。	実習
2年後期	専門分野Ⅱ (臨地実習)	老年看護学実習Ⅰ	2 (90)	病院で看護師として実務経験（5年以上）を有している教員が、その実務経験をいかして、対象の老化および健康障害に伴う日常生活の障害、対象に応じた援助、対象の健康の保持、増進への援助について教授する。	実習
2年後期	専門分野Ⅱ (臨地実習)	老年看護学実習Ⅱ	2 (90)	病院で看護師として実務経験（5年以上）を有している教員が、その実務経験をいかして、老年期にある対象の特徴、健康上の問題を統合的に捉え、看護過程の展開ができるよう教授する。	実習
3年前・後期	専門分野Ⅱ (臨地実習)	小児看護学実習	2 (90)	病院で看護師として実務経験（5年以上）を有している教員が、その実務経験をいかして、小児各期の特徴、こどもの成長・発達に応じた養育と対象に応じた看護援助について教授する。	実習
3年前・後期	専門分野Ⅱ (臨地実習)	母性看護学実習	2 (90)	病院で看護師として実務経験（5年以上）を有している教員が、その実務経験をいかして、妊婦・産婦・褥婦および新生児とその家族と看護について教授する。	実習
3年前・後期	専門分野Ⅱ (臨地実習)	精神看護学実習	2 (90)	病院で看護師として実務経験（5年以上）を有している教員が、その実務経験をいかして、精神障害を持つ対象の特性、対象に応じた知識、技術、態度について教授する。	実習

3年前・後期	統合分野 (隣地実習)	在宅看護論実習	2 (90)	病院で看護師として実務経験（5年以上）を有している教員が、その実務経験をいかして、地域における看護活動から、保健、医療、福祉サービスの実際、在宅療養者とその家族に対する看護の役割について教授する。	実習
3年後期	統合分野 (隣地実習)	統合実習	2 (90)	病院で看護師として実務経験（5年以上）を有している教員が、その実務経験をいかして、看護実践能力に必要とされる知識・技術を教授する。専門分野の実習を踏まえ、実務に即した実習を経験することにより、専門職業人としての責任と役割を教授する。	実習
合計単位数 (時間数)			64 (2130)		

授業要綱

科目名	物 理 学	1 単位 30 時間	講義時期	1 年前期
授業の目的：看護学と物理学の接点は意外にも多い。例えば患者の体位を楽に変えるにはどうするか、患者に対し牽引をどの角度でどのくらいの力で加えるべきか、腰に痛みのある人はどのような姿勢をとるべきか、蒸気と熱湯によるやけどの違いは、などなど。本講ではこうした看護にみられるいろいろな事柄を物理ではどのように考え理解するのか、その方法と物理的な考え方を解説する。			担当講師	勝浦 一雄
到達目標： 1. 自然現象を物理的法則に基づいて理解し、説明することができる。 2. 看護場面に物理的な考察を応用し、科学的根拠に基づいた行動ができる。				
D P との関連 D P 3. 健康の保持・増進、疾病の予防、健康の回復に向けた看護が実践できる				
回	授業項目	内 容	授業方法	
1	物理量と単位	物理量を表す単位、単位系、基本単位と組み立て単位、単位の変換、スカラーとベクトル	講義	
2	力とつりあい	力の単位、力の合成、力のつりあい、作用と反作用	講義	
3	力の合成・分解の応用	力の分解、牽引、体位変換	講義	
4	運動法則	速度と加速度、運動の法則	講義	
5	物体に働く力のつりあい	てことトルク、物体にはたらく力のつり合い	講義	
6	体に働く力	筋肉や関節にはたらく力、撃力と骨折	講義	
7	仕事とエネルギー	仕事、エネルギー、仕事率、仕事の原理	講義	
8	エネルギー	エネルギー保存法則、エネルギーの変換	講義	
9	熱	温度と熱量、比熱と熱容量、気体の状態方程式、相変化、熱の伝わり方、体熱の産生と喪失	講義	
10	電磁気 1	電流と電圧、抵抗、オームの法則、直流と交流、電力、電撃	講義	
11	電磁気 2	オームの法則の実験（2 クラスに分かれて行う）	講義	
12	流体	圧力、圧制御ビン、血圧	講義	
13	波動 1	波動、波を表す物理量、音波、共鳴	講義	
14	波動 2	聴覚、ドップラー効果、超音波	講義	
15	試験・まとめ			
評価方法	<p>定期試験 （本試験：60 点以上を合格 不合格の場合は再試験を実施し、60 点以上を合格とする） 成績評価は 100 点満点とし、80 点以上を A、70 点以上を B、60 点以上を C、60 点未満を D で表し、A、B、C は合格、D は不合格とする。 当該科目の出席時間数が規定時間数の 3 分の 2 以上であること（受験資格）</p>			
教科書 参考書	平田雅子「ベッドサイドを科学する一看護に生かす物理学」改訂第 3 版 学研			
備考 履修者への コメント	講義は物理の予備知識を必要としないように行うつもりですが、分からないことがあったら講義中でもいつでもいいのでどんどん質問して下さい。毎回演習問題を出しますが、復習と理解度確認を兼ねて自力で解いてみて下さい。			

授業要綱

科目名	論 理 学	1 単位	30 時間	講義時期	1 年前期
授業の目的：自分の頭で論理的に考えて、その考えや情報をまとめられるようになる。 まとめたものを自分の言葉で、わかりやすく表現できるようにする。				担当講師 小沢 恵美子	
到達目標： 「論理学」という言葉の意味を自分の言葉で説明できる。 論理的に読む、論理的に書くための基礎を身につける。 論理的思考と看護がどのように関連するのかを考え、学ぶ。					
D P との関連 D P 1. 生命に対する愛情と尊厳を基盤としたヒューマンケアに必要な基礎的な力を身につけることができる。 D P 4. 保健医療福祉チームの一員としての役割を自覚し、チームメンバーとして行動することができる。					
回	授業項目	内 容		授業方法	
1	論理的な考え方 ①	ガイダンス、論理とは何か？		講義	
2	論理的な考え方 ②	他者意識について		講義	
3	論理思考の基本 ①	因果関係について		講義	
4	論理思考の基本 ②	因果関係を考える練習		講義	
5	論理思考の基本 ③	イコールの関係		講義	
6	論理思考の基本 ④	抽象化について		講義	
7	論理思考の基本 ⑤	対立関係について		講義	
8	論理思考の基本 ⑥	弁証法について		講義	
9	論理思考を使う ①	論理的な話し方		講義	
10	論理思考を使う ②	論理的な読み方		講義	
11	論理思考を使う ③	論理的な書き方		講義	
12	論理思考を使う ④	論理的な書き方の練習		講義	
13	全体のまとめ ①	論理思考を使って、まとめた文章を書く		講義	
14	全体のまとめ ②	論理思考を使って、800 字程度の文章を書く		講義	
15	試験・まとめ				
評価方法	授業内の課題プリントの提出 (20%)、レポート(30%)、期末テスト(50%)を総合して評価します。 ただし授業の進行によって、割合は若干変更する可能性があります。 成績評価は 100 点満点とし、80 点以上を A、70 点以上を B、60 点以上を C、60 点未満を D で表し、A、B、C は合格、D は不合格とする。 当該科目の出席時間数が規定時間数の 3 分の 2 以上であること (受験資格)				
教科書 参考書	1) 『マンガでやさしくわかる論理思考』 出口 汪 日本能率協会マネジメントセンター (2014 年) 2) 『大人に必要な「読解力」がきちんと身につく読みトレ』 吉田 裕子 大和書房 (2018 年)				
備考 履修者への コメント	国家試験にダイレクトに出題される科目ではありませんが、日常生活や学習することと関連する科目です。そのことを意識しながら、授業に取り組むようにしましょう。				

授業要綱

科目名	心 理 学	1 単 位	3 0 時 間	講義時期	1 年 前 期
授業の目的：心理学を学習することで、学生自身が自己を理解し、患者の心理を理解することができる。そこから患者への接し方を考え、更には職場での同僚や他職種との人間関係をよりよくするための手助けともなる。				担当講師 庄野 伸幸	
到達目標： 人間の心の発達過程を知り、それに伴う行動の原理を学び、心理的側面から人間を理解できる。					
D P と の 関 連 D P 1 . 生命に対する愛情と尊厳を基盤としたヒューマンケアに必要な基礎的な力を身につけることができる D P 2 . 専門的な知識・技術・態度を統合して対象に合った看護過程を展開することができる D P 4 . 保健医療福祉チームの一員としての役割を自覚し、チームメンバーとして行動することができる					
回	授業項目	内 容		授業方法	
1	心理学の紹介	心理学とはどのような学問かについて学ぶ		講義	
2	知覚の心理	外界からの刺激の認識の仕方を学ぶ		講義	
3	学習・記憶の心理	学習することや記憶過程について学ぶ		講義	
4	思考・言語・感情・情緒の心理	感情や言語の発達について学ぶ		講義	
5	適応の心理	防衛機制などの心の動きを学ぶ		講義	
6	発達の心理①	思春期・青年期までの発達過程を学ぶ		講義	
7	発達の心理②	成人期から老年期までの発達過程を学ぶ		講義	
8	知能の心理・知能検査	人間の知能、その測定方法について学ぶ		講義	
9	性格の心理・性格検査①	性格の理論について学ぶ CMI 配布		講義	
10	性格の心理・性格検査②	性格の測定方法を学び、性格検査を体験する CMI 使用		講義	
11	集団の心理	人間の集団内での関係、動きについて学ぶ		講義	
12	カウンセリング①	カウンセリング、心理療法の理論を学ぶ		講義	
13	カウンセリング②	カウンセリングの体験をする		講義	
14	医療と心理学	患者と看護師の心理について学ぶ		講義	
15	試験・まとめ				
評価方法	筆記試験（本試験：60 点以上を合格 不合格の場合は再試験を実施し、60 点以上を合格とする） 成績評価は 100 点満点とし、80 点以上を A、70 点以上を B、60 点以上を C、60 点未満を D で表し、A、B、C は合格、D は不合格とする。 当該科目の出席時間数が規定時間数の 3 分の 2 以上であること（受験資格）				
教科書 参考書	系統看護学講座 基礎分野 心理学（医学書院） 各授業にて随時提示する（プリントで配布）				
備考 履修者への コメント	授業前日には教科書の該当ページを予習し、授業後には学習内容の見直し、復習を行って下さい。さらに余暇を利用して図書室での参考図書、参考文献の確認を行い、学習内容を深めることを心がけてください。				

授業要綱

科目名	社会学	1単位	30時間	講義時期	1年前期
授業の目的：現代社会のしくみを理解し、人と人との“つながり”の現況と課題を理解する。				担当講師 牧野 修也	
到達目標： 1. 自我が社会的に形成されることを理解できる。 2. 現代人のアイデンティティの特性を理解できる。 3. 現代日本における集団の特質と組織現象の特徴と問題点を指摘することができる。 4. 現代社会における社会的排除の現況と要因を説明できる。					
D P との関連 D P 1. 生命に対する愛情と尊厳を基盤としたヒューマンケアに必要な基礎的な力を身につけることができる D P 5. 専門職業人として社会の動向に関心を持ち、自己研鑽し続ける力を身につけることができる					
回	授業項目	内 容		授業方法	
1	社会とは何か？	“つながり”としての社会		講義	
2	人権と社会	社会規範としての人権		講義	
3	自我 ①	自我形成としての社会化		講義	
4	自我 ②	現代人のアイデンティティとメディア		講義	
5	社会的排除	排除は社会的に作られる		講義	
6	コミュニケーション	身体・言語とコミュニケーション		講義	
7	集団	集団類型		講義	
8	官僚制	官僚制原理		講義	
9	マクドナルド化	マクドナルド化・感情労働		講義	
10	地域社会 ①	都市化と都市的生活様式		講義	
11	地域社会 ②	地域移動と人口問題		講義	
12	地域社会 ③	地域住民組織		講義	
13	地域社会 ④	地域社会の存続可能性 コミュニティのあり方		講義	
14	地域社会 ⑤				
15	試験・まとめ				
評価方法	筆記の期末試験（本試験：60点以上を合格 不合格の場合は再試験を実施し、60点以上を合格とする） 成績評価は100点満点とし、80点以上をA、70点以上をB、60点以上をC、60点未満をDで表し、A、B、Cは合格、Dは不合格とする。 当該科目の出席時間数が規定時間数の3分の2以上であること（受験資格）				
教科書 参考書	春日清孝・楠 秀樹・牧野修也 /編著 「《社会のセキュリティ》を生きる」 学文社				
備考 履修者への コメント	われわれが、通常、当たり前であると感じていることは、時代や場所が変われば、当たり前であるとは限らない。たいした根拠のない事柄が、あたかも絶対的に正しい真理と思い込んでいることも多い。そのことが、見えるものを見えなくしてしまっていることも多い。そこから抜け出すこともこの科目の意味です。				

授業要綱

科目名	人間関係論	1 単位	30 時間	講義時期	1 年前期
授業の目的：人間関係論を学ぶことで、学生自身が自己を理解し、患者の心理を理解することができる。そこから患者への接し方を考え、さらには職場での同僚や他職種との対人関係をよりよく築くための手助けともなる。将来、患者と上手なコミュニケーションがとれる看護師を目指す。				担当講師 萩原 裕子 庄野 伸幸	
到達目標： 人間関係を築く過程に必要な知識を学ぶ。又、対人トレーニングを行うことにより共感すること受容することの意義を、体験を通して学ぶことができる。					
D P との関連 D P 1. 生命に対する愛情と尊厳を基盤としたヒューマンケアに必要な基礎的な力を身につけることができる D P 3. 健康の保持・増進、疾病の予防、健康の回復に向けた看護が実践できる D P 4. 保健医療福祉チームの一員としての役割を自覚し、チームメンバーとして行動することができる					
回	授業項目	内 容		授業方法	担当者
1	ガイダンス・コミュニケーション	コミュニケーションとは		講義	萩 原
2	コミュニケーションとは	よい聞き手とは何か		講義	萩 原
3	人の話に耳を傾ける①	患者を支えるために		講義	萩 原
4	人の話に耳を傾ける②	カウンセリング演習		演習	萩 原
5	効果的なコミュニケーションの技法①	事例検討と演習（1）		演習	萩 原
6	効果的なコミュニケーションの技法②	事例検討と演習（2）		演習	萩 原
7	自己の理解と他者との相互関係	アサーション		講義	萩 原
8	カウンセリング 演習①	性格検査（エゴグラム）を体験する		演習	庄 野
9	カウンセリング 演習②	非言語的コミュニケーションについて学ぶ		演習	庄 野
10	カウンセリング 演習③	芸術療法（絵画療法）について学ぶ		演習	庄 野
11	カウンセリング 演習④	グループ療法について学ぶ		演習	庄 野
12	カウンセリング 演習⑤	ブリーフセラピィーの技法について学ぶ①		演習	庄 野
13	カウンセリング 演習⑥	ブリーフセラピィーの技法について学ぶ②		演習	庄 野
14	カウンセリング 演習⑦	ブリーフセラピィーの技法について学ぶ③		演習	庄 野
15	試験・まとめ				
評価方法	筆記試験（本試験：60 点以上を合格 不合格の場合は再試験を実施し、60 点以上を合格とする） 成績評価は 100 点満点とし、80 点以上を A、70 点以上を B、60 点以上を C、60 点未満を D で表し、A、B、C は合格、D は不合格とする。 当該科目の出席時間数が規定時間数の 3 分の 2 以上であること（受験資格）				
教科書 参考書	系統看護学講座 基礎分野 人間関係論（医学書院） プリント教材を適宜配布する				
備考 履修者への コメント	シラバスの内容から、可能な範囲で予習を行ってください。また、授業の後には配布資料と講義内容をあわせ、特に復習に重点を置いてください。				

授業要綱

科目名	英語 I	1 単位 30 時間	講義時期	1 年前期
授業の目的：看護に必要な英語の基礎知識と技能を育成するとともに、英語によるコミュニケーション能力を伸長する。			担当講師 Michael Gilroy Martin Woodall	
到達目標：国際社会化の中、英会話を学び異文化にふれることができる。				
D P との関連 D P 5. 専門職業人として社会の動向に関心を持ち、自己研鑽し続ける力を身につけることができる				
回	授業項目	内 容	授業方法	
1	Power of Language	Introductions, course overview & student obligations.	lecture	
2	Don' t Worry	Giving encouragement	lecture	
3	Don' t Worry	Hospital Departments	lecture	
4	How May I help you?	Helping with registration at hospital.	lecture	
5	How May I help you?	Body Parts.	lecture	
6	How are You feeling?	Asking about feelings	lecture	
7	How are You feeling?	Internal organs.	lecture	
8	Could You fill in this Medical questionnaire?	Filling in medical questionnaires.	lecture	
9	Could You fill in this Medical questionnaire?	Diseases (internal Medicine)	lecture	
10	Take the elevator, please.	Giving directions in hospitals.	lecture	
11	Take the elevator, please.	Diseases and injuries.	lecture	
12	What are your symptoms	Asking about symptoms.	lecture	
13	What are your symptoms	Symptoms in the upper body.	lecture	
14	Where does it hurt?	Asking about pain, Symptoms in the lower body.	lecture	
15	Test・まとめ			
評価方法	Test (本試験：60 点以上を合格 不合格の場合は再試験を実施し、60 点以上を合格とする) 成績評価は 100 点満点とし、80 点以上を A、70 点以上を B、60 点以上を C、60 点未満を D で表し、A、B、C は合格、D は不合格とする。当該科目の出席時間数が規定時間数の 3 分の 2 以上であること (受験資格)			
教科書 参考書	Lifesaver-Basic English in Medical Situations. New Edition			
備考 履修者への コメント				

授業要綱

科目名 保健体育		1 単位 1 5 時間	講義時期 1 年前期	
授業の目的： 身体活動を実施するにあたって、基本的な人間の機能とその応用生理について、講義を受講することで理解を深める。			担当講師 宮崎 正己	
到達目標： 身体活動を实践するうえでの、その機能や生理に関する知識を深めることを目標とする。				
回	授業項目	内 容	授業方法	担当者
1	運動プログラム 作成条件	運動プログラム作成のための理論 運動プログラム作成の条件の解説	講義	宮崎
2	持久的運動とは	持久的運動が今の自分に適した運動かを考える	講義	宮崎
3	筋力トレーニング ストレッチング	実践可能な筋力トレーニングを考える 動的・静的ストレッチングの使い分け	講義	宮崎
4	エネルギー（基礎代謝） エネルギーの連続体	エネルギーの基本的な概念と基礎代謝を理解する エネルギーの連続体の概念と燃料について理解する	講義	宮崎
5	回復過程・疲労	運動回復過程と疲労について、理解を深める 人間にとって疲労とは？疲労について理解を深める	講義	宮崎
6	酸素運搬系 身体組成・栄養・運動能力	運動中の呼吸と循環の理解を深める 身体組成・栄養・運動能力について、理解を深める	講義	宮崎
7	暑さとその対策	温熱環境・熱射病対策について、理解を深める	講義	宮崎
	試験			
評価方法	定期試験 （本試験：60 点以上を合格 不合格の場合は再試験を実施し、60 点以上を合格とする） 成績評価は 100 点満点とし、80 点以上を A、70 点以上を B、60 点以上を C、60 点未満を D で表し、A、B、C は合格、D は不合格とする。 当該科目の出席時間数が規定時間数の 3 分の 2 以上であること（受験資格）			
教科書 参考書	プリントを配布する。			
備考 履修者への コメント				

授業要綱

科目名	解剖生理学 I		1 単位 30 時間	講義時期	1 年前期
授業の目的：看護学を志すものとして、基本となる「人体の構造と機能」の知識の習得を第一の目的とし、疾病予防、疾病からの回復、健康の維持増進の援助者となるための基礎を築き、これらの知識と臨床とのつながりを考えられる能力を養う。			担当講師 青地 英和		
到達目標： ・人体の構造と機能を学習する上で基となる概念を理解する。 ・人体の全体像を理解し、循環器系・呼吸器系・消化器系に関わる構造と成り立ち、機能を説明できるとともに、各器官間の関わりについても説明できる。					
D P との関連 D P 2. 専門的な知識・技術・態度を統合して対象に合った看護過程を展開することができる D P 3. 健康の保持・増進、疾病の予防、健康の回復に向けた看護が実践できる					
回	授業項目	内 容		授業方法	
1	解剖生理学を学ぶ基礎知識 1	人体の構造と機能を学ぶために 形からみた人体、構造からみた人体		講義	
2	解剖生理学を学ぶ基礎知識 2	人体の構造と区分、部位と器官		講義	
3	解剖生理学を学ぶ基礎知識 3	素材からみた人体		講義	
4	血液循環とその調節 1	循環器系の構成		講義	
5	血液循環とその調節 2	心臓の構造と拍出機能		講義	
6	血液循環とその調節 3	末梢循環系の構造 リンパとリンパ管		講義	
7	血液循環とその調節 4	血液循環の調節		講義	
8	呼吸と血液のはたらき 1	呼吸器の構造		講義	
9	呼吸と血液のはたらき 2	呼吸運動と呼吸筋		講義	
10	呼吸と血液のはたらき 3	肺の循環と血流 呼吸運動の調節		講義	
11	呼吸と血液のはたらき 4	血液成分の組成と機能		講義	
12	栄養の消化と吸収 1	上部消化管の構造と機能		講義	
13	栄養の消化と吸収 2	下部消化管の構造と機能		講義	
14	栄養の消化と吸収 3	膵臓、肝臓、胆嚢の構造と機能 腹膜の構造		講義	
15	試験・まとめ				
評価方法	<p>終講試験（本試験：60 点以上を合格 不合格の場合は再試験を実施し、60 点以上を合格とする） 終講試験成績に課題評価・学習達成度確認テスト点数を 20%程度上限に加味 成績評価は 100 点満点とし、80 点以上を A、70 点以上を B、60 点以上を C、60 点未満を D で表し、A、B、C は合格、D は不合格とする。 当該科目の出席時間数が規定時間数の 3 分の 2 以上であること（受験資格）</p>				
教科書 参考書	<p>系統看護学講座 専門基礎分野 人体の構造と機能[1] 解剖生理学（医学書院）</p>				
備考 履修者への コメント	<p>講義ではさまざまな人体の構造と、それぞれに関わる機能が解説される。入学し最初の基礎医学の講義となるので教科書や配布資料をもとに復習をおこない、主体的に学習に取り組んでほしい。</p>				

授業要綱

科目名 解剖生理学Ⅱ		1単位 30時間	講義時期 1年前期
授業の目的：看護学を志すものとして、基本となる「人体の構造と機能」の知識の習得を第一の目的とし、疾病予防、疾病からの回復、健康の維持増進の援助者となるための基礎を築き、これらの知識と臨床とのつながりを考えられる能力を養う。		担当講師 青地 英和	
到達目標： ・泌尿器系、運動系と神経系、生殖器系の構造と成り立ちを理解し、各器官間の関わりや機能について説明できる。 ・正常な構造と機能の学習を通して、今後学習する基礎医学や、病気と治療の講義に活かし、理解を深めることができる。			
DPとの関連 DP1. 生命に対する愛情と尊厳を基盤としたヒューマンケアに必要な基礎的な力を身につけることができる DP2. 専門的な知識・技術・態度を統合して対象に合った看護過程を展開することができる DP3. 健康の保持・増進、疾病の予防、健康の回復に向けた看護が実践できる			
回	授業項目	内 容	授業方法
1	体液の調節と尿の生成	泌尿器系の概要 腎臓と排尿路	講義
2	内臓機能の調節	自律神経とホルモンによる機能調節	講義
3	身体の支持と運動 1	運動器系の構成 骨格と骨の連結	講義
4	身体の支持と運動 2	全身の骨格	講義
5	身体の支持と運動 3	骨格筋の構造 全身の骨格筋	講義
6	身体の支持と運動 4	骨格筋の構造と機能	講義
7	情報の受容と処理 1	神経系の構造と機能	講義
8	情報の受容と処理 2	脳と脊髄	講義
9	情報の受容と処理 3	脊髄と脳神経 脳の高次機能	講義
10	情報の受容と処理 4	上行性および下行性伝導路 視覚器・聴覚器の構造と機能	講義
11	外部環境からの防御	皮膚の構造と機能、	講義
12	生殖・発生のしくみ 1	生殖器系の構成	講義
13	生殖・発生のしくみ 2	生殖器系の構造と機能、生殖細胞	講義
14	生殖・発生のしくみ 3	受精と胎児の発生 胎児と胎盤	講義
15	試験・まとめ		
	解剖見学実習	埼玉医科大学医学部にて解剖実習室見学	実習
評価方法	終講試験（本試験：60点以上を合格 不合格の場合は再試験を実施し、60点以上を合格とする） 終講試験成績に課題評価・学習達成度確認テスト点数を20%程度上限に加味する。 成績評価は100点満点とし、80点以上をA、70点以上をB、60点以上をC、60点未満をDで表し、A、B、Cは合格、Dは不合格とする。 当該科目の出席時間数が規定時間数の3分の2以上であること（受験資格）		
教科書 参考書	系統看護学講座 専門基礎分野 人体の構造と機能[1] 解剖生理学（医学書院）		
備考 履修者への コメント	解剖生理学Ⅰに引き続き、人体の構造と機能の学習すべき内容は多岐に涉と共に、複雑となる。 そのため、講義内容は必ず復習を行うなど、主体的に学習に取り組んでほしい。		

授業要綱

科目名	解剖生理学Ⅲ		1単位 30時間	講義時期	1年前期
授業の目的	ヒトの身体の構造についての十分な理解の上で、その正常な働きを正確に理解して把握し、さらに病態で生じる現象（病理）の基本を学習する。			担当講師 平沢 統 田丸 文信 伊丹 千晶 佐藤 寛栄	
到達目標	正常人体機能の基本動作原理と恒常性維持機構を主体的・体系的に学び、それらが破綻した場合である疾患の病態を理解する応用力や考察力を養う。				
D Pとの関連 D P 2. 専門的な知識・技術・態度を統合して対象に合った看護過程を展開することができる D P 3. 健康の保持・増進、疾病の予防、健康の回復に向けた看護が実践できる					
回	授業項目	内 容		授業方法	担当者
1	解剖生理学を学ぶための基礎知識1 (第1章)	生理学を学ぶための基礎		講義	田丸
2	解剖生理学を学ぶための基礎知識2 (第1章)	細胞を構成する物質とエネルギーの生成、細胞膜の構造と機能、細胞の増殖		講義	田丸
3	栄養の消化と吸収1 (第2章)	咀嚼と嚥下、胃と小腸における消化と吸収、消化作用の調節		講義	佐藤
4	栄養の消化と吸収2 (第2章)	栄養素の消化と吸収のまとめ、大腸の機能、肝臓の機能		講義	佐藤
5	呼吸と血液のはたらき1 (第3章)	内呼吸と外呼吸、呼吸器と呼吸運動、呼吸気量		講義	佐藤
6	呼吸と血液のはたらき2 (第3章)	ガス交換とガスの運搬、肺の循環と血流、呼吸運動の調節、呼吸器系の病態生理		講義	佐藤
7	呼吸と血液のはたらき3 (第3章)	血液の組成と機能、赤血球、白血球、血小板		講義	平沢
8	呼吸と血液のはたらき4 (第3章)	血漿タンパク質、血液凝固、血液型		講義	平沢
9	血液の循環とその調節1 (第4章)	心臓の興奮とその伝播、心電図、不整脈、心臓の収縮の力学、心拍出量と血圧、心周期、心音		講義	平沢
10	血液の循環とその調節2 (第4章)	血圧、血液の循環、血圧と血流量の調節のメカニズム		講義	平沢
11	血液の循環とその調節3 (第4章)	微小循環の生理学、浮腫、循環器系の病態生理、リンパの循環		講義	平沢
12	体液の調節と尿の生成1 (第5章)	腎臓の機能、糸球体濾過、尿細管と尿の成分の調節 傍糸球体装置		講義	伊丹
13	体液の調節と尿の生成2 (第5章)	クリアランスと糸球体濾過量、腎臓から分泌される生理活性物質、尿の貯蔵と排尿		講義	伊丹
14	体液の調節と尿の生成3 (第5章)	体液の調節、酸塩基平衡		講義	伊丹
15	試験・まとめ				
評価方法	筆記試験（本試験：60点以上を合格 不合格の場合は再試験を実施し、60点以上を合格とする） 成績評価は100点満点とし、80点以上をA、70点以上をB、60点以上をC、60点未満をDで表し、A、B、Cは合格、Dは不合格とする。当該科目の出席時間数が規定時間数の3分の2以上であること（受験資格）				
教科書 参考書	系統看護学講座 専門基礎分野 人体の構造と機能〔1〕 解剖生理学（医学書院）				
備考 履修者への コメント					

授業要綱

科目名	生 化 学	1 単位	30 時間	講義時期	1 年前期
授業の目的：生命体を構成する化学的構成成分を知り、これらの構成成分が、生体内でどのような役割を担っているのかを学ぶ。このことを通じて、生命現象を化学的側面から理解する。				担当講師 北條 泰嗣 橋爪 幹	
到達目標：糖・脂質・タンパク質・核酸などの生体分子の代謝及び機能を理解し、看護学に必要な生化学の基礎知識を習得する。					
D P との関連 D P 2. 専門的な知識・技術・態度を統合して対象に合った看護過程を展開することができる D P 3. 健康の保持・増進、疾病の予防、健康の回復に向けた看護が実践できる					
回	授業項目	内 容		授業方法	担当者
1	生化学の基礎知識	細胞と細胞小器官		講義	北條
2	糖質	糖質の分類と構造		講義	北條
3	糖質代謝	糖質とエネルギー産生、血糖調節機構		講義	北條
4	脂質	脂質の種類と生体内での役割		講義	北條
5	脂質代謝	生体内での脂質の輸送・分配 脂肪酸の代謝およびコレステロール代謝		講義	北條
6	タンパク質とアミノ酸	タンパク質の構造とアミノ酸代謝		講義	北條
7	総論 1) 糖・タンパク質・ 脂質 (三大栄養素)	三大栄養素のまとめ		講義	北條
8	総論 2) ビタミンと無機質	ビタミンの分類・役割・欠乏症について 無機質の役割・欠乏症について		講義	北條
9	消化と吸収	栄養素の消化と吸収・消化酵素について		講義	橋爪
10	核酸とその代謝	核酸の分類と構造および生合成・分解 核酸に関連する疾患		講義	橋爪
11	遺伝子と遺伝情報	遺伝子と遺伝情報の基礎 遺伝子と遺伝情報に関連する疾患		講義	橋爪
12	タンパク質に関連した疾患	タンパク質の構造・機能に関連した疾患		講義	橋爪
13	酵素とは？	酵素の性質および関連する疾患		講義	橋爪
14	ホルモンとは？	ホルモンの分類と特徴 ホルモンの働き・作用機序と関連する疾患		講義	橋爪
15	試験・まとめ				
評価方法	全講義終了後に定期試験（筆記）を行い、60 点以上を合格とする。（講義中の小テストの点数を加算することがある）。 成績評価は 100 点満点とし、80 点以上を A、70 点以上を B、60 点以上を C、60 点未満を D で表し、A、B、C は合格、D は不合格とする。 当該科目の出席時間数が規定時間数の 3 分の 2 以上であること（受験資格）				
教科書 参考書	系統看護学講座 専門基礎分野 人体と構造の機能 [2] 生化学 三輪一智（医学書院）				
備考 履修者への コメント	特に予備知識は要求しない。授業中でも終了後でも、わからないことに関しては、どんなに小さなことであっても質問すること。				

授業要綱

科目名 病 理 学		1 単 位	1 5 時 間	講義時期 1 年後期	
授業の目的： 病気の成り立ちを進行性病変、退行性病変、循環障害、炎症、腫瘍、先天異常、感染症に分類し、概説する。				担当講師	
到達目標：対象に起こっている病理的状态の理解に必要な疾病の成り立ちについての基礎的知識として原因と病態を理解できる。				石澤 圭介 金 玲 浜田 芽衣	
D P との関連 D P 2 . 専門的な知識・技術・態度を統合して対象に合った看護過程を展開することができる。					
回	授業項目	内 容		授業方法	担当者
1	病理学と臨床医学	病理学と臨床医学の関連性		講義	石澤
2	細胞・組織の傷害、再生と修復	壊死・アポトーシスなどの概念について		講義	金
3	循環障害	ヒトの循環系の理解をふまえて、その異常によって生じる病態を学ぶ		講義	金
4	炎症	炎症の概念、原因と転帰、分類について学ぶ		講義	石澤
5	免疫とアレルギー	ヒトの免疫システムの理解をふまえて、その異常について学ぶ		講義	浜田
6	代謝異常 老化 先天異常	物質代謝とその異常、老化現象、新生児の肺、脳疾患、先天異常症について学ぶ		講義	浜田
7	腫瘍、感染症	腫瘍の定義、分類、悪性腫瘍を理解し、腫瘍の発生診断、治療の概要を学ぶ、		講義	石澤
8	試験				
評価方法	筆記試験（本試験：60 点以上を合格 不合格の場合は再試験を実施し、60 点以上を合格とする） 成績評価は 100 点満点とし、80 点以上を A、70 点以上を B、60 点以上を C、60 点未満を D で表し、A、B、C は合格、D は不合格とする。 当該科目の出席時間数が規定時間数の 3 分の 2 以上であること（受験資格）				
教科書 参考書	カラーで学べる病理学 第 5 版 （ヌーヴェルヒロカワ）				
備考 履修者への コメント					

授業要綱

科目名	医療概論	1 単位	1 5 時間	講義時期	1 年前期
授業の目的：人類にとって宿命ともいえる病、その起源について考え、健康であることを目指した人類の挑戦の歴史を振り返ることで、医療の在り方や看護者の役割を理解する。				担当講師 宮山 徳司	
到達目標：医学の発展の歴史と医療の変遷、社会状況の変化と現代医療の諸問題を理解し、医の倫理について学ぶ。					
D P との関連 D P 1. 生命に対する愛情と尊厳を基盤としたヒューマンケアに必要な基礎的な力を身につけることができる。 D P 3. 健康の保持・増進、疾病の予防、健康の回復に向けた看護が実践できる。 D P 5. 専門職業人として社会の動向に関心を持ち、自己研鑽し続ける力を身につけることができる。					
回	授業項目	内 容			授業方法
1	病の起源と人類の適応	人類の宿命を進化の側面から説明できる。 人間の生物的適応と本能的な行動形式について説明できる。 病であることの意義と QOL (クオリティライフ) について説明できる。			講義
2	医の神々と医学観	現代医療の起源を述べるができる。 医学の変遷と医療の在り方について説明できる。			講義
3	人類にとっての健康づくり	「健康」とは何かについて説明できる。 SOC と健康との関連について考える。			講義
4	仕組みや制度は時代とともにあり	少子高齢・人口減社会が医療に及ぼす影響について説明できる。 保健医療福祉制度創設の背景と理念について説明できる。			講義
5	私たちの生活と健康	地域保健医療計画が目指す方向を説明できる。 都道府県医療ビジョンについて説明できる。 健康危機管理と医療者の役割について考える。			講義
6	演習 (コメント作成)	医療不信を招いた事件の本質を考え、医療者の役割を検討する。 演習テーマ：「杏林大学割りばし死事件」(内容は授業時に配布)			演習
7	演習 (意見交換)	医療不信を招いた事件の本質を考え、医療者の役割を検討する。			演習
8	現代医療の課題 (レポート作成)	医療における市民・患者の義務について考える。 2025 年における医療の課題について述べる。			講義
評価方法	提出されたレポートにより評価する。 ※ レポート課題：「2025 年に向けた医療者の新たな役割」 (本試験：60 点以上を合格 不合格の場合は再試験を実施し、60 点以上を合格とする) 成績評価は 100 点満点とし、80 点以上を A、70 点以上を B、60 点以上を C、60 点未満を D で表し、A、B、C は合格、D は不合格とする。 当該科目の出席時間数が規定時間数の 3 分の 2 以上であること (受験資格)				
教科書 参考書	系統看護学講座 専門基礎分野 健康支援と社会保障制度〔1〕医療概論 (医学書院) ※ 教材として資料を配布するので毎回持参すること。				
備考 履修者への コメント	医学・医療の課題は日常の生活に起因している。そのためには日常の暮らしぶりや社会環境、制度の変遷に関心を持たなければならない。常日頃、新聞やテレビのニュースに触れるように心がけてください。				

授業要綱

科目名	基礎看護学概論 I	1 単位 30 時間	講義時期	1 年前期
授業の目的: 看護学の土台である基礎看護学に位置づけた教科目である。看護の成り立ち・歴史を概観するとともに、看護の主要概念である、人間・環境・健康・看護のキーワードから看護理論について学び、看護とは何かについて考えていく。さらに看護の対象であるその人の暮らしを支えるための看護の機能と役割について学ぶ。また、医療や社会における倫理問題を捉える能力を育成しながら、看護観の芽を育てる素地を創る。		担当講師 藤山 トキ		
到達目標: 1. 看護の概念、健康の概念がわかり、健康レベルに応じた看護の役割・機能について理解できる。 2. 看護の対象である人間を統合体として捉えることができ、倫理観に基づいた看護実践を考える知識が習得できる。 3. 職業としての看護の成立と発展及び看護を取り巻く様々な制度の概要を知り、これからの看護のあり方について考えることができる。				
DP との関連 DP1. 生命に対する深い愛情と尊厳を基盤としてヒューマンケアに必要な基礎的な能力を身につけることができる。 DP2. 専門的な知識・技術・態度を統合して対象に合った看護過程を展開することができる。 DP5. 専門職業人として社会の動向に関心を持ち、自己研鑽し続ける力を身につけることができる。				
回	授業項目	内 容	授業方法	
1	看護とは何か	1) 「看護」とは何か 2) 看護の 3 要素	講義	
2	看護の変遷と看護の定義	1) 看護の歴史の変遷 (1) ナイチンゲール (2) アメリカにおける看護の発展 2) 看護の定義 (1) ICN (2) JNA (3) ANA	講義	
3	看護理論①	1) 看護理論とは 2) ヘンダーソンの看護理論	講義	
4	看護理論②	1) ドロセア＝E＝オレムの看護理論		
5	看護理論③	1) シスター＝カリスタ＝ロイの看護理論		
6	看護の役割と機能	1) 看護行為の本質であるケア（ケアリング）理論と定義 2) 質保証に必要な要件 3) 看護の継続性と連携	講義	
7	看護の対象の理解①	1) 統合体としての人間 (1) ホメオスタシス (2) 成長・発達 (3) ストレス	講義	
8	看護の対象の理解②	1) 対象の「こころ」の理解 (1) 人間の欲求に関する理論 (2) 危機理論	講義	
9	国民の健康状態と生活①	1) 健康の捉え方 (1) WHO の健康の定義 (2) ヘルスプロモーション (3) 予防行動 2) 障害の捉え方	講義	
10	国民の健康状態と生活②	1) 国民の健康状態の全体像 (1) 有訴者率、通院者率 (2) 出生数、死亡の状況 (3) 高齢者人口の推移、平均寿命・健康寿命 (4) 要介護認定者の推移 (5) 世帯 (6) 年齢区分別人口割合の推移	講義	
11	看護の提供者	1) 保健師助産師看護師法 2) 看護師等の人材確保の促進に関する法律 3) 看護職の教育制度 4) 看護に関する諸制度の整備 5) 看護の専門分化 (1) 継続教育 (2) キャリア開発	講義	

12	看護倫理①	1) 倫理と法 2) 職業倫理 (1) 看護職の倫理綱領 (2) ICNの倫理綱領 3) 倫理原則 4) アドボカシー	講義
13	看護倫理②	1) インフォームドコンセント 2) 倫理的ジレンマ	演習
14	看護倫理③	1) 医療・看護をめぐる倫理的問題 (1) アドバンス・ケア・プランニング (意思決定支援) (2) 臓器移植法 (3) 個人情報 (4) アドヒアランス (5) DNAR、BSC (6) 尊厳死	講義
15	試験・まとめ	定期試験 まとめ	
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> 筆記試験 (本試験：60 点以上を合格 不合格の場合は再試験を実施し、60 点以上を合格とする) 成績評価は 100 点満点とし、80 点以上を A、70 点以上を B、60 点以上を C、60 点以下を D で表し、A、B、C は合格、D は不合格とする。 当該科目の出席時間数が規定時間数の 3 分の 2 以上であること (受験資格) 		
教科書	<ul style="list-style-type: none"> 系統看護学講座 専門分野 基礎看護学 [1] 看護学概論 (医学書院) 系統看護学講座 別巻 看護史 (医学書院) 		
参考書	<ul style="list-style-type: none"> 看護覚え書 (現代社) 看護過程を使ったヘンダーソン看護論の実践 (ヌーヴェルヒロカワ) 事例で学ぶ看護理論 (Gakken) 		
備考 履修者への コメント	<ul style="list-style-type: none"> 少子高齢時代がますます進展する社会の中で、「生」「死」という、人の一生のなかでも最も重要な局面に立ち会う職業人を目指していることを十分認識し、看護師としての基本的な知識、及び看護を考える姿勢、更には看護実践の基盤である高い倫理観が求められていることを学んでほしい。 自分が大切にしたいと思う看護の考えや思いを育てる上で、看護の本質としての看護のあり方を学んで、専門職業人として成長できる基盤をつくってほしい。 		

授業要綱

科目名：基礎看護技術論Ⅰ		1単位 30時間	講義時期： 1年前期
授業の目的： 看護の基盤となる考え方を理解し、看護実践を行うために共通する知識、技術、態度を身につける。 また基本技術のうち、対象理解及び人間関係構築の土台となるコミュニケーション技術・観察技術・感染防止の技術について学習する。		担当講師： 吉田 富美子	
到達目標： 1. 看護技術を実践するための知識が理解できる 2. 看護における観察の意義・方法が理解できる 3. 観察技術を使用して模擬患者の観察が実施できる。 4. コミュニケーション過程の基本的要素・種類・効果的なコミュニケーションに必要な技術を理解できる。 5. 関係構築のためのコミュニケーションの基本や効果的なコミュニケーションに必要な技術、医療人として対象に応じたコミュニケーション能力が理解できる。 6. 標準予防策、感染経路別予防策を学び適切に実践できる。 7. 感染性廃棄物の取り扱い、無菌操作について学び実践できる。		実務経験のある教員の科目： 病院で看護師として5年以上実務経験のある教員が担当している。臨床経験で培った看護の対称に必要な看護技術であるコミュニケーション、安全安楽について、臨床経験を活かしながら事例を取り入れた内容に重点を置き教授している。また、記録・報告については情報の伝達および共有の重要性を強調した授業構成にしている。	
DPとの関連 DP1. 生命に対する深い愛情と尊厳を基盤としたヒューマンケアに必要な基本的な力を身につけることができる。 DP3. 健康の保持・増進、疾病の予防、健康回復に関わる看護が実践できる。			
回	授業項目	内 容	授業方法
1	看護技術とは	1) 看護技術とは 2) 看護技術の特徴 3) 看護技術の範囲 4) 看護技術を適切に実践するための要素 5) 看護技術の発展と修得のために	講義
2	観察技術 ①	1) 看護における観察の意義 2) 観察の方法 (1) 看護をするための観察 ・直観的観察法 ・系統的観察法 問診・視診・聴診・打診・触診 (2) 健康観察の評価	講義
3	観察技術 ②	3) 対象を把握するための観察技術	講義 GW
4	観察技術 ③ ④	4) 演習：観察技術の実際 観察結果をもとにグループワーク 観察方法や観察技術について考える	講義
5			
6	コミュニケーションの意義と目的	1) コミュニケーションとは 2) 看護におけるコミュニケーション (1) 目的 (2) 特徴 (3) 重要性	講義
	コミュニケーションの構成要素と成立過程	1) 構成要素と成立過程 2) コミュニケーションの手段 (1) 言語的コミュニケーション (2) 非言語的コミュニケーション 3) ミスコミュニケーション (1) ミスコミュニケーション生じる理由 (2) ミスコミュニケーションを避けるための心構え	
7	関係構築のためのコミュニケーションの基本	1) 接近的行動と非接近的行動 (1) 外見・身だしなみ (2) 表情 (3) 視線 (4) 相手との距離・身体の向き (5) 姿勢・動作 (6) ジェスチャー (7) スキンシップ (8) テリトリー (9) におい (10) 声による表現	講義 GW
8	効果的なコミュニケーションの実際①	1) 傾聴の技術 (1) 傾聴することの重要性 (2) 看護における傾聴 (3) 聴く事の利点・意味・効果 (4) 共感的態度 (5) 聴くための条件を整える (6) 話の聴き方 (7) 意味が理解できないときの対応 2) 情報収集の技術 (1) 必要な情報を得るための技術 (2) オープンエンドクエスチョン (3) クローズドクエスチョン	講義 演習

9	効果的なコミュニケーションの実際②	3) 演習：病床環境における接近的行動 (1) パーソナルエリア (2) 対人距離・角度	演習
10	効果的なコミュニケーションの実際③④	4) 演習：対象へのコミュニケーションの実際	演習
11			
12	コミュニケーション障害への対応	1) コミュニケーションの障害への対応 (1) 特徴 (2) コミュニケーションに必要な身体機能	講義
	看護の学習支援	1) 説明の技術 2) 看護の学習支援、個人・集団指導	
13	感染防止の技術 ①	1) 安全を守る技術 (1) 感染防止の技術 (2) 感染予防の意義と目的 (3) スタンダードプリコーションの基礎知識 (4) 感染経路別予防策 (5) 感染性廃棄物の取り扱い (6) 消毒と滅菌 (7) 無菌操作	講義
14	感染防止の技術 ②③	2) 演習：手指衛生・手指消毒・無菌操作・器具の取り扱い・個人防護具着脱	演習
15			
	試験		
評価方法	筆記試験（本試験：60点以上を合格 不合格の場合は再試験を実施し、60点以上を合格とする） 試験成績には課題の点数を上限10%で加味する 成績評価は100点満点とし、80点以上をA、70点以上をB、60点以上をC、60点未満をDで表し、A、B、Cは合格、Dは不合格とする。 当該科目の出席時間数が規定時間数の3分の2以上であること（受験資格）		
教科書	系統看護学講座 専門分野 基礎看護学 [2] 基礎看護技術 I (医学書院)		
参考書	看護がみえる vol1 基礎看護技術 (メディックメディア) 看護がみえる vol2 臨床看護技術 (メディックメディア)		
備考履修者へのコメント	看護は観察に始まり観察で終わるというように観察は看護の過程で不可欠なものであり、看護専門職として対象を観察することは現状を把握するために欠かすことのできない看護行為です。演習などで観察する力を身につけましょう。また、人間関係の土台となるコミュニケーションスキルが身につくよう、講義や演習・グループワークをしていきます。話を聞く、相手の気持ちを考えた対話ができるように、実践しながら学んでいきましょう。さらに感染防止の技術の重要性を学び知識を習得するのはもちろんのこと確実に実践できるようにしましょう。提出してもらった課題は評価の対象となります。提出期限を守り、意欲的に取り組みましょう		

授業要綱

科目名：基礎看護技術論Ⅱ		1 単位 30 時間	講義時期： 1 年前期
授業の目的： 人間の健康に影響を及ぼす環境と対象が快適な日常生活を送るための調整技術について習得する。 人間にとっての活動の意味を考え、姿勢の保持、運動、活動が心身にもたらす影響や休息と睡眠に関する援助技術について習得する。		担当講師： 関口 寿子	
到達目標： 1. 環境が人間の健康に与える影響について理解できる。 2. 療養生活において看護師が環境を整えることの必要性を理解できる。 3. ベッドメイキングについて基礎的な知識を身につけることができる。 4. 患者の安全・安楽、健康状態を観察しながら臥床患者のシーツ交換ができる。 5. 活動と休息の意義について知り、睡眠障害をもつ対象への援助方法を理解できる。 6. 人間にとっての活動の意味を捉え、基礎知識とボディメカニクスの原理を理解できる。 7. さまざまな体位とその目的を理解し、安楽な体位変換や体位保持に必要な援助技術を習得できる。 8. 車椅子・ストレッチャーの移乗及び移送方法を理解し、援助技術を習得できる。		実務経験のある教員の科目： 大学病院で看護師として 5 年以上実務経験のある教員が担当している。看護の対象にその実務経験を活かして対象の回復力の促進に影響する「生活環境」を整えることの重要性について教授している。また、対象の生活の場となる療養環境の整備、活動、休息・睡眠について病院という規制のある中でいかに整えていくかその考えと技術を教授している。	
DP との関連 DP1. 生命に対する深い愛情と尊厳を基盤としたヒューマンケアに必要な基本的な力を身につけることができる。 DP2. 専門的な知識・技術・態度を統合して対象に合った看護過程を展開することができる。 DP3. 健康の保持・増進、疾病の予防、健康回復に向けた看護が実践できる。			
回	授業項目	内 容	授業方法
1	環境とは	1) 環境における概念 2) 看護における環境 3) 環境と健康 4) 看護における環境調整の重要性	講義
2	療養環境のアセスメント	1) 病室の環境のアセスメントと調整 (1) 病室・病床の選択 (2) 人的環境	講義
3		2) 快適性、安全性、プライバシーに配慮した療養環境について事例検討	演習 GW
4	病床を整える	1) ベッドメイキング 2) リネン交換	講義
5	臥床患者のシーツ交換と快適な療養環境の整備	1) 事例患者の臥床患者のシーツ交換と快適な療養環境の整備	演習
6			
7	活動・休息とは	1) 活動と休息の意義 2) 睡眠の種類 3) 睡眠制御のメカニズム 4) 睡眠障害のアセスメント 5) 睡眠・休息の援助	講義
8	基本的活動の基礎知識	1) よい姿勢 2) ボディメカニクス 3) 体位	講義
9	移動の援助技術①	1) 体位変換 (1) 臥床患者の移動 (2) ファウラー位への移動 (3) 長座位への移動 (4) 端座位への移動 (5) 立位への移動 (6) 歩行の援助	講義
10		2) 体動困難な対象への体位変換、安楽な姿勢の援助技術	演習
11			
12			
13	移動の援助技術②	1) 移乗・移送の援助方法 (1) 車椅子 (2) ストレッチャー	講義
14		2) 患者の移乗・移送の援助技術 (車椅子、ストレッチャー)	演習
15			
	試験		
評価方法	筆記試験 (本試験：60 点以上を合格 不合格の場合は再試験を実施し、60 点以上を合格とする) 成績評価は 100 点満点とし、80 点以上を A、70 点以上を B、60 点以上を C、60 点未満を D で表し、A、B、C は合格、D は不合格とする。当該科目の出席時間数が規定時間数の 3 分の 2 以上であること (受験資格)		
教科書	系統看護学講座 専門分野 基礎看護学 [3] 基礎看護技術Ⅱ (医学書院)		
参考書	看護がみえる vol 1 基礎看護技術 (メディックメディア)		
備考履修者へのコメント	人と環境とは密接な関係にあり、療養環境を整えることは疾患や事故の発生、状態の変化、人間関係に大きな影響を及ぼします。プライバシーやテリトリーを保障しつつ快適で安全な療養生活を送るために必要な知識と技術を学んでいきます。活動・休息では、姿勢の保持、運動、日常の諸活動が睡眠にもたらす影響を学習し、疾患・治療・検査により制限された対象に対する援助方法を学んでいきます。療養環境の調整、睡眠、体位変換、移乗、移送の技術の習得を目指します。講義や演習、視聴覚教材、グループワークを通して知識を得て、技術の習得と援助者として求められる態度も身につけていきましょう。根拠を持った技術習得に向け、手順や留意点、及び自分の身体の動かし方やイメージを持ち主体的に演習・課題に取り組んでいきましょう。		

授業要綱

科目名：基礎看護技術論Ⅲ		1単位 30時間	講義時期： 1年前期
<p>授業の目的： 人間にとって生命を維持するために不可欠である生活行動の基本となる食事・排泄の意義・重要性を理解し、基本的知識と科学的根拠に基づいた原理原則について学習する。対象のニーズに応じた食事・排泄を援助する技術に焦点をあて学習する。</p>		<p>担当講師： 池田 良香</p>	
<p>到達目標： 1. 食事の生理・心理的・社会的意義を理解できる。 2. 栄養状態・食欲・摂取能力に関するアセスメントの視点が理解できる。 3. 食事援助の基礎知識を知り、食事行動に障害がある患者への食事介助が実施できる。 4. 排泄の意義とアセスメントの方法、排泄を促す援助方法を理解できる。 5. 対象の羞恥心に配慮して苦痛や不安なく自然排泄の援助方法を習得できる。 6. 排泄障害時の看護・援助方法を習得できる。 7. 食事と排泄が互いに影響していることについて、考えることができる。</p>		<p>実務経験のある教員の科目： 大学病院で消化器、循環器の看護実務経験（5年以上）を有する教員が、その実務経験を活かして、日常生活援助技術である食事、排泄の項目について、自身の実体験を踏まえながら教授している。これらの項目は臨床においては、頻度の高い看護技術であるため、さまざまな対象に適切な援助ができるように、患者設定した事例で食事の介助、排泄の介助技術について、多くの時間を費やし演習を実施している。</p>	
<p>DPとの関連 DP2. 専門的な知識・技術・態度を統合して対象にあった看護過程を展開することができる。 DP3. 健康の保持・増進、疾病の予防、健康の回復に向けた看護が実践できる。</p>			
回	授業項目	内容	授業方法
1	食事援助技術 ①	1) 食事援助の基礎知識 (1) 食事の意義 (2) 食物を咀嚼・嚥下するメカニズム (3) 消化・吸収について (4) 栄養状態・食欲・摂取能力に関するアセスメントの視点	講義
2	食事援助技術 ②	2) 食事療法について	講義
3	食事援助技術 ③	3) 食事摂取の介助 (1) 経口摂取 ①食事環境 ②介助方法	講義
4	食事援助技術 ④	4) 非経口的栄養法（経管栄養法・中心静脈栄養法）	講義
5	食事援助技術 ⑤⑥	演習：食事の援助 臥床患者への食事介助	演習
6			
7	食事援助技術 ⑦	事例検討：介助が必要な患者への食事援助について考える	演習 (GW)
8	排泄援助技術 ①	1) 排泄の意義 2) 排泄器官の機能とメカニズム 3) 排泄物の正常と異常、観察 4) 排便・排尿障害の原因・誘因	講義
9	排泄援助技術 ②	5) 排泄状態、排泄行動のセルフケア能力に関するアセスメント 6) 自然排尿および自然排便の介助	講義
10	排泄援助技術 ③④	演習：床上排泄援助	演習
11			
12	排泄援助技術 ⑤	事例検討：羞恥心に配慮した床上排泄援助について考える	演習 (GW)
13	排泄援助技術 ⑥	7) 便秘・下痢・排尿障害時の看護と援助 (1) 導尿 (2) 洗腸 (3) 摘便	講義
14	排泄援助技術 ⑦	排泄と食事の関係	演習 (GW)
15	排泄援助技術 ⑧	排泄と食事の関係 発表会	演習 (GW)
試験			
評価方法	<p>筆記試験（本試験：60点以上を合格 不合格の場合は再試験を実施し、60点以上を合格とする） 成績評価は100点満点とし、80点以上をA、70点以上をB、60点以上をC、60点未満をDで表し、A、B、Cは合格、Dは不合格とする。 当該科目の出席時間数が規定時間数の3分の2以上であること（受験資格）</p>		
教科書	系統看護学講座 専門分野 基礎看護学〔3〕 基礎看護技術Ⅱ（医学書院）		
参考書	<p>看護がみえる vol1 基礎看護技術（メディックメディア） 看護がみえる vol2 臨床看護技術（メディックメディア）</p>		
備考 履修者へのコメント	<p>食事・排泄の基本的知識を学習し技術の習得を目指します。 講義や演習、視聴覚教材、グループワークを通して知識・技術・援助者として求められる態度も身につけていきましょう。手順や留意点、及び自分の身体の動かし方やイメージを持ち主体的に演習・課題に取り組んでいきましょう。食物の咀嚼・嚥下、消化吸収、排泄器官や機能など解剖学や生理学の知識も重要となるため、学習を深めて下さい。根拠を持った技術習得に向けた積極的な授業参加と自主練習が必須です。</p>		

授業要綱

科目名：基礎看護技術論Ⅳ		1単位 30時間	講義時期： 1年前期	
授業の目的： 生活行動の基本となる清潔・衣生活の意義・重要性を理解し、基本的知識と科学的根拠に基づいた原理原則について学習する。対象のニーズに応じた清潔援助技術に焦点をあて学習する。			担当講師： 根岸 真樹	
到達目標： 1. 病床での衣生活の基礎知識を知り、衣習慣を形成するための援助方法を理解できる。 2. 皮膚・粘膜の構造と機能を知り、清潔援助の効果と全身への影響を理解できる。 3. 清潔援助の方法の選択とそれぞれの清潔援助の基礎知識を理解できる。 4. 対象に応じた基本的欲求を満たすための援助技術を根拠に基づき、安全・安楽に配慮し援助を実践できる。			実務経験のある教員の科目： 大学病院で循環器、脳血管疾患の看護実務経験（5年以上）を有する教員が、その実務経験を活かして、日常生活援助技術である衣生活、清潔の項目について、自身の実体験を踏まえながら教授している。これらの項目は臨床においては、頻度の高い看護技術であるため、さまざまな対象に適切な援助ができるように、患者設定した事例で更衣、清拭・洗髪・口腔ケア等の清潔に係る技術について、多くの時間を費やし演習を実施している。	
DPとの関連 DP2. 専門的な知識・技術・態度を統合して対象に合った看護過程を展開することができる。 DP3. 健康の保持・増進、疾病の予防、健康回復に関わる看護が実践できる。				
回	授業項目	内 容	授業方法	担当講師名
1	衣生活の援助技術	1) 衣生活援助の基礎知識 (1) 衣服の意義 (2) 被服気候 (3) 病衣の選択（病衣・履物）と管理 2) 衣生活援助の実際	講義	根岸
2	清潔の援助技術①	1) 身体清潔の意義・清潔に対する基礎知識 (1) 皮膚粘膜の構造と機能 (2) 清潔の意義・効果	講義	根岸
3	清潔の援助技術②	(3) 患者に応じた援助の決定と留意点 (4) 入浴と生体反応・洗浄剤の作用	講義	根岸
4	清潔の援助技術③	2) 清潔の援助 (1) 清拭	講義・演習	根岸
5	清潔の援助技術④	(2) 洗髪 洗髪車等の構造と機能	講義・演習	根岸
6	清潔の援助技術⑤	(3) 整容 (4) 眼・耳・鼻の清潔 (5) 爪切り (6) 口腔ケア	講義・演習	根岸
7	清潔援助の実際 ①②	3) 臥床患者の病衣交換・清潔援助について考える 事例検討： (1) 衣服状態の観察 (2) 皮膚・粘膜の状態の観察 (3) 重点的に清潔を保持すべき身体部分の特定 (4) 患者の動作能力をふまえた援助方法・衣類の選択 (5) 安全性・安楽性・動作能力に応じた援助方法 (6) 保温やプライバシーへの配慮 (7) 場所・用具などの方法の選択 (8) コミュニケーション方法 (9) 援助の目的・効果	演習 GW	根岸
8				
9	清潔援助の実際 ③④	演習： 臥床患者の清潔援助 事例検討に基づいた清潔援助（清拭援助）	演習 GW	根岸
10				
11	清潔援助の実際 ⑤⑥	演習： 臥床患者の清潔援助 事例検討に基づいた清潔援助（洗髪援助）	演習 GW	根岸
12				
13	清潔援助の実際 ⑦⑧	演習： 臥床患者の清潔援助 事例検討に基づいた清潔援助（整容・口腔ケア援助）	演習 GW	根岸
14				
15	清潔援助の実際 ⑨	演習に関する発表とリフレクション	講義 GW	根岸
試験				
評価方法	筆記試験（本試験：60点以上を合格 不合格の場合は再試験を実施し、60点以上を合格とする） 技術試験：清潔援助（清拭50点・洗髪50点） （本試験：60点以上を合格 不合格の場合には再試験を実施し技術習得を目指す） 成績評価（筆記試験・技術試験の平均値とする）は100点満点とし、80点以上をA、70点以上をB、60点以上をC、60点未満をDで表し、A、B、Cは合格、Dは不合格とする。 当該科目の出席時間数が規定時間数の3分の2以上であること（受験資格）			
教科書	系統看護学講座 専門分野 基礎看護学〔3〕 基礎看護技術Ⅱ（医学書院）			
参考書	看護がみえる vol1 基礎看護技術（メディックメディア）			
備考 履修者への コメント	日常生活援助技術として清潔・衣生活の基本的知識を学習し技術の習得を目指します。 講義や演習、視聴覚教材、グループワークを通して知識・技術・援助者として求められる態度も身につけていきましょう。手順や留意点、及び自分の身体の動かし方やイメージを持ち主体的に演習・課題に取り組んでいきましょう。皮膚の構造や機能・関節の可動域、清潔援助がもたらす効果といった解剖学や生理学の知識も学習を深めて下さい。技術試験（清潔援助）があるので、積極的に自主練習をおこないましょう。			

授業要綱

科目名 地域看護学概論		1 単位	1 5 時間	講義時期	1 年前期
授業の目的： 1. 人と人がつながり、協力し合って生活していることの大切さを理解する。 2. 地域で生活する人々の健康と暮らしを守るための制度や看護活動を理解する。 3. 自己の生活環境を見直す機会とする。				担当講師 山崎 寛子	
到達目標： 1. 地域で生活する人々の暮らしを理解するとともに、生活環境が健康に与える影響を理解することができる。 2. 地域看護の対象、地域看護活動の目的・活動場所・活動内容を理解することができる。 3. 地域看護を支える制度と地域包括ケアシステムの必要性を理解することができる。				実務経験のある教員の科目： 大学病院で看護師として 5 年以上実務経験のある教員がその実務経験を活かして人と人がつながり、協力し合って生活していることの大切さや地域で生活する人々の健康と暮らしを守るための制度や看護活動について教授する。	
DP との関連： DP 1. 生命に対する深い愛情と尊厳を基盤としたヒューマンケアに必要な基本的な力を身につけることができる。 DP 4. 保健医療福祉チームの一員としての役割を自覚し、チームメンバーとして行動することができる。 DP 5. 専門職業人として社会の動向に関心をもち、自己研鑽し続ける力を身につけることができる。					
回	授業項目	内 容		授業方法	担当者
1	地域看護とは	1) 地域看護の定義 2) 地域で暮らすことを考える		講義・GW	山崎
2	生活環境と健康問題	1) 生活環境が健康に与える影響を考える		GW	山崎
3	生活環境と健康問題	2) 生活環境が健康に与える影響を考える		発表	山崎
4	地域看護活動	1) 地域看護活動の目的・目標 2) 地域看護の機能・担い手		講義	山崎
5	地域看護活動の場と活動の実際	1) 保健センター・保健所 2) 地区組織		講義	山崎
6	地域看護活動の場と活動の実際	3) 事業所・学校 4) 地域包括支援センター 5) 保健・医療・福祉施設と地域看護の関連		講義	山崎
7	地域看護を支える制度	1) 地域保健法 2) 健康増進法 3) 生活保護法 4) 障害者総合支援法		講義	山崎
8	試験				
評価方法	筆記試験：100 点、 (本試験：60 点以上を合格 不合格の場合は再試験を実施し、60 点以上を合格とする 成績評価は 100 点満点とし、80 点以上を A、70 点以上を B、60 点以上を C、60 点未満を D で表し、A、B、C は合格、D は不合格とする。当該科目の出席時間数が規定時間数の 3 分の 2 以上であること (受験資格))				
教科書	1) 系統看護学講座 専門分野 地域・在宅看護論[1] 地域・在宅看護の基盤 医学書院 2) 系統看護学講座 専門分野 地域・在宅看護論[2] 地域・在宅看護の実践 医学書院				
備考 履修者への コメント	事前課題として、自分の住んでいる市町村の地域特性と実施されている保健事業を調べてください。 日常生活場面と照らし合わせながら聴講し、暮らしとは何かを考え、私たちの健康や生活の質がどのように守られているのかを理解してください。				

第 24 回生（1 年生）授業要綱（後期）

授業要綱

科目名	情報科学 I	1 単位	1 5 時間	講義時期	1 年後期
授業の目的：看護学生あるいは看護師として必要な情報処理やコンピュータの基礎を学ぶことによって、医療の情報化に対応できる能力を身につける。				担当講師 鈴木 智	
到達目標：学習者が情報科学、情報リテラシーおよび医療の情報化について基礎的な知識を修得する。 学習者がコンピュータで文書作成ソフト、表計算ソフト、プレゼンテーションソフトを使用するための基礎的な知識を身につける。					
D P との関連 D P 2 . 専門的な知識・技術・態度を統合して対象に合った看護過程を展開することができる					
回	授業項目	内 容		授業方法	
1	医療とコンピュータ	医療の情報化の果たすべき役割、セキュリティ他		講義	
2	コンピュータの基本的な使い方 E x c e l 1	基本的な操作、データ入力、グラフ作成		演習	
3	E x c e l 2	関数の使い方について、書式の変更		演習	
4	W o r d	文書作成、文字の装飾、図の挿入、罫線の挿入		演習	
5	P o w e r P o i n t 1	スライドの作成、スライドの装飾、図の挿入		演習	
6	P o w e r P o i n t 2	スライドのアニメーション追加、画像編集		演習	
7	P o w e r P o i n t 3	作成したスライドを用いた発表		演習	
8	試験				
評価方法	筆記試験：客観 (本試験：60 点以上を合格 不合格の場合は再試験を実施し、60 点以上を合格とする) コンピュータ演習による課題提出をする必要がある。 成績評価は 100 点満点とし、80 点以上を A、70 点以上を B、60 点以上を C、60 点未満を D で表し、A、B、C は合格、D は不合格とする。当該科目の出席時間数が規定時間数の 3 分の 2 以上であること (受験資格)				
教科書 参考書	看護・医療系のための情報科学入門新訂版 第 2 版 (椎橋実智男、有田彰著) サイオ出版				
備考 履修者への コメント					

授業要綱

科目名	教育学	1 単位	30 時間	講義時期	1 年後期
授業の目的：教育学について基本的な知識を理解する。 今までの自分の経験と結びつけて、教育を考える。 学んだ内容をふまえて、日常生活をとらえなおしてみる。				担当講師 小沢 恵美子	
到達目標：教育学での知見を理解し、今までの自分の経験と結びつけて考える。 グループワークを通して他者の意見、考えをふまえ、教育についての理解を深める。 教育と看護の共通点を考え、自分の言葉で説明できる。					
DP との関連 DP 3. 健康の保持・増進、疾病の予防、健康の回復に向けた看護が実践できる DP 5. 専門職業人として社会の動向に関心を持ち、自己研鑽し続ける力を身につけることができる					
回	授業項目	内 容		授業方法	
1	教育学とは	教育とは何か？ 教育がなされないとどうなるか？		講義	
2	教育学の歴史①	海外、教育観や思想家について		講義	
3	教育学の歴史②	日本の教育観や思想家について		講義	
4	学びのとらえ方 ①	日常における学び、正統的周辺参加について		講義	
5	学びのとらえ方 ②	勉強はおもしろいものなのか？		講義	
6	学習指導	指導の基本的姿勢		講義	
7	教育評価	相対評価と絶対評価、テストについて		講義	
8	生活指導	生活指導の意義・方法		講義	
9	障害児教育	特別支援教育、発達障害について		講義	
10	教育の問題	不登校、いじめについて		講義	
11	グループ発表準備 ①	グループ分け、発表内容を選ぶ、発表資料などの準備		講義	
12	グループ発表準備 ②				
13	グループ発表 ①	各グループごとに発表		講義	
14	グループ発表 ②				
15	試験・まとめ				
評価方法	授業内の課題プリント (20%)、グループ発表 (30%)、期末テスト (50%) を総合して評価します。 ただし授業の進行によって、割合は若干変更する可能性があります。 成績評価は 100 点満点とし、80 点以上を A、70 点以上を B、60 点以上を C、60 点未満を D で表し、A、B、C は合格、D は不合格とする。 当該科目の出席時間数が規定時間数の 3 分の 2 以上であること (受験資格)				
教科書 参考書	必要に応じて資料を配布する				
備考 履修者への コメント	教育学ではグループワークがあります。お互いに協力しながら取り組んでいきましょう。				

授業要綱

科目名	文化人類学	1 単位	30 時間	講義時期	1 年後期
授業の目的：文化の多様性を踏まえ、文化の意味と可変性と不変性を理解する。				担当講師 牧野 修也	
到達目標：1. 文化とは何かを説明できる。 2. 文化の多様性と異文化共生とは何かを説明できる。 3. 家族の文化的特性と変容を説明できる。 4. 現代の医療・生命観の現況と課題について、文化人類学的に説明できる。					
D P との関連 D P 1. 生命に対する愛情と尊厳を基盤としたヒューマンケアに必要な基礎的な力を身につけることができる。					
回	授業項目	内 容		授業方法	
1	文化の多様性	文化の異質性と同質性		講義	
2	文化の定義	「文化」定義と理解		講義	
3	家 族 ①	家族モデルと定義		講義	
4	家 族 ②	家族の現代的状況		講義	
5	家 族 ③	家族機能		講義	
6	家 族 ④	家と近代家族		講義	
7	婚 姻	婚姻の現在的状況		講義	
8	死 ①	死とは何か		講義	
9	死 ②	葬装儀礼と墓		講義	
10	宗 教	宗教の現代的意味		講義	
11	呪 術	呪術と医療		講義	
12	医 療	医療の文化的意味		講義	
13	生命観	人の生命の文化的意味		講義	
14	多文化化	異質な文化との共生		講義	
15	試験・まとめ				
評価方法	筆記試験（本試験：60 点以上を合格 不合格の場合は再試験を実施し、60 点以上を合格とする） 成績評価は 100 点満点とし、80 点以上を A、70 点以上を B、60 点以上を C、60 点未満を D で表し、A、B、C は合格、D は不合格とする。 当該科目の出席時間数が規定時間数の 3 分の 2 以上であること（受験資格）				
教科書 参考書	系統看護学講座 基礎分野 文化人類学（医学書院）				
備考 履修者への コメント	われわれが、通常、当たり前であると感じていることは、時代や場所が変われば、当たり前であるとは限らない。たいした根拠のない事柄が、あたかも絶対的に正しい真理と思い込んでいることも多い。そのことが、見えるものを見えなくしてしまっていることも多い。そこから抜け出すこともこの科目の意味です。				

授業要綱

科目名 英語 II		1 単位 30 時間	講義時期 1 年後期
授業の目的：看護に必要な英語の基礎知識と技能を育成するとともに、英語によるコミュニケーション能力を伸長する。		担当講師 Michael Gilroy Martin Woodall	
到達目標：医学用語を理解し、医療現場で活用できる英語を学ぶことができる。 外国文献の読解ができる。			
回	授業項目	内 容	授業方法
1	Introduction.	Review, and course guidance.	lecture
2	How long have you had these symptoms?	Asking about the duration of symptoms	lecture
3	How long have you had these symptoms?	General Symptoms.	lecture
4	I'm going to take a blood test.	Explaining fasts and treatments.	lecture
5	I'm going to take a blood test.	Tests and examinations.	lecture
6	Let me take your vital signs.	Taking Vital signs	lecture
7	Let me take your vital signs.	Medical terms 1.	lecture
8	Your surgery will be tomorrow	Explaining the pre -surgery protocol	lecture
9	Your surgery will be tomorrow	Anesthesia and pain.	lecture
10	There are three kinds of medicine.	Explaining about medicines	lecture
11	There are three kinds of medicine.	Kinds of medicines.	lecture
12	Are you worried about anything?	Asking about worries of the patient.	lecture
13	Are you worried about anything?	Medical terms 2.	lecture
14	H's time to be discharged.	Giving advice about life after discharged. / Abbreviations.	lecture
15	Test・まとめ		
評価方法	<p>Test（本試験：60 点以上を合格 不合格の場合は再試験を実施し、60 点以上を合格とする） 成績評価は 100 点満点とし、80 点以上を A、70 点以上を B、60 点以上を C、60 点未満を D で表し、A、B、C は合格、D は不合格とする。 当該科目の出席時間数が規定時間数の 3 分の 2 以上であること（受験資格）</p>		
教科書 参考書	Lifesaver Basic English in Medical Situations. New Edition.		
備考 履修者への コメント			

授業要綱

科目名 ICT とその活用		1 単位 30 時間	講義時期 1 年後期	
授業の目的： 日常生活で身近にある情報ネットワークの方法と危険性を理解し、安全に活用することができる。また、個々人の生活や社会に情報社会がどのような影響を及ぼしているのか考えることができる。問題解決に向け、ICT を活用できる基礎的能力を養う。			担当講師 鈴木 智 専任教員	
到達目標： 1. 情報通信ネットワークを支えている基本技術、インターネットの仕組み、情報倫理、情報セキュリティを理解できる。 2. ICT を活用した課題の情報検索、情報の整理、プレゼンテーションを実施できる。 3. ICT を安全に活用し、自己の思考をまとめることができる。				
DP との関連 DP 2. 専門的な知識・技術・態度を統合して対象に合った看護過程を展開することができる				
回	授業項目	内 容	授業方法	担当講師名
1	ICT の活用法と管理	情報（ICT）とは ICT 機器の違い、情報用語の理解 身近な情報ネットワーク（LINE やインターネット） 情報検索の方法	講義	鈴木
2		情報倫理 （情報公開と個人情報の保護、守秘義務など） 情報ネットワークのセキュリティ （不正アクセス、詐欺、セキュリティプロトコル ファイアーウォール他）	講義	鈴木
3	ICT を活用した課題学習	課題の提示と選択 例：オンライン診療・パーソナルヘルスレコード ・病院情報システム*課題選択は学生が選択 グループ：4～5 人/G 発表までのスケジュール説明 課題発表の方法（時間、使用機器他）	講義	教員
4	ICT を活用した課題学習 （グループワーク）	課題学習のスケジュール作成	演習	教員
5		ICT を用いた情報収集の検討	演習	教員
6		得られた情報の整理と分類	演習	教員
7		学生間の意見交換、問題の明確化	演習	教員
8		問題解決に向けた情報の再収集 発表方法の検討（媒体の選択、発表内容他） 質疑応答に対する対策	演習	教員
9	発表会の準備	発表方法（媒体作成）	演習	教員
10		発表原稿の作成 発表時の役割分担	演習	教員
11	ICT を活用した課題発表	発表の準備	演習	教員
12		プレゼンテーション		
13		質疑応答		
14		発表の振り返り（グループ作成）		
15	ICT を活用した発表の振り返り	レポート作成（個人作成） 課題：看護師として学び続けるための ICT の活用について	講義	教員
評価方法	①発表内容の評価：他者評価（発表以外の学生）30 点、教員の評価：30 点 ②課題レポート：40 点 *①と②の合算で評価：100 点 本試験：60 点以上を合格 不合格の場合は再試験（課題レポート：100 点）を実施し、60 点以上を合格とする 成績評価は 100 点満点とし、80 点以上を A、70 点以上を B、60 点以上を C、60 点未満を D で表し、A、B、C は合格、D は不合格とする。当該科目の出席時間数が規定時間数の 3 分の 2 以上であること（受験資格）			
テキスト 参考書	系統看護学講座 別巻 看護情報学 医学書院 エッセンシャル 看護情報学第 3 版 医歯薬出版株式会社			
備考 履修者への コメント	ICT の活用時、情報倫理を遵守し、安全に情報収集すること。 ICT を活用した課題では、学生間で協力しながら、意義ある発表ができるよう工夫して下さい。			

授業要綱

科目名	解剖生理学Ⅳ		1 単位	30 時間	講義時期	1 年後期
授業の目的：ヒトの身体の構造についての十分な理解の上で、その正常な働きを正確に理解して把握し、さらに病態で生じる現象（病理）の基本を学習する。					担当講師	
到達目標：正常人体機能の基本動作原理と恒常性維持機構を主体的・体系的に学び、それらが破綻した場合である疾患の病態を理解する応用力や考察力を養う。					田丸 文信 平沢 統 伊丹 千晶	
D P との関連 D P 2. 専門的な知識・技術・態度を統合して対象に合った看護過程を展開することができる D P 3. 健康の保持・増進、疾病の予防、健康の回復に向けた看護が実践できる						
回	授業項目	内 容		授業方法	担当者	
1	内臓機能の調節 1 (第 6 章)	自律神経による調節		講義	田丸	
2	内臓機能の調節 2 (第 6 章)	ホルモンの種類と作用機序、視床下部－下垂体系		講義	田丸	
3	内臓機能の調節 3 (第 6 章)	甲状腺と副甲状腺、膵臓のホルモン		講義	田丸	
4	内臓機能の調節 4 (第 6 章)	副腎皮質、副腎髄質のホルモン		講義	田丸	
5	内臓機能の調節 5 (第 6 章)	生殖腺ホルモンと女性性周期の調節、 その他の内分泌腺		講義	田丸	
6	身体の支持と運動 (第 7 章)	筋の収縮機構		講義	平沢	
7	情報の受容と処理 1 (第 8 章)	神経細胞と支持細胞、興奮の発生と伝導、 シナプスでの興奮伝達		講義	伊丹	
8	情報の受容と処理 2 (第 8 章)	脳の高次機能、脳波、睡眠、記憶		講義	伊丹	
9	情報の受容と処理 3 (第 8 章)	本能行動、情動行動、中枢神経の障害、 運動機能と下行伝導路		講義	伊丹	
10	情報の受容と処理 4 (第 8 章)	感覚とは何か、体性感覚		講義	伊丹	
11	情報の受容と処理 5 (第 8 章)	疼痛、視覚、		講義	平沢	
12	情報の受容と処理 6 (第 8 章)	聴覚、平衡感覚、味覚、嗅覚		講義	平沢	
13	外部環境からの防御 (第 9 章)	免疫と体温調節の機能		講義	伊丹	
14	生殖・発生と老化のしくみ (第 10 章)	生殖系の機能		講義	田丸	
15	試験・まとめ					
評価方法	筆記試験（本試験：60 点以上を合格 不合格の場合は再試験を実施し、60 点以上を合格とする） 成績評価は 100 点満点とし、80 点以上を A、70 点以上を B、60 点以上を C、60 点未満を D で表し、A、B、C は合格、D は不合格とする。当該科目の出席時間数が規定時間数の 3 分の 2 以上であること（受験資格）					
教科書 参考書	系統看護学講座 専門基礎分野 人体の構造と機能[1] 解剖生理学 (医学書院)					
備考 履修者への コメント						

授業要綱

科目名	病態と治療 I	1 単位	30 時間	講義時期	1 年後期
授業の目的： 1. 呼吸器の解剖・生理を理解し、各呼吸器疾患の成因・診断・治療について知る。 2. 代表的な循環器疾患について理解を深め、実践に役立つ知識を学ぶ。 3. 血液病の基礎と病態を理解する。 4. 循環器の解剖・生理を理解する。 心臓血管外科領域の疾患と治療法を知る。 5. 実践に役立つ呼吸器外科の疾患を学ぶ。				担当講師 朝戸 健 早津 仁美 野村 優介 高原 雅和 丹野 巡 山田 祐一 加藤 隆一 伊藤 善啓 朝倉 利久 柳原 章寿	
到達目標： 病因の成り立ちと仕組みを理解し、疾病の形態と機能の変化、その治療と検査を理解できる。					
DP との関連 DP 2. 専門的な知識・技術・態度を統合して対象に合った看護過程を展開することができる DP 3. 健康の保持・増進、疾病の予防、健康の回復に向けた看護が実践できる					
回	授業項目	内 容		授業方法	担当者
1	呼吸器の感染症	肺炎・結核・感冒		講義	
2	肺換気障害	血液ガス、COPD 呼吸機能・間質性肺炎		講義	
3	肺腫瘍	肺癌・悪性胸膜中皮腫		講義	
4	アレルギー性疾患 その他	喘息・サイコイドーシス・過敏性肺炎 S A S (睡眠時無呼吸症候群)・気胸		講義	
5	循環器系 狭心・心筋	狭心症・心筋梗塞		講義	丹野
6	循環器系 高血圧・ショック	高血圧・ショック		講義	丹野
7	循環器系 心不全	心不全		講義	加藤
8	循環器系 不整脈・心電図	不整脈・心電図		講義	山田
9	血液の生理と造血のしくみ	血液の生理と造血のしくみ		講義	伊藤
10	血液の検査について	血液の検査について		講義	伊藤
11	血液疾患について	血液疾患の代表的なものの基礎を学ぶ		講義	伊藤
12	心臓の解剖・生理、心臓弁膜症	心臓の構造と機能 疾患と外科的治療		講義	朝倉
13	虚血性心疾患 大動脈疾患	疾患と外科的治療		講義	朝倉
14	呼吸器外科の疾患と解剖・生理	肺癌、気胸、外傷、肺縦隔の解剖、役立つ生理学		講義	柳原
15	呼吸器外科の周術期管理、その他	術前指導、術後管理、ドレーンの見方、小テスト		講義	柳原
	試験				
評価方法	筆記試験（本試験：60 点以上を合格 不合格の場合は再試験を実施し、60 点以上を合格とする） 成績評価は 100 点満点とし、80 点以上を A、70 点以上を B、60 点以上を C、60 点未満を D で表し、A、B、C は合格、D は不合格とする。 当該科目の出席時間数が規定時間数の 3 分の 2 以上であること（受験資格）				
教科書	系統看護学講座 専門分野 成人看護学 [2] 呼吸器 (医学書院) 系統看護学講座 専門分野 成人看護学 [3] 循環器 (医学書院) 系統看護学講座 専門分野 成人看護学 [4] 血液・造血器 (医学書院) 系統看護学講座 別巻 臨床外科看護各論 (医学書院)				
備考 履修者への コメント					

授業要綱

科目名 病態と治療Ⅱ		1 単位	3 0 時間	講義時期	1 年後期
授業の目的： 1. 主な消化器疾患の概念、病態生理、症候、診断および治療の基本を理解する。 2. 内分泌、代謝疾患の基礎と臨床を理解する。 3. 膠原病、アレルギー、免疫不全疾患の病態、診断、治療について理解する。 4. 主な消化器疾患・一般外科疾患の病態と治療について理解する。				担当講師 水野 卓 伊藤 大輔 和田 琢 合川 公康	
到達目標：病因の成り立ちと仕組みを理解し、疾病の形態と機能の変化、その治療と検査を理解できる。					
DP との関連 DP 2. 専門的な知識・技術・態度を統合して対象に合った看護過程を展開することができる DP 3. 健康の保持・増進、疾病の予防、健康の回復に向けた看護が実践できる					
回	授業項目	内 容		授業方法	担当者
1	消化器系 上部消化管	上部消化管の構造・機能 食道、胃、十二指腸疾患		講義	水野
2	消化器系 下部消化管	下部消化管の構造・機能 小腸、大腸疾患		講義	水野
3	消化器系 肝臓	肝臓の構造・機能 肝炎、肝硬変、肝腫瘍		講義	水野
4	消化器系 胆・膵	胆・膵の構造・機能 胆道、膵疾患		講義	水野
5	内分泌系 内分泌	内分泌の基本 下垂体・甲状腺の疾患		講義	伊藤
6	内分泌系 内分泌	副甲状腺・副腎の疾患 その他の内分泌疾患		講義	伊藤
7	内分泌系 代謝	糖尿病の基本 糖尿病の診断と治療		講義	伊藤
8	内分泌系 代謝	糖尿病の合併症 脂質異常症とその他の代謝疾患		講義	伊藤
9	免疫の基礎・アレルギー	免疫の基本事項 アレルギーの発症型と代表的疾患		講義	和田
10	関節リウマチ 全身性エリテマトーデス	膠原病の概要 関節リウマチ、全身性エリテマトーデス		講義	和田
11	その他の膠原病、AIDS	その他の膠原病、AIDS（後天性免疫不全症候群）		講義	和田
12	腹部救急疾患・ヘルニア・痔疾	腹部救急疾患の診断と治療について理解する。 各種ヘルニア疾患の病態を理解する。 痔疾の種類について理解する。		講義	合川
13	消化管のがん	食道癌・胃癌・大腸癌の病態治療について理解する。 各疾患の術後管理について理解する。 胃切除に特有の後遺症について理解する。		講義	合川
14	肝胆膵領域のがん	肝胆膵領域のがん（肝臓癌、胆道癌、膵臓癌）の 病態と治療について理解する。 胆道の良性疾患（胆石など）について理解する。		講義	合川
15	乳腺・甲状腺・臓器移植	乳腺の疾患について理解する。 乳癌術後の後遺症におけるケアを理解する。 甲状腺疾患の種類を理解する。 臓器移植について理解する。 移植コーディネーターの役割について理解する。		講義	合川
	試験				
評価方法	筆記試験（本試験：60 点以上を合格 不合格の場合は再試験を実施し、60 点以上を合格とする） 成績評価は 100 点満点とし、80 点以上を A、70 点以上を B、60 点以上を C、60 点未満を D で表し、A、B、C は合格、D は不合格とする。 当該科目の出席時間数が規定時間数の 3 分の 2 以上であること（受験資格）				
教科書	系統看護学講座 専門分野	成人看護学 [5] 消化器	(医学書院)		
	系統看護学講座 専門分野	成人看護学 [6] 内分泌・代謝	(医学書院)		
	系統看護学講座 専門分野	成人看護学 [11] アレルギー・膠原病・感染症	(医学書院)		
	系統看護学講座 別巻 2	臨床外科看護各論	(医学書院)		
備考 履修者への コメント					

授業要綱

科目名	病態と治療Ⅲ		1 単位	3 0 時間	講義時期	1 年後期
授業の目的： 1. 腎臓の構造と機能及び代表的な疾患を理解する。 2. 泌尿器領域の病態、診断、治療を理解する。 3. 皮膚の構造、皮疹のみかた、皮膚疾患を理解する。 4. 眼の解剖・生理・疾患を理解する。 5. 歯科・口腔疾患の概要と予防・診療について理解する。 6. 1)耳鼻咽喉頭領域の解剖を理解する。 2)耳鼻咽喉頭領域の代表的疾患の病態と治療を理解する。					担当講師 深谷 大地 袖山 丈男 寺西 悠 高久 裕紀 村上 拓生 吉村 美歩	
到達目標：病因の成り立ちと仕組みを理解し、疾病の形態と機能の変化、その治療と検査を理解できる。 単元の理解を通じ、疾患、病態をイメージできる。						
DP との関連 DP 2. 専門的な知識・技術・態度を統合して対象に合った看護過程を展開することができる。 DP 3. 健康の保持・増進、疾病の予防、健康の回復に向けた看護が実践できる。						
回	授業項目	内 容		授業方法	担当者	
1	腎臓系 ①	腎臓の構造と機能 腎機能検査・急性糸球体腎炎・慢性糸球体腎炎		講義	深谷	
2	腎臓系 ②	急性腎不全・慢性腎不全・腎代替療法		講義	深谷	
3	腎臓系 ③	代表的な腎疾患（ネフローゼなど）		講義	深谷	
4	泌尿器の障害 I	解剖、画像診断、検査、病態生理		講義	寺西	
5	泌尿器の障害 II	感染症、尿路結石など		講義	寺西	
6	泌尿器の障害 III	悪性腫瘍、先天奇形など		講義	寺西	
7	皮膚科学 総論	皮膚の構造と機能 発疹学、検査法、治療について		講義	村上	
8	皮膚科学 各論	湿疹・皮膚炎、熱傷、褥瘡、感染症、悪性腫瘍など		講義	村上	
9	眼科学	総論 眼の構造と機能、検査		講義	袖山	
10	眼科学	各論 代表的な眼疾患（糖尿病網膜症・緑内障・網膜剥離など）		講義	袖山	
11	口腔疾患 総論	口腔解剖、う蝕、歯周病、予防法		講義	高久	
12	口腔疾患 各論	口腔外科疾患、外傷、腫瘍、口腔ケア		講義	高久	
13	耳領域	耳解剖・聴力検査・眼振検査、中耳炎・メニエール病・難聴		講義	吉村	
14	鼻領域	鼻解剖・鼻出血・副鼻腔炎・アレルギー性鼻炎		講義	吉村	
15	咽喉頭領域	咽喉頭解剖・扁桃炎・喉頭蓋炎・声帯ポリープ、癌・気管切開		講義	吉村	
	試験					
評価方法	筆記試験（本試験：60 点以上を合格 不合格の場合は再試験を実施し、60 点以上を合格とする） 成績評価は 100 点満点とし、80 点以上を A、70 点以上を B、60 点以上を C、60 点未満を D で表し、A、B、C は合格、D は不合格とする。 当該科目の出席時間数が規定時間数の 3 分の 2 以上であること（受験資格）					
教科書	系統看護学講座 専門分野 系統看護学講座 専門分野 系統看護学講座 専門分野 系統看護学講座 専門分野 系統看護学講座 専門分野	成人看護学 [8] 成人看護学 [1 2] 成人看護学 [1 3] 成人看護学 [1 4] 成人看護学 [1 5]	腎・泌尿器 皮膚 眼 耳鼻咽喉 歯・口腔	(医学書院) (医学書院) (医学書院) (医学書院) (医学書院)		
備考 履修者への コメント						

授業要綱

科目名	病態と治療Ⅳ		1 単位	30 時間	講義時期	1 年後期
授業の目的： 1. 脳神経内科疾患の病態と治療についての理解を深める。 2. I) 神経機能とその障害、原因疾患を理解する。 II) 脳外疾患の病態を理解する。 III) 脳・神経の障害を理解する。 3. 麻酔の概要を理解する。 4. 骨、筋障害を理解する。 5. 電離放射線について理解し、応用分野を知り、安全な使用を学ぶ。					担当講師 林 健 新井 徳子 藤巻 高光 小林 正人 平田 幸子 中村 智奈 坂口 勝信 關 智史	
到達目標：病因の成り立ちと仕組みを理解し、疾病の形態と機能の変化、その治療と検査が理解できる。						
DP との関連 DP 2. 専門的な知識・技術・態度を統合して対象に合った看護過程を展開することができる DP 3. 健康の保持・増進、疾病の予防、健康の回復に向けた看護が実践できる						
回	授業項目	内 容		授業方法	担当者	
1	脳脊髄の概要と脳血管	中枢神経の解剖生理と脳血管障害の概要		講義	林	
2	末梢神経障害と神経筋疾患	末梢神経・筋肉の解剖と診察法と疾患の理解		講義	新井	
3	神経感染症とてんかん、頭痛	脳の感染症、てんかん、頭痛、中毒性疾患		講義	林	
4	神経変性疾患と認知症	神経変性疾患の症状と治療、認知症		講義	林	
5	I) 脳神経の機能と構造	基本的な機能と構造の理解、検査法		講義	平田	
6	II) 脳神経外科の扱う疾患－1	意識障害、頭蓋内圧亢進 頭部外傷・もやもや病と脳梗塞 脳梗塞に手術はあるのか もやもや病とは		講義	小林	
7	III) 脳神経外科の扱う疾患－2 脳の血管構造を思い出して	①脳血管障害：脳出血とくも膜下出血 ②脳出血：外科治療の適応は ③くも膜下出血：治療法 脳血管れん縮と正常圧水頭症について ④血管内治療について		講義	藤巻	
	IV) 脳神経外科の扱う疾患－3 脳を構築する細胞を思い出して	①脳腫瘍：その分類と発生母地 悪性・良性とは ②画像 ③治療：手術 化学療法 放射線療法		講義		
8	麻酔 ①	麻酔の歴史、薬物、生理		講義	中村	
9	麻酔 ②	全身麻酔、局所麻酔		講義	中村	
10	整形外科 総論	整形外科の治療目的について		講義	坂口	
11	骨折、外傷	ギブスや牽引等の治療について		講義	坂口	
12	脊椎疾患	腰椎疾患について		講義	坂口	
13	関節疾患	代表的な関節疾患について		講義	坂口	
14	電離放射線とヒトとの関わり	・放射線とは？ ・画像への応用 ・医療被曝		講義	關	
15	電離放射線の診療への応用	・放射線治療、画像診断への応用		講義	關	
試験						
評価方法	筆記試験（本試験：60 点以上を合格 不合格の場合は再試験を実施し、60 点以上を合格とする） 成績評価は 100 点満点とし、80 点以上を A、70 点以上を B、60 点以上を C、60 点未満を D で表し、A、B、C は合格、D は不合格とする。 当該科目の出席時間数が規定時間数の 3 分の 2 以上であること（受験資格）					
教科書	系統看護学講座 専門分野 系統看護学講座 専門分野 系統看護学講座 別巻 系統看護学講座 別巻	成人看護学 [7] 成人看護学 [10] 臨床外科看護総論 臨床放射線医学	脳・神経 運動器	(医学書院) (医学書院) (医学書院) (医学書院)		
備考 履修者への コメント						

授業要綱

科目名	微生物学	1 単位	30 時間	講義時期	1 年後期
授業の目的：各病原微生物の特徴を理解し、日常の看護のための滅菌や消毒、感染症の診断や治療、予防などの原理と基本方針について理解する。				担当講師 小林 信春	
到達目標：病原微生物の分類や特徴を理解し、微生物をコントロールするための滅菌や消毒、さらに感染症の診断や治療、予防などの原理と基本方針を理解できる。					
D P との関連 D P 2. 専門的な知識・技術・態度を統合して対象に合った看護過程を展開することができる。 D P 3. 健康の保持・増進、疾病の予防、健康の回復に向けた看護が実践できる。					
回	授業項目	内 容		授業方法	
1	微生物とは・細菌の性質	微生物学の概要、細菌の形態と特徴、遺伝、分類など		講義	
2	真菌・原虫・ウイルスの性質	真菌・原虫・ウイルスの特徴、構造と機能、分類など		講義	
3	感染と感染症	感染の成立から発症・治癒まで、各微生物感染の機構		講義	
4	生体防御機構（1）	自然免疫のしくみ		講義	
5	生体防御機構（2）	獲得免疫のしくみなど		講義	
6	感染症の感染経路と予防	各病原体の感染経路、滅菌と消毒、ワクチンと予防接種		講義	
7	感染症の治療、現状と対策	化学療法の基礎と種類、感染症の現状、問題点、対策		講義	
8	細菌感染症（1）	ブドウ球菌、MRSA、レンサ球菌、緑膿菌など		講義	
9	細菌感染症（2）	腸内細菌、嫌気性菌、結核菌など		講義	
10	細菌感染症（3）	有芽胞菌、スピロヘータ、リケッチア、クラミジアなど		講義	
11	真菌感染症 原虫感染症	深在性真菌症、表在性真菌症 鞭毛虫類、孢子虫類など		講義	
12	ウイルス感染症（1）	ヘルペス、アデノ、パピローマの各ウイルスなど		講義	
13	ウイルス感染症（2）	オルソミクソ、パラミクソ、フラビの各ウイルスなど		講義	
14	ウイルス感染症（3）	コロナ、カリシ、プニヤ、エイズ、肝炎の各ウイルスなど		講義	
15	試験・まとめ				
評価方法	筆記試験（本試験：60 点以上を合格 不合格の場合は再試験を実施し、60 点以上を合格とする） 成績評価は 100 点満点とし、80 点以上を A、70 点以上を B、60 点以上を C、60 点未満を D で表し、A、B、C は合格、D は不合格とする。 当該科目の出席時間数が規定時間数の 3 分の 2 以上であること（受験資格）				
教科書 参考書	系統看護学講座 専門基礎分野 疾病のなりたちと回復の促進 [4] 微生物学（医学書院）				
備考 履修者への コメント	微生物学は、医療現場で必須の基本的な知識を習得する重要な科目です。 病原体の種類は多くて覚えるのが大変ですし、免疫学も難しいのですが、しっかり予習復習をしてほしいと思います。				

授業要綱

科目名	薬理学	1単位	30時間	講義時期	1年後期
授業の目的：薬物の作用メカニズム・生体への作用を理解する。				担当講師 周防 諭 吉川 圭介 柳下 楠 岩佐 健介	
授業の目標：疾患ごとの代表的治療薬の種類・作用点を理解する。 治療薬による生体反応を理解する。					
到達目標：薬物の体内動態を説明できる。 薬物の副作用を説明できる。 疾患ごとの代表的治療薬の種類・作用点を説明できる。					
D P との関連 D P 2. 専門的な知識・技術・態度を統合して対象に合った看護過程を展開することができる D P 3. 健康の保持・増進、疾病の予防、健康の回復に向けた看護が実践できる					
回	授業項目	内 容		授業方法	担当者
1	薬理学総論 ①	オリエンテーション・薬物治療概論		講義	周防
2	薬理学総論 ②	薬物体内動態		講義	周防
3	末梢神経作用薬 (1)	自律神経・コリン作用薬・抗コリン作用薬		講義	周防
4	末梢神経作用薬 (2)	アドレナリン作用薬・抗アドレナリン作用薬・ 全身麻酔薬・局所麻酔薬		講義	周防
5	中枢神経作用薬 (1)	神経変性疾患治療薬・抗精神病薬・抗うつ薬・ 催眠薬		講義	柳下
6	中枢神経作用薬 (2)	気分障害治療薬・パーキンソン病治療薬・ アルツハイマー病治療薬・抗てんかん薬・ 麻薬性鎮痛薬		講義	柳下
7	代謝系作用薬	糖尿病治療薬・高脂血症治療薬・ホルモン		講義	吉川
8	循環系作用薬	強心薬・血管拡張薬		講義	岩佐
9	循環系作用薬	抗不整脈薬・抗高血圧治療薬		講義	岩佐
10	抗炎症薬	抗炎症薬・抗アレルギー薬・痛風治療薬・ 免疫抑制薬		講義	吉川
11	呼吸器・消化器系作用薬	鎮咳薬・去痰薬・気管支拡張薬・抗潰瘍薬・ 肝臓病治療薬・消化管運動改善薬・消化薬		講義	柳下
12	抗感染症薬	抗生剤・合成抗菌剤・抗真菌薬・抗ウイルス薬		講義	柳下
13	抗ガン剤	抗ガン剤の作用機序・副作用		講義	吉川
14	生物学的製剤	ワクチン・免疫グロブリン・サイトカイン		講義	岩佐
15	試験・まとめ				
評価方法	定期試験（筆記試験） （本試験：60点以上を合格 不合格の場合は再試験を実施し、60点以上を合格とする） 成績評価は100点満点とし、80点以上をA、70点以上をB、60点以上をC、60点未満をDで表し、A、B、Cは合格、Dは不合格とする。 当該科目の出席時間数が規定時間数の3分の2以上であること（受験資格）				
教科書	系統看護学講座 専門基礎分野 疾病のなりたちと回復の促進〔3〕 薬理学（医学書院）				
参考書	休み時間の薬理学（休み時間シリーズ）（講談社） ISBN-10: 4061557068 ISBN-13: 978-4061557062				
備考 履修者への コメント					

授業要綱

科目名 健康と保健		1 単位 1 5 時間	講義時期 1 年後期
授業の目的：人々の健康増進や健康回復を支援する看護職を目指す者として、健康への理解を深めるとともに、保健行政の動向や生活者の視点に立ち、健康問題と健康管理・健康づくりなど、健康な生活を確保する取り組みについて理解を深める。		担当講師 藤山 トキ	
到達目標： 1. 健康への理解を深めるために、日本における保健行政の動向がわかる。 2. 日常生活と健康の関連性を知り、健康管理について考えることができる。 3. 健康に影響を及ぼす要因と健康増進に向けた対応についてわかる。			
DP との関連 DP 1. 専門職業人として社会の動向に関心を持ち、自己研鑽し続ける力を身につけることができる。			
回	授業項目	内 容	授業方法
1	健康の概念 健康施策	1) 健康の定義 (WHO) 2) 健康施策 (1) ヘルスプロモーション (2) 国民健康づくり (3) 健康日本 21	講義
2	健康日本 21 (第二次) 日常生活と健康 ①	1) 健康日本 21 (第二次) の内容 (取組みの方向性・目標値) 2) 日常生活と健康管理 (1) 物理・化学的要因と環境づくり	講義
3	日常生活と健康 ②	1) 身体・生理的要因 (1) 睡眠・休養と健康 (2) 食生活と健康 (3) 運動と健康	講義
4	健康に影響を及ぼす要因への対応	1) 飲酒と健康 2) 喫煙と健康 3) 体重異常と健康 4) ストレスと健康	講義
5	健康教育	1) 健康教育の目的と方法 2) 健康教育 (事例)	講義
6	生活習慣病における健康行動理論	1) 健康信念モデル 2) 自己効力感 3) 変化のステージモデル	講義
7	健康行動理論を使った事例検討	1) 健康信念モデルの事例検討 2) 自己効力感の事例検討	演習
8	試 験・まとめ		
評価方法	筆記試験 (本試験：60 点以上を合格 不合格の場合は再試験を実施し、60 点以上を合格とする) 成績評価は 100 点満点とし、80 点以上を A、70 点以上を B、60 点以上を C、60 点未満を D で表し、A、B、C は合格、D は不合格とする。 当該科目の出席時間数が規定時間数の 3 分の 2 以上であること (受験資格)		
教科書 参考書	<ul style="list-style-type: none"> ・ 毎回資料を配布する。 ・ 国民衛生の動向 厚生労働統計 ・ 臨床現場の困ったを解決する看護理論 月刊ナーシング 10 増刊号 (Gakken) ・ やる気を引き出す 8 つのポイント (医歯薬出版株式会社) 		
備考 履修者への コメント	<ul style="list-style-type: none"> ・ 保健医療福祉に関わる分野を学ぶ学生として、わが国の保健行政の動向から、人々の健康増進や健康回復への支援の必要性について考えて欲しい。特に臨地実習でも応用できる健康行動理論について理解を深めて欲しい。 		

授業要綱

科目名	リハビリテーション論	1単位	15時間	講義時期	1年後期
授業の目的：リハビリテーションの概念と基礎を学ぶ。各種疾患のリハビリテーションの理論と手技を学ぶ。				担当講師 倉林 均 前田 恭子	
到達目標：リハビリテーションにおける看護の機能、障害をもつ人々に共通する問題とそれに対する看護の方法論を理解できる。					
DPとの関連 DP2. 専門的な知識・技術・態度を統合して対象に合った看護過程を展開することができる。 DP3. 健康の保持・増進、疾病の予防、健康の回復に向けた看護が実践できる。					
回	授業項目	内 容			授業方法
1	リハビリテーションの概念	リハビリテーションの理念、歴史、制度、障害の評価、受容、理学療法・作業療法・言語療法について学習する。			講義 (倉林)
2	リハビリテーションの基礎	リハビリテーション医学における運動学、神経生理について学習する。物理療法の概念と理論を学習する。			講義 (倉林)
3	神経疾患のリハビリテーション<1>	脳卒中を中心に神経疾患のリハビリテーションを学習する。評価法、装具、歩行器、介護手技などについて学習する。			講義 (倉林)
4	神経疾患のリハビリテーション<2>	嚥下障害、高次脳機能障害、失語症のリハビリテーションなどを学習する。			講義 (前田・倉林)
5	運動器疾患のリハビリテーション	大腿骨頸部骨折を中心に運動器疾患のリハビリテーションを学習する。廃用症候群、褥瘡、転倒について学習する。			講義 (倉林)
6	呼吸・循環器疾患のリハビリテーション	慢性閉塞性肺疾患、虚血性心疾患を中心に呼吸・循環器疾患のリハビリテーションを学習する。			講義 (前田・倉林)
7	総合学習	総合リハビリテーション医学、温熱療法、物理療法について学習する。水治療と入浴の科学を学習する。			講義 (倉林)
8	試験				
評価方法	筆記試験（本試験：60点以上を合格 不合格の場合は再試験を実施し、60点以上を合格とする） 成績評価は100点満点とし、80点以上をA、70点以上をB、60点以上をC、60点未満をDで表し、A、B、Cは合格、Dは不合格とする。 当該科目の出席時間数が規定時間数の3分の2以上であること（受験資格）				
教科書 参考書	系統看護学講座 別巻 リハビリテーション看護（医学書院）				
備考 履修者への コメント					

授業要綱

科目名：基礎看護技術論Ⅴ		1単位 30時間	講義時期： 1年後期
<p>授業の目的：</p> <p>人間の生命活動維持の指標となるバイタルサインの意義・重要性を理解し、基礎的知識と科学的根拠に基づいた原理原則について学習する。健康レベルに応じた対象把握に必要な観察・バイタルサイン測定 of 技術に焦点をあて学習する。</p>		<p>担当講師：</p> <p>吉田 富美子</p>	
<p>到達目標：</p> <p>1. バイタルサインに影響する因子が理解できる</p> <p>2. バイタルサインの測定値と異常、観察やその対応が理解できる。</p> <p>3. バイタルサインの測定方法と留意点があり正確に実施できる。</p> <p>4. 対象の状態に応じた測定部位・測定方法を選択し安全・安楽に実施できる。</p> <p>5. 測定した値をアセスメントできる。</p> <p>6. 記録の意義・目的・法的位置づけ・看護記録の構成が理解でき、記録上の留意点や看護記録の管理方法を学ぶ。</p> <p>7. 報告の意義や方法が理解できる。</p>		<p>実務経験のある教員の科目：</p> <p>大学病院で5年以上実務経験した教員がその実務経験を活かして呼吸・血圧・体温・脈拍（バイタルサイン）について教授している。臨床業務でもとりわけ重要な業務に位置づけている基本技術の1つであり、教員は豊富な実務経験を活かしながら、基本的な測定技術をまず講義でおさえ、さらに学生の理解が深まるよう、設定した患者の事例を通して演習を行い、学生の技術習得状況を確認している。この科目は対象の健康レベルを評価していくうえで、重要な科目である。</p>	
<p>DPとの関連</p> <p>DP2. 専門的な知識・技術・態度を統合して対象に合った看護過程を展開することができる。</p> <p>DP3. 健康の保持・増進、疾病の予防、健康回復に関わる看護が実践できる。</p>			
回	授業項目	内 容	授業方法
1	バイタルサインとは	<p>1) バイタルサインとは</p> <p>(1) バイタルサインの目的と意義</p> <p>(2) バイタルサインに影響する因子</p> <p>(3) 測定のタイミングと基準値の考え方</p> <p>(4) バイタルサインと観察</p>	講義
3	体温	<p>1) 体温に関する基礎知識と測定方法</p> <p>(1) 体温調節</p> <p>(2) 体温の生理的変動因子</p> <p>(3) 体温の基準値と異常・随伴症状</p> <p>(4) 体温測定部位（口腔・腋窩・直腸・鼓膜）</p> <p>(5) 測定方法と注意点</p> <p>(6) アセスメント</p>	講義 演習
3	脈拍①②	<p>1) 脈拍・心拍に関する基礎知識と測定方法</p> <p>(1) 脈拍とは</p> <p>(2) 心拍の調節</p> <p>(3) 心拍数の生理的変動因子</p> <p>(4) 脈拍数の基準値と異常・随伴症状</p> <p>(5) 脈拍の触知部位・測定方法と注意点</p> <p>(6) 測定値のアセスメント (7) 心拍数の聴診部位と心音</p> <p>(8) 聴診器の構造と使用方法</p>	講義 演習
4			
5	呼吸①②	<p>1) 呼吸に関する基礎知識と測定方法</p> <p>(1) 呼吸中枢と呼吸調節</p> <p>(2) 呼吸数の基準値と異常・随伴症状</p> <p>(3) 測定方法と注意点</p> <p>(4) 呼吸異常を示唆する身体運動・症状</p> <p>(5) 呼吸のアセスメント</p>	講義 演習
6			
7	血圧①②	<p>1) 血圧に関する基礎知識と測定方法</p> <p>(1) 血圧の定義</p> <p>(2) 血圧の調節</p> <p>(3) 血圧の生理的変動</p> <p>(4) 血圧の基準値と異常・随伴症状</p> <p>(5) 血圧測定の種類と測定部位</p> <p>(6) 測定方法と注意点</p> <p>(7) 血圧測定の実際（聴診法・触診法）</p>	講義 演習
8			
9	意識	<p>1) 意識に関する基礎知識と意識レベルの評価方法</p> <p>(1) 目的・意識障害の原因</p> <p>(2) 評価スケール</p> <p>(3) 評価方法</p>	講義 演習

10		1) 演習: 事例をもとにバイタルサインの測定をシミュレーションする。	
11	バイタルサインの測定①②	(コミュニケーション方法、観察視点、測定部位の選択など)	演習
12		2) 演習: バイタルサインの測定	
13	バイタルサインの測定③④		演習
14	記録	1) 記録 (1) 記録の意義・目的・法的位置づけ (2) 看護記録の構成 (3) 記録上の注意と管理 (4) 看護記録の実際	講義
15	報告	2) 報告 (1) 報告の意義と方法 (2) 報告の実際	講義 演習
	試験		
評価方法	筆記試験 (本試験: 60 点以上を合格 不合格の場合は再試験を実施し、60 点以上を合格とする) 試験成績には課題点を上限 10%程度で加味する 成績評価 (筆記試験・技術試験の平均値とする) は 100 点満点とし、80 点以上を A、70 点以上を B、60 点以上を C、60 点未満を D で表し、A、B、C は合格、D は不合格とする。 当該科目の出席時間数が規定時間数の 3 分の 2 以上であること (受験資格)		
教科書	系統看護学講座 専門分野 基礎看護学 [2] 基礎看護技術 I (医学書院)		
参考書	看護がみえる vol 3 フィジカルアセスメント (メディックメディア)		
備考 履修者への コメント	バイタルサインは対象の身体の異変を速やかに反映する重要な指標です。そのためバイタルサインの基礎知識の理解はもちろん、正確に確実に測定ができる技術を習得することは必須です。根拠を持った技術習得に向けた積極的な授業参加と手順や注意点をもとに演習に主体的に取り組む姿勢も重要になります。さらに、測定値をアセスメントするためには、それぞれの構造や調節・機能といった解剖学、生理学の理解を深めることが重要となるのでしっかり自己学習や復習をしてください。提出してもらった課題は評価の対象となります。提出期限を守り、意欲的に取り組みましょう。		

授業要綱

科目名：基礎看護技術論Ⅵ (診療の援助技術)		1 単位 30 時間	講義時期： 1 年後期
授業の目的： 診療に伴う援助の意義を理解し、健康の充足・維持増進のために実施される治療、検査、処置などの必要な基本的知識、援助技術の方法と看護を学ぶ。		担当講師： 吉田 富美子	
到達目標： 1. 検査・治療・処置の目的・方法や看護師の役割が理解でき、苦痛や不安の緩和や安全・安楽について考えることができる。 2. 薬物の剤形と特徴を知り、正しい与薬、薬剤の管理方法が理解できる。 3. 与薬の種類と目的、安全に実施するための方法が理解できる。 4. 輸血管理の基礎知識、援助方法を理解できる。		実務経験のある教員の科目： 大学病院で5年以上実務経験がある教員が、自身の実務経験を活かして、病院勤務で経験した診療・検査・処置の技術について、実務経験を活かして教授している。この技術は治療方針にもかかわる技術であるため、正確性を強調しながら自身の実体験を踏まえて採血・与薬・注射の項目については演習を実施している。正確な技術が習得できるように臨床現場で行われている方法も取り入れた内容で構成している。薬物療法の看護技術は臨床業務では日常業務になっているため、演習では豊富な実務体験の事例を活かしながら薬物療法を受ける患者の心理についても触れ教授している。	
DP との関連 DP2. 専門的な知識・技術・態度を統合して対象に合った看護過程を展開することができる。 DP3. 健康の保持・増進、疾病の予防、健康回復に関わる看護が実践できる。			
回	授業項目	内 容	授業方法
1	診察・検査・処置の介助技術 ①	1) 診察の看護 (1) 診察・検査・処置時の看護師の役割 (2) 診察・検査・処置を受ける対象の心理	講義
2	診察・検査・処置の介助技術 ②	1) 検査・処置の介助 (1) X線撮影 (2) コンピュータ断層撮影 (CT) (3) 磁気共鳴画像 (MRI) (4) 内視鏡検査 (5) 超音波検査 (6) 肺機能検査 (7) 核医学検査 (8) 穿刺 (胸腔穿刺・腹腔穿刺・腰椎穿刺・骨髄穿刺)	講義 演習
3	生体情報のモニタリング	1) 生体情報のモニタリング (1) パルスオキシメーター	講義
	検体検査	1) 検体検査 (1) 血液検査 (静脈血・動脈血採血、血糖測定) (2) 尿検査、便検査、喀痰検査	講義
4	静脈採血①②	1) 演習：静脈血採血 (モデル人形を使用) (1) 感染性廃棄物の取り扱い (2) 針刺し事故の防止と対応	演習
5		2) リフレクション	
6	与薬の基礎知識	1) 看護師の役割 (1) 正しい与薬 (2) 薬剤の管理方法 ①医薬品の規定 ②薬剤の保管 ③毒薬、劇薬の管理 ④麻薬の管理 (3) 対象者への支援 2) 与薬の基礎知識 (1) 剤形と投与経路 (2) 薬物動態 (3) 薬効・副作用の観察	講義
7	経口与薬と口腔与薬	1) 経口与薬・口腔内与薬に関する基礎知識と投与方法 (1) 服薬時間と適用	講義
	点眼、点鼻、経皮的与薬、直腸内与薬	1) 点眼、点鼻、経皮的与薬、直腸内与薬に関する基礎と投与方法	
8	注射	1) 注射の基礎知識 (1) 注射方法の種類 (2) 注射筒と注射針について (3) 実施上の責任 (4) 注射の準備 ①薬液の吸い上げ方法 (アンプル・バイアル) ②与薬量の計算	講義

9	与薬の技術①②	1) 皮下注射、皮内注射、筋肉注射 2) 静脈内注射	講義
10 11	与薬の技術③	3) 演習：経口薬（バツカル錠・内服薬・舌下錠）の投与	演習
12	与薬の技術④⑤	4) 演習：経皮・外用薬の投与、坐薬の投与（モデル人形使用）	演習
13 14	注射与薬の技術 ⑧⑨	5) 演習：注射 筋肉内注射・皮下注射（薬液の吸い上げ方法）（モデル人形使用）	演習
15	輸血管理	1) 輸血の管理 (1) 援助の基礎知識 (2) 援助の実勢	講義
	試験		
評価方法	筆記試験（本試験：60点以上を合格 不合格の場合は再試験を実施し、60点以上を合格とする） 試験成績には課題の点数の上限を10%程度で加味する 成績評価は100点満点とし、80点以上をA、70点以上をB、60点以上をC、60点未満をDで表し、A、B、Cは合格、Dは不合格とする。 当該科目の出席時間数が規定時間数の3分の2以上であること（受験資格）		
教科書	系統看護学講座 専門分野 基礎看護学 [3] 基礎看護技術Ⅱ（医学書院）		
参考書	看護がみえる vol 2 臨床看護技術（メディックメディア）		
備考 履修者への コメント	<p>侵襲が大きく対象にとって苦痛・羞恥心を伴う検査・治療・処置の介助は看護師の果たす役割は重要です。苦痛や不安の緩和や安全・安楽について講義や演習を通して考えていきましょう。</p> <p>薬剤の効果や副作用を観察することや薬剤の作用機序、対象への支援、適切に安全で正確な与薬を実施するための知識を学んでいきます。演習ではアンプルやバイアルの薬液の吸い上げやモデル人形を使用し注射・採血を実施します。薬理学、解剖学の知識も深めましょう。提出してもらった課題は評価の対象となります。提出期限を守り、意欲的に取り組みましょう。</p>		

授業要綱

科目名：基礎看護技術論Ⅶ（看護過程）		1 単位 30 時間	講義時期： 1 年後期	
授業の目的： 看護の目標を達成するための科学的方法の1つである看護過程の理論を学び、その活用方法を習得する。			担当講師： 関口 寿子	
到達目標： 1. 看護過程を構成する要素とそのプロセス、また看護過程を用いることの意義を理解できる。 2. 実際の事例をもとに問題解決過程やクリティカルシンキング、リフレクション、倫理的判断といった看護過程の基盤となる考え方について学ぶことができる。 3. ヘンダーソンの理論を用いたアセスメント、看護問題の明確化、計画立案、実施、評価といった看護過程の各段階についてその基本的な考え方と実際を理解できる。			実務経験のある教員科目： 大学病院で5年以上実務経験のある教員が、本校で採用している「ヘンダーソンの理論」について事例をもとに自身の実務経験を活かしながら看護過程の展開を行う。授業は一方的な講義形式に限らず演習を取り入れ、学生の思考を引き出すように展開している。また、その後更に1事例を提示し、6回の演習では大学病院で5年以上実務経験のある教員がグループ担当として関わっている。学生にとって難易度の高い病態の理解に関しては、教員の実務体験を活かしながら関わっている。臨地実習にでる前の科目として位置付けており看護過程の考え方、展開について理解できるよう教授している。	
DP との関連 DP1. 生命に対する深い愛情と尊厳を基盤としたヒューマンケアに必要な基本的な力を身につけることができる。 DP2. 専門的な知識・技術・態度を統合して対象に合った看護過程を展開することができる。 DP3. 健康の保持・増進、疾病の予防、健康の回復に向けた看護が実践できる。				
回	授業項目	内 容	授業方法	担当講師名
1	1. 看護過程とは	1) 看護過程の5つの構成要素 2) 5つの構成要素の関係性 3) 看護過程を用いることの利点	講義	関口
	2. 看護過程を展開する際に基盤となる考え方	1) 問題解決過程 2) クリティカルシンキング 3) 倫理的配慮と価値判断		
2	3. ヘンダーソンの理論とは	1) ヘンダーソンの人間、環境、健康、看護の概念	講義	関口
	4. ヘンダーソンの看護論に基づくアセスメント①	1) アセスメント (1) アセスメントの定義 (2) アセスメントの目的 (3) アセスメントに必要な技術 (4) アセスメントのプロセス 2) 情報収集の基本的な考え方 (1) 基本的欲求の状態 (2) 常在条件 (3) 病理的状态 3) 充足・未充足の判断		
3			演習・講義	関口
4	5. ヘンダーソンの看護論に基づくアセスメント②	1) 病理的状态に基づく病態関連図と全体像の把握 2) 関連図の書き方 3) 看護問題の優先順位の考え方	講義	関口
5			演習・講義	関口
6	6. ヘンダーソンの看護論に基づくアセスメント③	1) 分析・解釈の書き方 (1) 基本的欲求の充足・未充足の判別 (2) 未充足の原因・誘因を検討 (3) 必要としている援助を究明 (4) 分析・解釈のまとめ	講義	関口
	7. ヘンダーソンの看護論に基づく看護問題の明確化	1) 看護診断の定義 2) 看護診断の目的 3) 看護診断に必要な技術 4) 看護診断のプロセス (1) 看護問題とは (2) 看護問題の記述方法		
7			演習	関口
8	8. ヘンダーソンの看護論に基づく計画立案	1) 計画立案の定義 2) 計画立案の目的 3) 計画立案に必要な技術 4) 計画立案のプロセス	講義・演習	関口

9	9. 実施	1) 実施の定義 2) 実施に必要な技術 3) 実施のプロセス	講義	関口
	10. 評価	1) 評価の定義 2) 評価の目的 3) 評価に必要な技術 4) 評価のプロセス		
10	紙上事例 2 を用いた演習①	1) ヘンダーソンの看護論に基づく看護過程の展開 (1) データベース 1~3	演習	担当教員
11	紙上事例 2 を用いた演習②	(2) 関連図	演習	担当教員
12	紙上事例 2 を用いた演習③		演習	担当教員
13	紙上事例 2 を用いた演習④	(3) 分析・解釈、看護問題の明確化	演習	担当教員
14	紙上事例 2 を用いた演習⑤		演習	担当教員
15	紙上事例 2 を用いた演習⑥	(4) 看護計画の立案	演習	担当教員
	試験			
評価方法	筆記試験（紙上事例の提出） （本試験：60 点以上を合格 不合格の場合は再試験（再指導）を実施し、60 点以上を合格とする） 成績評価は 100 点満点とし、80 点以上を A、70 点以上を B、60 点以上を C、60 点未満を D で表し、A、B、C は合格、D は不合格とする。当該科目の出席時間数が規定時間数の 3 分の 2 以上であること（受験資格）			
教科書	系統看護学講座 専門分野 基礎看護学 [2] 基礎看護技術 I （医学書院） 第 4 版 看護過程を使ったヘンダーソン看護論の実践（ヌーベルヒロカワ） 第 4 版 ヘンダーソンの基本的看護に関する看護問題リスト（ヌーベルヒロカワ）			
テキスト	看護の基本となるもの（日本看護協会出版会）			
備考履修者へのコメント	ケアを行うときの思考の一連の流れ、それが看護過程です。看護の対象や家族の状態やニーズを捉え、解決すべき問題とそのための方策を導き出していくには、トレーニングが必要となります。紙上事例をもとに、看護過程に必要な考え方、記録のまとめ方を学んでいきます。教科書や参考書を熟読しましょう。			

授業要綱

科目名 在宅看護概論		1 単位	1 5 時間	講義時期	1 年後期
授業の目的： 1. 在宅看護の変遷やその社会的背景を理解し、社会のニーズに応じた看護活動の必要性を理解する。 2. 在宅看護を支える制度を理解する。 3. 在宅看護を支援する保健医療福祉活動と多職種連携・協働について理解する。				担当講師 山崎 寛子	
到達目標： 1. 在宅看護の変遷とその社会的背景を理解することができる。 2. 在宅看護を支える制度と介護保険で受けられるサービスの内容を理解することができる。 3. 在宅看護活動の場と活動内容を理解することができる。 4. 在宅看護活動における多職種連携の意義を理解することができる。				実務経験のある教員科目 病院で看護師として 5 年以上の実務経験がある教員が、その実務経験を活かして、在宅看護の変遷やその社会的背景を理解し、社会のニーズに応じた看護活動の必要性、在宅看護を支える制度、在宅看護を支援する保健医療福祉活動と多職種連携・協働について教授する。	
DP との関連： DP 4. 保健医療福祉チームの一員としての役割を自覚し、チームメンバーとして行動することができる。 DP 5. 専門職業人として社会の動向に関心をもち、自己研鑽し続ける力を身につけることができる。					
回	授業項目	内 容		授業方法	担当者
1	在宅看護の変遷	1) 在宅看護の変遷とその社会的背景 2) 在宅看護の必要性		講義	山崎
2	在宅看護を支える制度	1) 医療保険制度・医療法・医療介護総合確保推進法 2) 難病法		講義	山崎
3	在宅看護を支える制度	3) 介護保険制度		講義	山崎
4	在宅看護を支える制度	4) 介護保険制度で受けられるサービス		講義	山崎
5	在宅看護を支える制度	5) 訪問看護制度		講義	山崎
6	在宅看護活動の場と活動の実際	1) 訪問看護ステーション		講義	山崎
7	在宅看護活動の場と活動の実際	2) 療養通所介護事業所・看護小規模多機能型居宅介護 3) 介護施設・医療機関 4) 多職種連携と協働の意義		講義	山崎
8	試験				
評価方法	筆記試験：100 点、(本試験：60 点以上を合格 不合格の場合は再試験を実施し、60 点以上を合格とする 成績評価は 100 点満点とし、80 点以上を A、70 点以上を B、60 点以上を C、60 点未満を D で表し、A、B、C は合格、D は不合格とする。当該科目の出席時間数が規定時間数の 3 分の 2 以上であること (受験資格)				
教科書	1) 系統看護学講座 専門分野 地域・在宅看護論[1] 地域・在宅看護の基盤 医学書院 2) 系統看護学講座 専門分野 地域・在宅看護論[2] 地域・在宅看護の実践 医学書院				
備考 履修者への コメント	社会のニーズに応じて在宅看護活動の場が拡大されていることを知り、在宅看護における看護師の役割について考えてください。さらに、安心して在宅での療養生活を送れるようにするために必要な制度やサービス内容、多職種との連携・協働の必要性を理解してください。				

授業要綱

科目名 成人看護学概論		1 単位 30 時間	講義時期 1 年後期	
授業の目的： 1. 成人期にある対象を、人生を歩んでいる生活者として浮き彫りにし、その健康生活に対する看護の働きを理解する。 2. 成人期にある対象に特徴的にみられる健康生活の様相に対応した看護の内容を理解する。		担当講師 加藤 静子 白髭 英雄		
到達目標： 成長発達の視点から、人が心身共に成長・成熟し社会に適応していく過程を理解できる。大人の生活について、その概念を理解できる。大人がどのように人生の意味を探究するかについて学ぶことができる。成人への看護アプローチのさまざまな方法を理解できる。成人の健康生活の特徴について生物学的側面、社会的側面、健康についての意義と行動の側面から理解できる。家庭・地域社会及び職場における成人の健康生活をはぐくむ看護活動 ①個人への支援②健康を支援する環境づくりの視点から学ぶことができる。		実務経験のある教員の科目 病院で看護師として5年以上実務経験のある教員が、その実務経験を活かして、成人期にある対象の健康生活に対する看護の働き、特徴的にみられる健康生活の様相に対応した看護の内容について教授する。		
DP との関連 DP 1. 生命に対する深い愛情と尊厳を基盤としたヒューマンケアに必要な基礎的な力を身につけることができる。 DP 2. 専門的な知識・技術・態度を統合して対象に合った看護過程を展開することができる。				
回	授業項目	内 容	授業方法	担当者
1	成人の生活と健康 ①	1) 成人と生活 (1) 対象の理解：大人になること、大人であること ①生涯発達の視点 ②家族であること	講義	加藤
2	成人の生活と健康 ②	(2) 対象の生活：働いて生活を営むこと ①働くこと ②生活を営むこと ③人生の意味—人生のできごとや経験に対するその人の意味	講義	加藤
3	成人の生活と健康 ③	2) 生活と健康 (1) 成人を取り巻く環境と生活からみた健康 (2) 成人の健康の状況 (3) 生活と健康をまもりはぐくむシステム	講義	加藤
4	成人の健康生活を促すための看護技術	1) 学習者である患者への看護技術 (1) エンパワメント—エデュケーション (2) 自己効力を高める看護教育技術 (事例展開)	講義	加藤
5	成人への看護アプローチの基本①	1) 成人への看護アプローチの基本 (1) 生活の中で健康行動を生み、はぐくむ援助 (2) 健康問題をもつ大人と看護師の人間関係	講義	加藤
6	成人への看護アプローチの基本②	(3) 患者中心のチームアプローチ (4) 人々の集団における調和や変化を促す看護アプローチ (5) 看護におけるマネジメント	講義	加藤
7	成人への看護アプローチの基本③	(6) 看護実践における倫理的判断 (7) 意思決定支援	講義	加藤
8	成人の健康レベルに対応した看護①	1) ヘルスプロモーションと看護 (1) ヘルスプロモーションとは (2) 個人の主体的な健康づくり (3) 健康増進のための環境づくり (4) ヘルスプロモーションを促進する看護の場と活動	講義	白髭
9	成人の健康レベルに対応した看護②	2) 健康をおびやかす要因と看護 (1) 健康バランスの構成要素 (2) 健康バランスに影響を及ぼす要因 (3) 生活行動から見た健康問題とその予防	講義	白髭
10	成人の健康レベルに対応した看護③	3) 健康生活の急激な破綻から回復を促す看護 (1) 健康の急激な破綻 (2) 急性期にある人の看護 (3) 急性期医療を必要とする人々	講義	白髭
11	成人の健康レベルに対応した看護④	4) 慢性病との共存を支える看護 (1) 慢性病患者の理解 (2) 慢性病との共存を支える看護の実践	講義	白髭
12	成人の健康レベル	5) 障害がある人の生活とリハビリテーション (1) 障害がある人とリハビリテーション	講義	白髭

	に対応した看護⑤	(2) 障害がある人とその生活を支援する看護の特徴		
13	成人の健康レベル に対応した看護⑥	6) 障害がある人の生活とリハビリテーション (3) 看護の実際 ①急性期リハビリテーションと看護 ②回復期リハビリテーションと看護 ③維持期リハビリテーションと看護	講義	白髭
14	成人の健康レベル に対応した看護⑦	7) 人生の最期のときを支える看護 (1) 人生の最期のときにおける医療の現状 (2) 人生の最期のときを過ごしている人の理解 (3) 人生の最期のときを支える看護	講義	白髭
15	試験・まとめ			
評価方法	筆記試験（本試験：60点以上を合格 不合格の場合は再試験を実施し、60点以上を合格とする） 成績評価は100点満点とし、80点以上をA、70点以上をB、60点以上をC、60点未満をDで表し、A、B、Cは合格、Dは不合格とする。当該科目の出席時間数が規定時間数の3分の2以上であること（受験資格）			
教科書	系統看護学講座 専門分野 成人看護学 [1] 成人看護学総論 (医学書院)			
備考 履修者への コメント	成人看護援助論Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ、Ⅴおよび成人看護学実習の基盤となる科目であるため、授業前に教科書の該当箇所を読み、問題意識をもって授業に臨むこと。また、復習として授業資料、教科書の該当箇所の内容を振り返り、まとめを行い授業に臨むこと。			

授業要綱

科目名： 老年看護学概論		1 単位 30 時間	講義時期： 1 年後期	
授業の目的： 老年期にある対象の特徴を理解し、老年看護の役割・機能を理解させる。			担当講師： 星野 実央 山岸 瑞穂	
到達目標： 1. ライフステージにおける老年期の位置付けを理解できる。 2. 老年期にある対象の身体的、心理的、社会的特徴を理解できる。 3. 老年看護の役割・原則を理解できる。 4. 老年保健の動向と対策を理解できる。 5. 老年期にある対象をとりまくソーシャルサポート・システムとそれぞれの場における看護の役割を理解できる。 6. 高齢者特有のリスクマネジメントについて理解できる。			実務経験のある教員科目 病院で看護師として 5 年以上の実務経験がある教員が、その実務経験を活かして、老年期にある対象の特徴、老年看護の役割・機能について教授する。	
DP との関連 1. 生命に対する深い愛情と尊厳を基盤としたヒューマンケアに必要な基礎的な力を身につけることができる。 3. 健康の保持・増進、疾病の予防、健康の回復に向けた看護が実践できる。 4. 保健医療福祉チームの一員としての役割を自覚し、チームメンバーとして行動することができる。 5. 専門職業人として社会の動向に関心を持ち、自己研鑽し続ける力を身につけることができる。				
回	授業項目	内 容	授業方法	担当者
1	老年期にある対象の身体的、 心理的特徴の疑似体験	1. 高齢者疑似体験	演習	山岸
2		2. 高齢者の身体機能の変化と心理状態		
3	老年期の位置づけと意義	1. 老化とは	講義	山岸
4		2. ライフステージとしての老年期	講義	山岸
5	高齢者の特徴①	1. 身体的機能の変化	講義	山岸
6	高齢者の特徴②	2. 心理的機能の変化 3. 社会的機能の変化	講義	山岸
7	高齢者の特徴③	4. 健康障害の特徴	講義	山岸
8	老年看護の目標と役割	1. 老年看護の目標 2. 老年看護の原則	講義	星野
9	高齢社会に人口と生活の特徴	1. 人口学的特徴 2. 生活の特徴	講義	星野
10	保健医療の現状と動向	1. 保健医療の現状と動向 (受療状況・有病率・死亡場所)	講義	星野
11	高齢社会の課題	1. 保健医療福祉制度の変遷 2. 介護保険制度の整備 3. 家族介護の困難 4. 老人虐待	講義	星野
12	高齢者のリスクマネジメント と看護	1. 高齢者と医療事故 2. 高齢者に生じる事故や救急時の対応 3. 災害時の看護	講義	星野
13	高齢社会における社会保障制度の全体像①	1. 高齢者を支える制度 1) 医療保険制度 2) 介護保険制度 2. 保健福祉サービス	講義	星野
14	高齢社会における社会保障制度の全体像②			
15	高齢社会における社会保障制度の全体像③	1. 保健・福祉における施策 身近にある高齢者への保健・福祉サービスの調査内容を発表	演習	星野
	試験			

<p>評価 方法</p>	<p>筆記試験（本試験：60 点以上を合格 不合格の場合は再試験を実施し、60 点以上を合格とする） 成績評価は 100 点満点とし、80 点以上を A、70 点以上を B、60 点以上を C、60 点未満を D で表し、A、 B、C は合格、D は不合格とする。当該科目の出席時間数が規定時間数の 3 分の 2 以上であること（受験資格）。</p>
<p>教科書</p>	<p>系統看護学講座 専門分野 老年看護学（医学書院） 老年看護 病態・疾病論（医学書院）</p>
<p>備考 履修者への コメント</p>	<p>老年期の特徴①②：動きやすい服装（ズボン）で参加。また、フェイスタオルも持参。 高齢社会における社会保障（15 回目）：冬季休業前に課題を提示。グループワークで資料を作成する。</p>

授業要綱

科目名 小児看護学概論		1単位 30時間	講義時期 1年後期	
授業の目的： 1. 小児看護の理念を理解する。 2. 小児各期の成長・発達の特徴と養育を理解する 3. 小児を取り巻く環境を理解する。			担当講師 浅香 洋美	
到達目標： 1. 小児看護の変遷を知り、小児看護の理念を理解できる。 2. 小児看護の対象を理解できる。 3. 小児各期の特徴と養育について理解できる。 4. 小児保健の動向を理解できる。 5. 子どもを取り巻く社会を理解できる。			実務経験のある教員科目 病院で看護師として5年以上実務経験のある教員が、その実務経験を活かして、小児看護の理念を教授する。小児各期の成長・発達の特徴と、小児を取り巻く環境を教授する。	
D P との関連 D P 1. 生命に対する深い愛情と尊厳を基盤としたヒューマンケアに必要な基本的な力を身につけることができる				
回	授業項目	内 容	授業方法	担当
1	小児看護の理念	1) 小児看護の変遷・対象 2) 小児看護の目的 3) 小児看護における倫理 4) 小児の成長発達 5) 発達理論 (1) 愛着形成と自立	講義	浅香
2				
3	小児各期の特徴と養育	1) 基本的な生活習慣の獲得 2) 新生児期の特徴と養育 3) 乳児期の特徴と養育 4) 幼児期の特徴と養育 5) 学童期の特徴と養育 6) 思春期の特徴と養育	講義 演習	浅香
4				
5				
6				
7				
8				
9				
10				
11	小児の日常生活援助 —演習—	1) 乳幼児の日常生活援助技術 臀部浴、ミルク作成、おむつ交換、抱っこ、おんぶ、更衣	演習	浅香
12				
13	小児をめぐる諸統計	1) 小児をめぐる諸統計 2) 出産と死亡 3) 小児の事故	講義	浅香
14	小児をめぐる法律と施策	1) 小児と家族 2) 小児をめぐる法律 (1) 児童福祉、母子保健、医療費の支援、学校保健、特別支援教育、予防接種 (2) 子育て支援施策	講義	浅香
15				
評価方法	筆記試験：90点、レポート課題：10点 (本試験：60点以上を合格 不合格の場合は再試験を実施し、60点以上を合格とする) (課題内容に不足がないか確認し、不足時、課題の再学習をさせる)。 成績評価は100点満点とし、80点以上をA、70点以上をB、60点以上をC、60点未満をDで表し、A、B、Cは合格、Dは不合格とする。 当該科目の出席時間数が規定時間数の3分の2以上であること(受験資格)			
教科書	系統看護学講座 専門分野 小児看護学 [1] 小児看護学概論 小児臨床看護総論 (医学書院) 看護のための人間発達学 第5版 舟島 なをみ (医学書院)			

参考書	写真でわかる小児看護技術 監修：山元 恵子（インターメディカ） イラスト小児の生活援助技術 木口 チョ・小林 八代枝（文光堂） パーフェクト臨床実習ガイド 小児看護 第2版 筒井真優美（照林社）
備考 履修者への コメント	小児期は、成長発達段階であり、各期の成長・発達の特徴・養育、小児を取り巻く環境を理解し、小児看護の理念・目的を考えられるようになってほしい。

授業要綱

科目名	母性看護学概論		1 単位	1 5 時間	講義時期	1 年後期
授業の目的：母性看護の対象を理解し、母性看護の役割・機能を理解させる。					担当講師 村上 由美子 実務経験のある教員科目 病院で助産師として5年以上 実務経験のある教員が、その実 務経験を活かして、母性看護の 対象、母性看護の役割・機能に ついて教授している。	
到達目標：母性看護の基盤となる看護を理解できる。 母性看護の対象を取り巻く社会の変遷と現状を理解できる。 母性看護の対象を理解できる。 女性のライフサイクル各期における看護を理解できる。						
D P との関連 D P 1. 生命に対する深い愛情と尊厳を基盤としたヒューマンケアに必要な基本的な能力 D P 2. 専門的な知識・技術・態度を統合して対象に合った看護過程を展開する基礎的能力 D P 3. 健康の保持・増進、疾病の予防、健康の回復に関わる看護を実践する能力						
回	授業項目	内 容			授業方法	
1	母性看護の基盤となる概念	1) 母性とは 2) 母子関係と家族発達 3) セクシュアリティ			講義	
2		4) リプロダクティブヘルス/ライツ 5) ヘルスプロモーション 6) 母性看護のあり方 7) 母性看護における倫理 8) 母性看護における安全・事故予防			講義	
3	母性看護の対象を取り巻く社会 の変遷と現状	1) 母性看護の歴史の変遷と現状 2) 母性看護の対象を取り巻く環境			講義	
4	母性看護の対象理解	1) 女性のライフサイクルに伴う形態・機能の変化			講義	
5		2) 女性・家族のライフサイクル 3) 母性の発達・成熟・継承			講義	
6	女性のライフサイクル各期にお ける看護	1) ライフサイクルにおける女性の健康と看護の必要性 2) 思春期の健康と看護 3) 成熟期の健康と看護			講義	
7		4) 更年期の健康と看護 5) 老年期の健康と看護 6) ライフサイクル各期にまたがる健康問題と看護			講義	
8	試験					
評価方法	筆記試験（本試験：60 点以上を合格 不合格の場合は再試験を実施し、60 点以上を合格とする） 成績評価は100 点満点とし、80 点以上を A、70 点以上を B、60 点以上を C、60 点未満を D で表し、A、B、C は合格、D は 不合格とする。 当該科目の出席時間数が規定時間数の 3 分の 2 以上であること（受験資格）					
教科書	系統看護学講座 専門分野 母性看護学 [1] 母性看護学概論 （医学書院）					
参考書	村本淳子・森 明子編著 母性看護学概論 医歯薬出版株式会社 新体系看護学 30 母性看護学① メディカルフレンド 国民衛生の動向 厚生統計協会					

備考 履修者への コメント	この科目を通し、生命誕生について考える機会とする。 母性看護学の対象、社会問題、健康問題、家族関係などの学習から自己の健康を振り返る。 また、既習科目である解剖生理学を想起し、再学習をすること。
---------------------	---

授業要綱

科目名	精神看護学概論	1 単位 30 時間	講義時期	1 年後期
授業の目的：精神看護の対象を理解するために人間の心の成長、発達と心の健康に関連する要因、精神（心）の健康の保持増進に必要な知識を学ぶ。 精神看護学を展開する上で基盤となる倫理や人権について学ぶ。			担当講師	
到達目標： <ol style="list-style-type: none"> 1. 精神看護の対象・目的・役割を理解することができる。 2. 精神の機能と構造を学び、エリクソン・フロイトなどの理論家からライフサイクルにおける心の発達と健康について理解することができる。 3. 危機と心の健康について理解することができる。 4. 社会の変化に伴う精神保健医療の変遷について学び、現状の問題や課題を考えることができる。 			田邊 由鶴 山田 和美 笛木 治和	
DP との関連 DP 1. 生命に対する愛情と尊厳を基盤としたヒューマンケアに必要な基本的な能力を身につけることができる。 DP 3. 健康の保持・増進、疾病の予防、健康の回復に関わる看護が実践できる。 DP 5. 専門職業人として社会の動向に関心を持ち、自己研鑽し続ける力を身につけることができる。			実務経験のある教員科目 病院で看護師として 5 年以上実務経験のある教員が、その実務経験を活かして、人間の心の成長、発達と心の健康に関連する要因、精神（心）の健康の保持増進に必要な知識を教授している。精神看護学を展開する上で基盤となる倫理や人権について学ぶ。	
回	授業項目	内 容	授業方法	担当者
1	精神看護の目的	1) 精神看護とは	講義	田邊
2		(1) 精神看護の目的		
3		(2) 精神看護の対象 (3) 精神看護の役割		
4	精神（心）のとらえかた	2) 精神障害と精神保健	講義	田邊
5		(1) 精神障害とは		
6		(2) 精神の健康とは		
7	精神（心）の発達に関する主要な考え方	1) 脳の構造と認知機能	講義	田邊
8		2) 精神（心）の構造とはたらき とらえかた 3) 人間関係と心のはたらき		
9	家族と精神（心）の健康	1) 各理論からみる精神（心）の仕組み 2) 各発達理論と人間	講義	山田
10	精神（心）の危機状況	1) 家族ライフサイクル・家族システム	講義	山田
11		2) 家族の感情表出		
12		1) 危機理論・危機モデル 2) 危機介入 3) ストレス反応・コーピング 4) 適応と不適応 5) ストレスマネジメント		
13	暮らしの場と精神（心）の健康	1) 学校と精神（心）の健康 2) 職場、仕事と精神（心）の健康 3) 地域における生活と精神（心）の健康	講義	笛木
14	現代社会と精神（心）の健康	1) 現代社会の特徴：社会構造の変化と社会病理 2) 現代社会における精神保健の主な問題	講義	笛木
15	精神保健医療福祉の歴史と人権擁護	1) 精神医療の歴史 2) 精神障害をもつ人を守る法・制度 3) 精神保健福祉法における入院形態と患者の処遇	講義	笛木
	試験			

評価方法	筆記試験（本試験：60 点以上を合格 不合格の場合は再試験を実施し、60 点以上を合格とする） 成績評価は 100 点満点とし、80 点以上を A、70 点以上を B、60 点以上を C、60 点未満を D で表し、 A、B、C は合格、D は不合格とする。 当該科目の出席時間数が規定時間数の 3 分の 2 以上であること（受験資格）
教科書	1) 系統看護学講座 別巻 精神保健福祉 (医学書院) 2) 系統看護学講座 専門分野 精神看護学[1] 精神 看護の基礎 (医学書院)
備考 履修者への コメント	各理論家の発達理論を学ぶ講義では発達課題において課題を出すので。発達課題を提唱している理論家の参考 文献を事前に準備しておくが良いです。

第 23 回生（2 年生）授業要綱（前期）

評価方法	筆記試験：客観試験 (本試験：60 点以上を合格 不合格の場合は再試験を実施し、60 点以上を合格とする) コンピュータ演習による課題提出をする必要がある。 成績評価は 100 点満点とし、80 点以上を A、70 点以上を B、60 点以上を C、60 点未満を D で表し、A、B、C は合格、D は不合格とする。当該科目の出席時間数が規定時間数の 3 分の 2 以上であること (受験資格)
教科書 参考書	新訂版 看護・医療のための情報科学入門 第 2 版 (サイオ出版)
備考 履修者への コメント	

授業要綱

科目名	倫理学	1 単位	30 時間	講義時期	2 年前期
授業の目的：	今日の医療現場における倫理的諸問題についての基本的な知識を身につける。			担当講師	柳田 詩織
到達目標：	倫理学の基本概念や基本知識を理解する。 とくに、医療や生命倫理にかかわる具体的な問題について説明できる。 各自の思考を、上記の知識にもとづいて、自分のことばで論理的に表現することができる。				
回	授業項目	内 容		授業方法	
1	ガイダンス	半年間の講義の概要を提示する。		講義	
2	生命倫理の原理	倫理学の基本的な考え方である功利主義と義務論を学ぶ。		講義	
3	自己決定権とパターンリズム	インフォームド・コンセントや自己決定権の概念と歴史を理解する。		講義	
4	生殖補助医療	生殖補助医療の概要を理解する。		講義	
5	生殖補助医療	前回の知識に基づいて、生殖補助医療の倫理的問題を考える。		講義	
6	人工妊娠中絶	人工妊娠中絶についての倫理的議論を整理する。		講義	
7	人工妊娠中絶	前回の知識を踏まえて、人工妊娠中絶の倫理的問題を考える。		講義	
8	医療と差別	医療における差別の歴史とその倫理的問題を学ぶ。		講義	
9	エンハンスメントの倫理	身体能力改良の倫理的問題を理解する。		講義	
10	健康とは何か	健康と生権力の問題について考える。		講義	
11	脳死と臓器移植	脳死・臓器移植について学び、それにまつわる倫理的問題を整理する。		講義	
12	安楽死	安楽死の概念とその歴史を学ぶ。		講義	
13	安楽死	前回の知識に基づいて、安楽死の倫理的問題を考える。		講義	
14	ケアについて	ターミナル・ケアを中心に、よいケアとは何かを考える。		講義	
15	試験・まとめ				

評価方法	毎回のコメントシート（平常点）と筆記試験によって評価する。 平常点と試験の配分は3：7で、100点の試験を7割換算したものを、平常点と合計して最終的に成績を算定します。 再試験でもコメントシートは得点に反映されます（再試験を3：7のうちの7割分に割り当てます）。 成績評価は100点満点とし、80点以上をA、70点以上をB、60点以上をC、60点未満をDで表し、A、B、Cは合格、Dは不合格とする。当該科目の出席時間数が規定時間数の3分の2以上であること（受験資格）
教科書 参考書	授業内でプリントを配布する。
備考 履修者への コメント	倫理学では、知識を身につけることも重要ですが、それ以上に考え方を身につけることが大切です。

授業要綱

科目名	栄 養 学	1 単位	30時間	講義時期	2年前期
授業の目的： 1. 身体の健康と寿命のみならず、精神や能力にも深く関わり、食文化の分野にもまたがる学問である。 2. 栄養学の基礎を学習する。				担当講師 須田 幸子 高城 慶衣子 小山 智代	
到達目標： 1. 各種栄養素の消化・吸収・代謝のメカニズムと、過剰症・欠乏症について理解する。 2. 疾患に対し適切な栄養評価を行うための知識を習得する。					
回	授業項目	内 容		授業方法	担当者
1	健康づくりと食品・食事・食生活 日常生活と栄養	我が国の国民の栄養の現状と健康について知る		講義・演習	須 田
2	栄養素の種類とはたらき	必要な栄養素の種類とそのはたらきについて学ぶ		講義・演習	須 田
3	代謝と消化吸収	食物が体内で消化、吸収、代謝される流れを学ぶ		講義・演習	須 田
4	栄養状態の評価・判定 栄養 ケア・マネジメント	栄養状態のアセスメントについて学ぶ 栄養 ケア・マネジメントのシステムを学ぶ		講義・演習	小 山
5	ライフステージと栄養 ① 乳児～幼児期 妊娠期・授乳期	ライフステージ別の特徴を捉える		講義・演習	高 城
6	ライフステージと栄養 ② 成人～高齢期	ライフステージ別の特徴を捉える		講義・演習	須 田
7	栄養食事療法の実際	病院食の分類、症状別の食事療法について学ぶ		講義・演習	須 田
8	臨床栄養 糖尿病	糖尿病の食事療法について学ぶ		講義・演習	高 城
9	臨床栄養 栄養代謝性疾患	栄養代謝疾患の食事療法について学ぶ		講義・演習	高 城
10	臨床栄養 呼吸器・循環器疾患	呼吸器・循環器疾患の食事療法について学ぶ		講義・演習	小 山
11	臨床栄養 腎臓疾患	腎臓病の食事療法について学ぶ		講義・演習	高 城
12	臨床栄養 消化器疾患	消化器疾患の食事療法について学ぶ		講義・演習	須 田
13	臨床栄養 がん・摂食障害	がん・摂食障害の食事療法について学ぶ		講義・演習	小 山
14	臨床栄養 術前・術後	術前・術後の食事療法について学ぶ		講義・演習	須 田

15	試験・まとめ			
評価方法	筆記試験（本試験：60点以上を合格 不合格の場合は再試験を実施し、60点以上を合格とする） 成績評価は100点満点とし、80点以上をA、70点以上をB、60点以上をC、60点未満をDで表し、A、B、Cは合格、Dは不合格とする。当該科目の出席時間数が規定時間数の3分の2以上であること（受験資格）			
教科書 参考書	系統看護学講座 専門基礎分野 人体の構造と機能 [3] 栄養学（医学書院） 系統看護学講座 別巻 栄養食事療法（医学書院）			
備考 履修者への コメント	1. 提出された課題については授業内外において返却・解説を行う。 2. 予習：授業前に教科書を読むこと。			

授業要綱

科目名	病態と治療V		1単位	30時間	講義時期	2年前期
授業の目的：	1. 小児疾患の病因の成り立ちと仕組みを理解し、疾病の形態と機能の変化その治療と検査について理解する。 ・看護師として必須は小児循環器疾患の知識を修得する。 2. 先天性疾患と川崎病に対する、包括的な理解および、看護師として必要な実用的な知識を習得。 3. 生殖器の障害の診断方法、治療、予防について理解する。 4. 妊娠期・新生児期の異常には、どのような疾患があるのか、また、その診断・検査・治療内容などを理解する。				担当講師	
到達目標：	病因の成り立ちと仕組みを理解し、疾病の形態と機能の変化、その治療と検査を理解できる。 先天性心疾患と川崎病の概念・診断・治療を理解する フォロー四徴症の病態、看護の際の注意点を知る。 川崎病の病態と治療を知る。				小島 拓朗 古賀 健史 荒尾 正人 武者 育麻 颯佐 かおり 石井 佐織 笥 紘子 鈴木 裕之 鷹野 夏子	
回	授業項目	内 容		授業方法	担当者	
1	－小児－ 免疫・アレルギー・呼吸器・ 感染症	気管支喘息・アトピー性皮膚炎・クループ・細気管支炎 肺炎・細菌感染症（溶レン菌感染） ウイルス感染症（突発性発疹）・ワクチン		講義	古賀	
2	－小児－ 循環器	先天性心疾患・川崎病		講義	小島	
3	－小児－ 消化器・腎泌尿器・膠原病	肥厚性幽門狭窄・腸重積・口唇口蓋裂 ヒルシュスプリング病・胆道閉鎖症・乳児下痢症 ネフローゼ症候群・急性糸球体腎炎・若年性関節リウマチ		講義	荒尾	
4	－小児－ 代謝・内分泌	糖尿病・低身長・尿崩症・甲状腺疾患・ 思春期異常・新生児マスキング・肥満		講義	武者	
5	－小児－ 神経・筋	二分脊推・水頭症・熱性けいれん・てんかん 脳性麻痺・髄膜炎		講義	颯佐	
6	－小児－ 血液・悪性新生物	白血病・血友病・紫斑病・神経芽腫・ウィルムス腫瘍		講義	石井	
7	－小児－ 先天異常・新生児	遺伝病・染色体異常・低出生体重児		講義	笥	
8	婦人科総論	生殖器の解剖学的知識 ホルモン周期・更年期障害		講義	鈴木	
9	性病の予防・避妊について	性行為感染症についての知識・避妊法		講義	鈴木	
10	婦人科の腫瘍	子宮筋腫・子宮がん・卵巣腫瘍・卵巣がん その他婦人科の腫瘍の診断と治療について		講義	鈴木	
11	妊娠疾患	悪阻・妊娠高血圧症候群、血液不適合妊娠		講義	鷹野	
12	妊娠期異常	多胎妊娠、妊娠持続期間の異常、異所性妊娠		講義	鷹野	
13	ハイリスク妊娠	妊娠の正常変化、合併する全身疾患		講義	鷹野	
14	妊娠期の感染症	母子感染		講義	鷹野	
15	胎児の評価	胎児機能不全、胎児心拍モニタリング、 新生児の異常（呼吸障害）		講義	鷹野	

評価方法	筆記試験（本試験：60 点以上を合格 不合格の場合は再試験を実施し、60 点以上を合格とする） 成績評価は 100 点満点とし、80 点以上を A、70 点以上を B、60 点以上を C、60 点未満を D で表し、A、B、C は合格、D は不合格とする。当該科目の出席時間数が規定時間数の 3 分の 2 以上であること（受験資格）			
教科書	系統看護学講座 専門分野 精神看護学 [2] 精神障害をもつ人の看護（メヂカルフレンド社） 系統看護学講座 別巻 救急看護学（医学書院）			
参考書	精神神経疾患 ビジュアルブック（学研）			
備考 履修者への コメント				

授業要綱

科目名：基礎看護技術論Ⅶ (看護過程)	1 単位 30 時間	講義時期： 2 年前期		
授業の目的： 看護の目標を達成するための科学的方法の 1 つである看護過程の理論を学び、その活用方法を習得する。	担当講師： 池田 良香			
到達目標： 1. 看護過程の展開の方法が理解できる。 2. 看護に必要な基本概念を理解することができる。 3. 対象の全体像を捉えるために必要な情報が理解できる。	実務経験のある教員科目 病院で看護師として勤務経験のある教員が、自身の実務経験を活かしながら、本校で採用している「ヘンダーソンの理論」について理論の概要を自身の実体験を踏まえながら教授したあと、紙上事例の演習を 12 回実施している。また、紙上事例はグループワークにより進めており、病院で 5 年以上実務経験のある教員がグループ担当として関わっている。学生にとって難易度の高い病態の理解に関しては、教員の実務体験を活かしながら関わっている。臨地実習にでる前の科目として位置づけており看護過程の考え方、展開について理解できるように教授している。			
回	授業項目	内 容	授業方法	担当者名
1	ヘンダーソンの看護論① 看護過程とは	ヘンダーソンの看護論とは 看護過程とは	講義	池田
2	情報収集の枠組み・実際	情報収集の枠組み・実際	講義	池田
3	関連図、分析、解釈、解決策、 実施、評価、サマリーとは	関連図の書き方とポイント、分析、解釈の書き方 期待される結果を達成するための解決策の立案方法、 実施・評価・サマリーの書き方	講義	池田
4	紙上事例	紙上事例を用いた情報収集 データベース 1・2 の書き方	講義	担当教員
5	紙上事例を用いた演習①	基本的看護の構成要素	演習	担当教員
6	紙上事例を用いた演習②	基本的看護の構成要素	演習	担当教員
7	紙上事例を用いた演習③	基本的看護の構成要素	演習	担当教員
8	紙上事例を用いた演習④	基本的看護の構成要素	演習	担当教員
9	紙上事例を用いた演習⑤	基本的看護の構成要素、関連図、分析・解釈	演習	担当教員
10	紙上事例を用いた演習⑥	関連図、分析・解釈	演習	担当教員
11	紙上事例を用いた演習⑦	関連図、分析・解釈	演習	担当教員
12	紙上事例を用いた演習⑧	関連図、分析・解釈	演習	担当教員
13	紙上事例を用いた演習⑨	解決策	演習	担当教員
14	紙上事例を用いた演習⑩	解決策	演習	担当教員
15	紙上事例を用いた演習⑪	解決策	演習	担当教員
	試験			

評価方法	レポート課題（紙上事例）70点・筆記試験30点 （本試験：レポート課題・筆記試験でそれぞれ6割以上到達を合格 不合格の場合は該当試験のみ再試験（再指導）を実施し、6割以上を合格とする） 成績評価は、レポート課題と筆記試験の合算で100点満点とし、80点以上をA、70点以上をB、60点以上をC、60点未満をDで表し、A、B、Cは合格、Dは不合格とする。 当該科目の出席時間数が規定時間数の3分の2以上であること（受験資格）
教科書	・第4版 看護過程を使ったヘンダーソン看護論の実践（ヌーヴェルヒロカワ） ・第4版 ヘンダーソンの基本的看護に関する看護問題リスト（ヌーヴェルヒロカワ） ・系統基礎看護学講座 専門分野 基礎看護学 [2] 基礎看護技術 I（医学書院）
参考書	・看護の基本となるもの（日本看護協会出版会）
備考履修者へのコメント	・看護過程は、看護師として看護を考える上での“思考の過程”です。 “覚える”のではなく“考える”講義になります。また、既習の学習を活かす必要があります。 ・担当教員と積極的に意見交換し、看護師としての考え方を学んでください。

授業要綱

科目名	基礎看護技術論Ⅶ (フィジカルアセスメント)	1単位 30時間	講義時期	2年前期
授業の目的:	看護の対象の健康状態を把握するためにヘルスアセスメントおよびフィジカルアセスメント技術を習得する		担当講師	根岸 真樹
到達目標:	1. ヘルスアセスメントの意義と目的を理解し必要とされる技術の習得ができる。 2. 全身の概観、計測、系統別アセスメント、心理・社会状態のアセスメントを理解できる。 3. ヘルスアセスメントによって得られた結果から援助に結びつけることができる。		実務経験のある教員科目 病院で看護師として実務経験（5年以上）を有している教員が1年次の基礎看護技術論Ⅱ（観察、呼吸・循環・体温）の講義・演習での基本技術を抑えながら、教授している。また、臨地実習で経験する機会の多い呼吸器系と腹部のフィジカルアセスメント技術は演習でおさええている	
回	授業項目	内 容	授業方法	担当者
1 2	ヘルスアセスメントの概念	1) ヘルスアセスメントとは 2) 基本技術 (1) 問診 (2) 視診 (3) 触診 (4) 打診 (5) 聴診 3) 身体計測	講義	根岸
3	全身のアセスメントと看護 ①	3) 呼吸器系のアセスメント	講義	根岸
4	全身のアセスメントと看護 ②	4) 循環器系のアセスメント	講義	根岸
5	全身のアセスメントと看護 ③	5) 乳房・腋窩アセスメント 直腸・肛門・生殖器アセスメント	講義	根岸
6	全身のアセスメントと看護 ④	6) 腹部のアセスメント	講義	根岸
7	全身のアセスメントと看護 ⑤	7) 脳神経・筋骨格系アセスメント	講義	根岸
8	全身のアセスメントと看護 ⑥	8) 頭頸部と感覚器アセスメント	講義	根岸
9	全身のアセスメントと看護 ⑦	9) 社会・心理的側面のアセスメント	講義	根岸
10 11 12 13	紙上を用いた全身状態のアセスメントの演習(⑩・⑪・⑫・⑬)	演習・発表: 循環器・呼吸器・消化器・脳神経疾患についての事例をアセスメント	演習	基礎担当 教員
14 15	呼吸器系・腹部のアセスメント演習	腹部・呼吸器系の基本的な身体診査技術	演習	基礎担当 教員

評価方法	筆記試験 60 点・技術試験 40 点 (本試験：筆記試験・技術試験でそれぞれ 6 割以上到達を合格 不合格の場合は該当試験のみ再試験を実施し、それぞれ 6 割以上を合格とする) 成績評価は、筆記試験と技術試験の合算で 100 点満点とし、80 点以上を A、70 点以上を B、60 点以上を C、60 点未満を D で表し、A、B、C は合格、D は不合格とする。 当該科目の出席時間数が規定時間数の 3 分の 2 以上であること (受験資格) 術試験：胸腹部のアセスメント (本試験：60 点以上を合格 不合格の場合は再試験を実施し、60 点以上を合格とする)
教科書	系統看護学講座 専門分野 基礎看護学 [2] 基礎看護技術 I (医学書院)
参考書	フィジカルアセスメントがみえる (メディックメディア)
備考履修者へのコメント	患者の状態を把握することや患者に適した看護を提供するために必要なヘルスアセスメントおよびフィジカルアセスメント技術を習得します。基礎看護学実習 II、領域別実習でも行う基本技術です。根拠を持った技術習得に向け、積極的に授業参加と自主練習が必須です。

授業要綱

科目名	成人看護援助論 I (急性期における対象の看護)	1 単位	30 時間	講義時期	2 年前期
授業の目的	急性期にある対象のもつ健康上の問題を解決するための看護を理解する。			担当講師	加藤 静子 松本 千秋
到達目標	1. 急性期にある対象の身体的・心理的・社会的特徴を理解できる。 2. 主要症状、治療、処置、検査について理解し、それに伴う苦情や身体への影響に対する看護を理解できる。 3. 急性期にある対象の健康上の問題をアセスメントし、問題を解決するための方法を理解できる。			実務経験のある教員科目 病院で看護師として実務経験 (5 年以上) を有している教員が、その実務経験をいかして、急性期にある対象のもつ健康上の問題を解決するための看護を教授している。	
回	授業項目	内 容		授業方法	担当者
1	救急医療と看護	1) 救急医療と看護		講義	加藤
2	救急医療と看護	2) 全身所見の把握のしかた		講義	加藤
3	救急医療と看護	3) 集中治療室における看護		講義	加藤
4	手術療法を必要とする対象の看護	1) 外科看護の基礎と特徴		講義	加藤
5	手術療法を必要とする対象の看護	2) 周手術期の患者の看護		講義	加藤
6	手術療法を必要とする対象の看護	同 上		講義	加藤
7	手術療法を必要とする対象の看護	3) 開胸術を受ける患者の看護		講義	加藤
8	手術療法を必要とする対象の看護	4) 開腹術を受ける患者の看護		講義	加藤
9	手術療法を必要とする対象の看護	5) 開頭術を受ける患者の看護		講義	加藤
10	手術療法を必要とする対象の看護	6) 心臓・脈管系疾患患者の看護		講義	加藤
11	感染症患者の看護	1) 感染看護の本質と感染予防策 (1) 感染対策の基本概念 (2) 感染源となる微生物の特徴を捉えその予防策の実際 (3) 感染経路予防策		講義	松本
12	感染症患者の看護	1) 基本的な感染管理 (1) 洗浄・消毒・滅菌の処理方法 (2) 職業感染対策のための具体策		講義	松本
13	感染症患者の看護	1) 感染症疾患に合わせた具体的な看護ケアの実際 (1) 症状に対する看護 (2) 検査・治療における看護		講義	松本

14	侵襲的治療を受ける対象への	1) 侵襲的治療を受ける患者への看護技術（演習）	演習	加藤
15	看護技術			
	試験			
評価方法	筆記試験（本試験：60点以上を合格 不合格の場合は再試験を実施し、60点以上を合格とする） 成績評価は100点満点とし、80点以上をA、70点以上をB、60点以上をC、60点未満をDで表し、A、B、Cは合格、Dは不合格とする。当該科目の出席時間数が規定時間数の3分の2以上であること（受験資格）			
教科書	系統看護学講座 専門分野 成人看護学 [1] 成人看護学総論、救急看護学、臨床外科看護総論、臨床外科看護各論、 呼吸器、循環器、消化器、脳・神経、アレルギー / 膠原病 / 感染症（医学書院）			
備考 履修者への コメント	成人看護学実習に関連性がある科目であるため、授業前に該当箇所の解剖生理学および病態と治療の授業資料、教科書を読み、予習・復習を行い授業に臨むこと。 履修順序は、変更する場合がある。			

授業要綱

科目名	成人看護援助論Ⅱ（慢性期における対象の看護）	1単位 30時間	講義時期	2年前期
授業の目的	慢性期にある対象のもつ健康上の問題を解決するための看護を理解する。		担当講師	白髭 英雄 鈴木 彩子
到達目標	1. 慢性期にある対象の身体的・心理的・社会的特徴を理解できる。 2. 主要症状、治療、処置、検査について理解しそれに伴う苦痛や、身体への影響に対する看護を理解できる。 3. 慢性期にある対象の健康上の問題をアセスメントし、問題を解決するための方法を理解できる。		実務経験のある教員科目 病院で看護師として実務経験（5年以上）を有している教員が、その実務経験をいかして、慢性期にある対象のもつ健康上の問題を解決するための看護を教授している。	
回	授業項目	内 容	授業方法	担当者
1	栄養代謝に障害のある対象の看護	1) 肝機能に障害をもつ患者の看護 (1) 肝機能低下の原因と程度の把握	講義	白 髭
2	栄養代謝に障害のある対象の看護	(2) 肝機能低下時の肝庇護のための生活指導	講義	白 髭
3	栄養代謝に障害のある対象の看護	(3) 肝機能障害による症状に対する看護 (4) 肝機能障害に対する治療時の看護	講義	白 髭
4	栄養代謝に障害のある対象の看護	2) 消化吸収に障害のある患者の看護 (1) 消化吸収機能障害と日常生活への影響の把握	講義	白 髭
5	栄養代謝に障害のある対象の看護	(2) 消化吸収機能障害による症状に対する看護	講義	白 髭
6	栄養代謝に障害のある対象の看護	(3) 消化吸収の障害に応じた生活指導 (4) 消化吸収機能の検査・治療に伴う看護	講義	白 髭
7	栄養代謝に障害のある対象の看護	3) 糖代謝に障害をもつ患者の看護 (1) 糖代謝障害状態の把握と看護 (2) 糖代謝障害による二次障害の把握と看護	講義	鈴 木
8	栄養代謝に障害のある対象の看護	(3) 糖尿病の自己管理指導	講義	鈴 木
9	栄養代謝に障害のある対象の看護	(4) 糖尿病のインスリン療法に関する指導	講義	鈴 木
10	内部環境調節機能に障害のある対象の看護	1) 内分泌機能に障害のある患者の看護 (1) 甲状腺機能と日常生活への影響の把握 (2) 下垂体機能と日常生活への影響の把握 (3) 副腎皮質機能と生活への影響の把握と看護	講義	鈴 木
11	内部環境調節機能に障害のある対象の看護	2) 体液の調節障害のある患者の看護 (1) 腎機能障害の程度と症状の把握	講義	白 髭
12	内部環境調節機能に障害のある対象の看護	(2) 腎機能障害時の看護 (3) 腎機能の検査に伴う看護	講義	白 髭
13	内部環境調節機能に障害のある対象の看護	(4) 透析療法時の看護（血液透析・腹膜透析）	講義	白 髭

14	防衛機能に障害がある対象の看護	1) 自己免疫に障害のある患者の看護 (1) 自己免疫の状態と身体臓器への影響の把握	講義	白 髭
15	防衛機能に障害がある対象の看護	(2) 自己免疫による臓器の障害に対応した生活指導 (3) 病状悪化の予防のための生活指導	講義	白 髭
	試験			
評価方法	筆記試験（本試験：60 点以上を合格 不合格の場合は再試験を実施し、60 点以上を合格とする） 成績評価は 100 点満点とし、80 点以上を A、70 点以上を B、60 点以上を C、60 点未満を D で表し、A、B、C は合格、D は不合格とする。当該科目の出席時間数が規定時間数の 3 分の 2 以上であること（受験資格）			
教科書	系統看護学講座 専門分野 成人看護学 [1] 成人看護学総論、消化器、内分泌、代謝、腎・泌尿器、アレルギー/ 膠原病/ 感染（医学書院）			
備考 履修者への コメント	成人看護学実習Ⅱに関連性がある科目であるため、授業前に該当箇所の解剖生理学および病態と治療の授業資料、教科書を読み、予習・復習を行い授業に臨むこと。 履修順序は、変更する場合がある。			

授業要綱

科目名	成人看護援助論Ⅲ（回復期における対象の看護）	1 単位 30 時間	講義時期	2 年前期
授業の目的：回復期にある対象のもつ健康上の問題を解決するための看護を理解する。			担当講師 加藤 静子 白髭 英雄 小島 由希菜	
到達目標： 1. 回復期にある対象の身体的・心理的・社会的特徴を理解できる。 2. 主要症状、治療、処置、検査について理解し、それに伴う苦痛や身体への影響に対する看護を理解できる。 3. 回復期にある対象の健康上の問題をアセスメントし、問題を解決するための方法を理解できる。			実務経験のある教員科目 病院で看護師として実務経験（5 年以上）を有している教員が、その実務経験をいかして、回復期にある対象のもつ健康上の問題を解決するための看護を教授している。	
回	授業項目	内 容	授業方法	担当者
1	脳神経機能に障害のある対象の看護	1) 脳・神経機能障害と日常生活	講義	加 藤
2	脳神経機能に障害のある対象の看護	2) 脳・神経機能障害の把握と看護	講義	加 藤
3	脳神経機能に障害のある対象の看護	3) 脳・神経機能障害の検査・治療に伴う看護	講義	加 藤
4	運動機能に障害のある対象の看護	1) 運動機能障害の把握と看護	講義	加 藤
5	運動機能に障害のある対象の看護	2) 運動機能障害の検査・治療に伴う看護	講義	加 藤
6	リハビリテーション過程にある対象の看護	1) リハビリテーション看護の基礎	講義	加 藤
7	リハビリテーション過程にある対象の看護	1) 日常生活援助におけるリハビリテーション看護	講義	加 藤
8	循環機能に障害のある対象の看護	1) 循環機能障害と日常生活への影響の把握	講義	白 髭
9	循環機能に障害のある対象の看護	2) 循環機能障害による症状に対する看護	講義	白 髭
10	循環機能に障害のある対象の看護	3) 循環機能の検査・治療に伴う看護	講義	白 髭
11	循環機能に障害のある対象の看護	4) 循環機能障害時の看護	講義	白 髭
12			講義	白 髭
13			講義	白 髭

14	ボディ・イメージに障害のある 対象の看護	1) 直腸・結腸手術患者の看護 (1) ストーマとは (2) ストーマ術前看護	講義	小島
15	ボディ・イメージに障害のある 対象の看護	(3) ストーマ装具について (4) ストーマ術後看護	講義	小島
	試験			
評価方法	筆記試験（本試験：60点以上を合格 不合格の場合は再試験を実施し、60点以上を合格とする） 成績評価は100点満点とし、80点以上をA、70点以上をB、60点以上をC、60点未満をDで表し、A、B、Cは合格、Dは不合格とする。当該科目の出席時間数が規定時間数の3分の2以上であること（受験資格）			
教科書	系統看護学講座 専門分野 成人看護学 [1] 成人看護学総論、リハビリテーション看護、脳、神経、循環器、 臨床外科看護各論、消化器、運動器（医学書院）			
備考 履修者への コメント	成人看護学実習に関連性がある科目であるため、授業前に該当箇所の解剖生理学および病態と治療の授業資料、教科書を読み、予習・復習を行い授業に臨むこと。 履修順序は、変更する場合がある。			

授業要綱

科目名	成人看護援助論Ⅴ（看護過程の展開）	1単位	15時間	講義時期	2年前期
授業の目的：成人期にある対象のもつ健康上の問題を解決するための看護を理解する。				担当講師 白髭 英雄 加藤 静子	
到達目標：学習した知識を活用し、成人期にある対象の健康上の問題を明確にし、問題を解決するための方法を考察できる。				実務経験のある教員科目 病院で看護師として実務経験（5年以上）を有している教員が、その実務経験をいかして、成人期にある対象のもつ健康上の問題を解決するための看護過程の考え方、展開について理解できるように教授している。	
回	授業項目	内 容		授業方法	担当者
1	急性期にある対象の事例展開	1) 胃癌で手術を受ける対象の事例展開 (1) 紙上事例についてのオリエンテーション (2) 事例の紹介		講義	白髭 加藤
2	急性期にある対象の事例展開	2) データベース1の作成 3) データベース2の作成 4) データベース3の作成		演習	白髭 加藤
3	急性期にある対象の事例展開	同 上		演習	白髭 加藤
4	急性期にある対象の事例展開	同 上		演習	白髭 加藤
5	急性期にある対象の事例展開	5) 全体像（関連図）・情報の分析・解釈の作成 6) 看護問題・期待される結果・解決策・評価の作成		演習	白髭 加藤
6	急性期にある対象の事例展開	同 上		演習	白髭 加藤
7	急性期にある対象の事例展開	同 上		演習	白髭 加藤
8	急性期にある対象の事例展開	同 上		演習	白髭 加藤
9					
10					
11					
12					

13				
14				
15				
評価方法	レポート課題（紙上事例）の提出：60点以上を合格 不合格の場合、再指導を実施し、再度訂正後の課題を提出、60点以上を合格とする 成績評価は100点満点とし、80点以上をA、70点以上をB、60点以上をC、60点未満をDで表し、A、B、Cは合格、Dは不合格とする。 当該科目の出席時間数が規定時間数の3分の2以上であること（受験資格）			
教科書	系統看護学講座 専門分野 成人看護学〔1〕成人看護学総論、消化器、臨床外科看護総論、臨床外科看護各論（医学書院） 看護過程を使ったヘンダーソン看護論の実践 ヘンダーソンの基本的看護に関する看護問題リスト			
備考 履修者への コメント	事前課題があるため、必ず取り組み授業に臨むこと。 基礎看護援助論Ⅶ（看護過程の展開）で学んだ内容が基盤となり、成人看護学実習にも直結する内容であるため、必ず復習し授業に臨むこと。			

授業要綱

科目名 老年看護援助論Ⅰ		1単位 30時間	講義時期 2年前期	
授業の目的： 老年期にある対象の生活行動を理解し、基本的な技術を習得する。			担当教員 星野 実央 山岸 瑞穂	
到達目標： 1. 老化がもたらす生活への影響を理解し、日常生活の援助技術を習得する。			実務経験のある教員科目 病院で看護師として実務経験（5年以上）を有している教員が、その実務経験をいかして、老年期にある対象の生活行動を理解し、基本的な技術を教授している。	
回	授業項目	内 容	授業方法	担当者
1	日常生活の援助技術①	食事・食生活の援助	講義	星 野
2	日常生活の援助技術②	食事・食生活の援助（演習）	演習	星 野 山 岸
3	日常生活の援助技術③	① 食事介助（嚥下障害のある高齢者の食事介助） ② 経鼻胃カテーテルの挿入・確認		
4	日常生活の援助技術④	口腔内のアセスメントと援助	講義	星 野
5	日常生活の援助技術⑤	排泄の援助	講義	星 野
6	日常生活の援助技術⑥			
7	日常生活の援助技術⑦	生活リズムの援助	講義	星 野
8	日常生活の援助技術⑧	生活リズムの援助（演習） 生活リズムを整えるための電法・マッサージの方法	演習	星 野 山 岸
9	日常生活の援助技術⑨	清潔の援助	講義	星 野
10	日常生活の援助技術⑩			
11	日常生活の援助技術⑪	清潔の援助（演習）	演習	星 野 山 岸
12	日常生活の援助技術⑫	おむつ内失禁のある高齢者のオムツ交換、陰部洗浄の方法		
13	日常生活の援助技術⑬	移動自立の援助	講義	星 野
14	日常生活の援助技術⑭	移動自立の援助（演習）	演習	星 野

15	日常生活の援助技術⑮	麻痺状態にある高齢者の移動自立の援助 (車いす移乗、自力移動、杖歩行)		山 岸
	試験			
評価方法	筆記試験（本試験：60 点以上を合格 不合格の場合は再試験を実施し、60 点以上を合格とする） 成績評価は 100 点満点とし、80 点以上を A、70 点以上を B、60 点以上を C、60 点未満を D で表し、A、B、C は合格、D は不合格とする。 当該科目の出席時間数が規定時間数の 3 分の 2 以上であること（受験資格）			
教科書	系統看護学講座 専門分野 老年看護学（医学書院） 専門分野 老年看護 病態・疾病論（医学書院）			
参考書	カラーで学ぶ高齢者の看護技術 第 2 版 （医歯薬出版株式会社）			
備考 履修者への コメント	演習時は演習着着用 食事・食生活の援助（演習）では、プリン・ゼリー及び飲み物・タオルを持参。 生活リズムの援助（演習）ではフェイスタオル持参。 清潔の援助（演習）ではレインズボン持参。 移動自立の援助（演習）			

授業要綱

科目名 老年看護援助論Ⅱ		1 単位 30 時間	講義時期 2 年前期		
授業の目的： 老年期にある対象のもつ健康上の問題を解決するための援助方法を理解する。			担当教員 大田 一路 早坂 未央 山岸 瑞穂 星野 実央		
到達目標： 1. 老年期における健康障害の特徴を理解する。 2. 老年期にある対象がもつ主な症状に対する援助を理解する。 3. 医療施設における検査、治療に対する援助を理解する。 4. 老年期にある対象の状態に応じた援助方法を学ぶ。			実務経験のある教員科目 病院で看護師として実務経験（5年以上）を有している教員が、その実務経験をいかして、老年期にある対象のもつ健康上の問題を解決するための援助方法を教授している。		
回	授業項目	内 容	授業方法	担当者	
1	健康障害をもつ高齢者の理解と援助①	高齢者のフィジカルアセスメント	講義	星 野	
2	健康障害をもつ高齢者の理解と援助②				
3	健康障害をもつ高齢者の理解と援助③	健康障害に応じた援助 (骨粗鬆症、骨折、白内障、パーキンソン、脳卒中)	講義	星 野	
4	健康障害をもつ高齢者の理解と援助④				
5	健康障害をもつ高齢者の理解と援助⑤	高齢者に多い症状に対する援助 (老年症候群、痛み、脱水、かゆみ、浮腫、褥瘡)	講義	山 岸	
6	健康障害をもつ高齢者の理解と援助⑥				
7	健康障害をもつ高齢者の理解と援助⑦	コミュニケーション障害のある高齢者の援助 (難聴・構音障害・失語症)	講義	山 岸	
8	医療施設における高齢者への援助①	1) 入院生活への援助 2) 検査を受ける高齢者への援助 3) 薬物療法を受ける高齢者への援助 4) 手術療法を受ける高齢者への援助 5) 退院時の援助	講義	山 岸	
9	医療施設における高齢者への援助②		講義		
10	認知症のある高齢者の看護①		認知症とは	講義	早 坂
11	認知症のある高齢者の看護②		認知症の成り立ちと症状	講義	大 田
12	認知症のある高齢者の看護③		認知症の成り立ちと症状	講義	大 田
13	認知症のある高齢者の看護④	認知症のある高齢者への援助	講義	早 坂	
14	認知症のある高齢者の看護⑤	認知症のある高齢者を抱える家族への援助	講義	早 坂	
15	終末期における高齢者の看護	1) 高齢者と死 2) 終末期にある高齢者への援助 3) 終末期にある高齢者を抱える家族への援助 4) 死後の処置	講義	山 岸	
試験					
評価方法	筆記試験（本試験：60 点以上を合格 不合格の場合は再試験を実施し、60 点以上を合格とする） 成績評価は 100 点満点とし、80 点以上を A、70 点以上を B、60 点以上を C、60 点未満を D で表し、A、B、C は合格、D は不合格とする。 当該科目の出席時間数が規定時間数の 3 分の 2 以上であること（受験資格）				
教科書	系統看護学講座 専門分野 老年看護学（医学書院） 専門分野 老年看護 病態・疾病論（医学書院）				
参考書	カラーで学ぶ高齢者の看護技術 第 2 版（医歯薬出版株式会社）				
備考 履修者への コメント	老年看護学概論で体験した老年期の特徴や、身体的・心理的变化をしっかりと復習し授業に臨むこと。				

授業要綱

科目名 小児看護援助論Ⅰ		1単位 15時間	講義時期 2年前期	
授業の目的：健康な小児の養育に必要な知識と日常生活援助技術を習得する。			担当講師 浅香 洋美 藤崎 照代	
到達目標： 1. 小児各期の養育に必要な基本的知識が習得できる。 2. 小児各期における日常生活援助技術を習得できる。			実務経験のある教員科目 病院で看護師として実務経験（5年以上）を有している教員が、その実務経験をいかして、健康な小児の養育に必要な知識と日常生活援助技術を教授している。	
回	授業項目	内 容	授業方法	担当者
1	I. 小児の日常生活	1) 愛着形成と自律 2) 基本的な生活習慣の獲得 3) 遊びの意義	講義	浅香
2	II. 小児各期の養育	1) 乳児期	講義	浅香
3		2) 幼児期の養育 3) 学童期・思春期の養育		
4	III. 日常生活援助	1) 小児の日常生活援助技術	講義	浅香
5		2) 遊びの援助（発達促進） 3) 乳幼児期の遊びについてグループワーク		
6	小児の日常生活援助技術 －演習－	演習 1) 乳児期の日常生活援助技術	演習	浅香 藤崎
7		2) 小児の安全を守る技術 3) 乳幼児期の遊びについての発表		
8	試験			
評価方法	筆記試験：92点・レポート課題：8点 （本試験：60点以上を合格 不合格の場合は再試験を実施し、60点以上を合格とする） （課題内容に不足がないか確認し、不足時、課題の再学習をさせる）。 成績評価は100点満点とし、80点以上をA、70点以上をB、60点以上をC、60点未満をDで表し、A、B、Cは合格、Dは不合格とする。当該科目の出席時間数が規定時間数の3分の2以上であること（受験資格）			
教科書	<ul style="list-style-type: none"> ・系統看護学講座 専門分野 小児看護学 [1] 小児看護学概論 小児臨床看護総論（医学書院） ・看護のための人間発達学 第5版 舟島 なをみ（医学書院） ・写真でわかる小児看護技術 監修：山元 恵子（インターメディカ） 			
参考書	<ul style="list-style-type: none"> ・イラスト小児の生活援助技術 木口 チョ・小林 八代枝（文光堂） ・パーフェクト臨床実習ガイド 小児看護 第2版 筒井真優美（照林社） 			
備考 履修者への コメント	<ul style="list-style-type: none"> ・発達段階別の基本的な生活習慣の習得に必要な知識、技術を講義及び演習を通して学んでいきます。また、遊びは子どもの発達と密接にかかわりながら変化することを学んでほしい。 			

授業要綱

科目名 小児看護援助論Ⅱ		1単位 30時間	講義時期 2年前期					
授業の目的 1. 健康問題のある小児と家族の看護を理解する。 2. さまざまな健康段階にある小児の看護を理解する。			担当講師 藤崎 照代 関口 六月 佐藤 祐美 竹花 志乃					
到達目標： 1. 小児期に特有の健康問題と健康問題のある小児を取り巻く環境を理解できる。 2. 小児の健康段階に応じた看護を理解できる。			病院で看護師として実務経験(5年以上)を有している教員が、その実務経験をいかして、健康問題のある小児と家族の看護、さまざまな健康段階にある小児の看護について教授している。					
回	授業項目	内 容	授業方法	担当者				
1	Ⅰ. 小児の健康問題	1) 小児の健康問題の特徴	講義	藤崎				
2		2) 小児の入院環境 3) 健康問題が小児と家族に与える影響 4) 健康問題のある小児と家族の看護						
3	Ⅱ. さまざまな健康段階にある小児の看護	1) 急性の経過をたどる小児の疾患と看護 (1) 気管支喘息 (2) クループ症候群 (3) 肺炎 (4) 髄膜炎 (5) 麻疹 (6) ロタウイルス腸炎 (7) 川崎病	講義	藤崎				
4		2) 継続的に治療を必要とする小児の疾患と看護 (1) 先天性心疾患 (2) ネフローゼ症候群 (3) 急性糸球体腎炎 (4) 糖尿病 (5) 紫斑病	講義	藤崎				
5			3) 予後不良の小児の疾患と看護 (1) 白血病	講義	藤崎			
6				4) 低出生体重児の看護 (1) 胎外生活への適応の促進 (2) 成長、発達の促進 (3) 家族への看護	講義	関口		
7		5) 手術をうける小児の看護 (1) 小児期の手術の特徴 (2) 手術をうける小児と家族の看護(術前～術後) (3) 手術をする小児の疾患と看護 [口唇裂・口蓋裂・肥厚性幽門狭窄・腸重積・急性虫垂炎・鼠径ヘルニア]	講義		佐藤			
8				6) 在宅療法を行う小児の看護 (1) 在宅療法を行う小児と家族の特徴 (2) 小児の在宅医療の実際				
9						7) 障害のある小児の看護 (1) 障害のある小児の特徴 (2) 重症心身障害児施設の役割と機能 (3) 重症心身障害児の健康管理	講義	竹花
10								
11		試験・まとめ						
12								
13								
14		試験・まとめ						
15								
評価方法		筆記試験(本試験:60点以上を合格 不合格の場合は再試験を実施し、60点以上を合格とする) 成績評価は100点満点とし、80点以上をA、70点以上をB、60点以上をC、60点未満をDで表し、A、B、Cは合格、Dは不合格とする。 当該科目の出席時間数が規定時間数の3分の2以上であること(受験資格)						
教科書	系統看護学講座 専門分野 小児看護学[1] 小児看護学概論 小児看護臨床総論(医学書院) 系統看護学講座 専門分野 小児看護学[2] 小児看護学各論(医学書院) 看護のための人間発達学 第5版 舟島なをみ(医学書院) 写真でわかる小児看護技術 監修:山元 恵子(インターメディカ) 写真でわかる重症心身障害児(者)のケア 監修:鈴木康之 船橋満寿子(インターメディカ)							
参考書	重症心身障害療育マニュアル 江草安彦監修(医師薬出版) パーフェクト臨床実習ガイド 小児看護 第2版 筒井 真優美(照林社)							
備考 履修者への コメント	・病気・障害を持つ子どもと家族の特徴と看護の役割を理解し、入院や外来、在宅などの子どもを取り巻く環境について講義を通して学んで欲しい。また、小児特有の各疾患について、病態・症状・診断・治療・看護について理解し、領域別実習における学習に繋げて欲しい。							

授業要綱

科目名 母性看護援助論 I		1 単位 30 時間	講義時期 2 年前期
授業の目的： 1. 母性各期の健康に影響を及ぼす因子を理解し、健康の増進、対象が役割を果たすために必要な看護を学ぶ。 2. 周産期の母児の看護を通して、生命の神秘性や尊さを知り、生命尊重の価値観を養う。		担当講師 村上 由美子	
到達目標： 1. 妊・産・褥婦及び新生児の生理的变化と正常な経過を理解できる。 2. 周産期以外の母性各期の対象に必要な保健指導を理解できる。 3. 正常経過をたどる母児に対し、必要な援助と健康指導を習得できる。		実務経験のある教員科目 病院で助産師として実務経験（5年以上）を有している教員が、その実務経験をいかして、母性各期の健康に影響を及ぼす因子を理解し、健康の増進、対象が役割を果たすために必要な看護を教授している。周産期の母児の看護を通して、生命の神秘性や尊さを知り、生命尊重の価値観を養えるよう教授している。	
回	授業項目	内 容	授業方法
1	妊娠期①	1) 妊娠の生理的变化	講義
2	妊娠期②	2) 母体と胎児の健康状態と観察	講義
3	妊娠期③④	3) 妊娠への受容	講義
4		4) 妊娠期にかかわる援助方法	
5	分娩期①	1) 分娩の種類 2) 母体と胎児の健康状態と観察	講義
6	分娩期②	3) 母体の生理的变化	講義
7	分娩期③	4) 分娩の受容	講義
8	分娩期④	5) 分娩期にかかわる援助	講義
9	産褥期①	1) 退行性変化の観察と診断	講義
10	産褥期②	2) 進行性変化の観察と診断	講義
11	産褥期③	3) 進行性変化の観察と判断	講義
12	産褥期④	4) 母親としての受容	講義
13	産褥期⑤	5) 出産に対する家族の適応	講義
14	新生児期①	1) 新生児の生理的变化 2) 出生直後の新生児の健康 3) 生理的適応状態	講義
15	新生児期②	4) 新生児期にかかわる援助方法	講義
	試験		
評価方法	筆記試験（本試験：60 点以上を合格 不合格の場合は再試験を実施し、60 点以上を合格とする） 成績評価は 100 点満点とし、80 点以上を A、70 点以上を B、60 点以上を C、60 点未満を D で表し、A、B、C は合格、D は不合格とする。当該科目の出席時間数が規定時間数の 3 分の 2 以上であること（受験資格）		
教科書	系統看護学講座 専門分野 母性看護学 [2] 母性看護学（医学書院） ナーシンググラフィカ母性看護学②母性看護の実践 【2022 年版】（メディカ出版） ナーシンググラフィカ母性看護学③母性看護 技術 【2022 年版】（メディカ出版）		
備考 履修者への コメント			

授業要綱

科目名 精神看護援助論 I		1 単位 30 時間	講義時期 2 年前期	
授業の目的： 1. コミュニケーションのあり方を考察し、治療的人間関係の構築や発展過程について学びを深める。 2. 精神障害者の社会復帰、地域生活に必要な制度や今後の精神看護における課題や展望について理解を深める。		担当講師 田邊 由鶴 山田 和美		
到達目標：メンタルケアの基本技術を理解できる。		実務経験のある教員科目 病院で看護師として実務経験（5年以上）を有している教員が、その実務経験をいかして、精神障害者の社会復帰、地域生活に必要な制度や今後の精神看護における課題や展望について教授している。コミュニケーションのあり方を考察し、治療的人間関係の構築や発展過程について学びを深めるよう教授している。		
回	授業項目	内 容	授業方法	担当者
1	援助関係の構築への理解	1) 精神障害をもつ人との関わり方	講義	田 邊
2		2) 精神障害をもつ人とのコミュニケーション		
3		①コミュニケーションについて		
4		③ 精神障害をもつ人とのコミュニケーションの特徴		
5		④ コミュニケーション技法		
6		3) 精神障害をもつ人との関係の振り返り		
7		①プロセスレコードの活用		
8	危機状態にある人への介入	1) 危機的状況にある人への関わり方（事例検討） ①フィンクの危機モデル ②アギュレラの危機理論 2) ストレスに対するケア	講義	山 田
9	精神障害をもつ人への看護援助の展開	1) 看護援助の基本構造	講義	山 田
10		2) 精神障害をもつ人のセルフケアの援助		
11	精神障害をもつ人の地域における生活支援	1) 精神科リハビリテーション	講義	山 田
12		①社会生活技能訓練（SST）		
13		②精神科デイケア ③精神科訪問看護		
14	精神看護の発展	2) 社会資源の活用	講義	山 田
15		①地域精神保健活動における社会資源の活用		
		3) 家族看護		
		1) 精神科以外での精神看護について	講義	山 田
		①リエゾン精神看護		
		②司法精神医学と看護 ③災害時の精神保健		
	試験			
評価方法	筆記試験（本試験：60 点以上を合格 不合格の場合は再試験を実施し、60 点以上を合格とする） 成績評価は 100 点満点とし、80 点以上を A、70 点以上を B、60 点以上を C、60 点未満を D で表し、A、B、C は合格、D は不合格とする。当該科目の出席時間数が規定時間数の 3 分の 2 以上であること（受験資格）			
教科書	新体系 看護学全書 精神看護学② 精神障害をもつ人の看護（メヂカルフレンド社）			
参考書	精神神経疾患 ビジュアルブック（学研）			
備考 履修者への コメント	プロセスレコードの講義では基礎看護学実習 I—B で患者との関わりの中で自分が困った事例を振り返り自分自身を考察する。			

授業要綱

科目名 精神看護援助論Ⅱ		1 単位 30 時間	講義時期 2 年前期	
授業の目的： 1. 代表的な精神疾患、精神障害、精神症状の概要及び看護の実際を理解する。 2. 精神障害のある対象への援助方法を理解する。 3. 精神科病棟における治療環境、安全管理を理解する。			担当講師 田邊 由鶴 佐藤 亮介 山田 和美 清水 咲子	
到達目標： 1. 精神疾患、精神障害、精神症状の概要及び看護の実際を理解できる。 2. 精神を障害された対象の援助方法、治療環境、安全管理を理解できる。			実務経験のある教員科目 病院で看護師として実務経験（5年以上）を有している教員が、その実務経験をいかして、代表的な精神疾患、精神障害、精神症状の概要及び看護の実際を教授する。精神障害のある対象への援助方法、精神科病棟における治療環境、安全管理を学ぶ。	
回	授業項目	内 容	授業方法	担当者
1	主な精神疾患・精神障害、 精神症状がある対象への看護	1) 精神症状について ・思考の障害 ・意欲の障害 ・意識の障害 ・局在症状 2) 主な精神疾患 ・統合失調症 ・気分（感情）障害 ・神経症性障害、ストレス関連障害及び 身体表現性障害 ・パーソナリティ障害 ・アディクション ・てんかん ・知的障害/精神遅滞 ・器質性精神障害 ・心理的発達の障害 ・小児期及び青年期に通常発症する行動及び 情緒の障害	講義	佐藤
2				
3				
4				
5				
6				
7				
8				
9				
10				
11	治療・検査を受ける対象への 看護	1) 診察、検査、治療に伴う援助について ①薬物療法 ②精神療法 ③電気けいれん療法 2) 安全な治療環境の提供 ①安全管理、リスクマネジメント ②行動制限	講義	田邊
12				
13		行動制限時の看護（演習）	演習	清水 山田 田邊
14				
15				
	試験			
評価方法	筆記試験（本試験：60 点以上を合格 不合格の場合は再試験を実施し、60 点以上を合格とする） 成績評価は 100 点満点とし、80 点以上を A、70 点以上を B、60 点以上を C、60 点未満を D で表し、A、B、C は合格、D は不合格とする。 当該科目の出席時間数が規定時間数の 3 分の 2 以上であること（受験資格）			
教科書	新体系 看護学全書 精神看護学② 精神障害をもつ人の看護（メヂカルフレンド社）			
参考書	精神神経疾患 ビジュアルブック（学研）			
備考 履修者への コメント	行動制限の看護では実際に身体拘束の経験をしてもらい対象の苦痛を理解する演習。事前に行動制限について予習することで理解を深められる。 服装は白のポロシャツ・上着は白のトレーナー（ワンポイント可）もしくは実習用のカーディガン・スポンはジャージ、髪型は実習に準ずる。			

授業要綱

科目名	在宅看護概論		1 単位 30 時間	講義時期	2 年前期
授業の目的： 1. 地域の概念とその変遷および今日の課題を理解する。 2. 在宅看護の活動の場と機能、役割、対象について理解する。 3. 地域ケアシステムと社会資源を理解し調整的機能について考える。 4. 諸理論をもとに家族の機能と役割を理解する。				担当講師 向井 直子	
到達目標： 1. 地域間ごと在宅看護の概念と特徴について理解する。 2. 在宅看護の発展の背景および在宅看護のニーズと動向について理解する。 3. 在宅看護を支援する保健医療福祉活動について理解する。 4. 公的介護保険制度を理解し、ケアマネジメントの必要性を考える。 5. 家族の機能や役割を理解する。				実務経験のある教員科目 病院で看護師として実務経験（5 年以上）を有している教員が、その実務経験をいかして、在宅看護の活道の場と機能、役割、対象について教授する。地域ケアシステムと社会資源を理解し調整的機能について考える。諸理論をもとに家族の機能と役割を学ぶ。	
回	授業項目	内 容		授業方法	
1	地域看護と在宅看護	1) 地域看護の概念 2) 地域看護の機能と役割 3) 地域看護の実践される場と活動分野		講義	
2	地域看護と在宅看護	4) 在宅看護の特徴 5) 在宅看護の機能・役割・対象		講義	
3	在宅看護活動の変遷	1) 在宅看護活動の変遷と現状 2) わが国における在宅看護の発展要因と社会背景		講義	
4	在宅看護活動の変遷	3) 在宅看護の必要性 4) 在宅看護の展望と課題		講義	
5	在宅療養者の権利保障	1) 在宅療養者の権利保障		講義	
6	在宅保健医療福祉活動と在宅ケア体制	1) 保健医療福祉機関とその内容 2) 福祉サービスの役割と活動		講義	
7	在宅保健医療福祉活動と在宅ケア体制	3) 在宅看護活動体制と看護の役割 4) 在宅看護にかかわる法規 5) 退院調整		講義	
8	ケアマネジメント	1) ケアマネジメントの概念 2) 公的介護保険		講義	
9	ケアマネジメント	公的介護保険		講義	
10	ケアマネジメント	3) ケアプラン		GW	
11	ケアマネジメント	ケアプラン		GW	
12	在宅療養者とその家族	1) 家族の機能、役割、形態の変化 2) 家族ヘルスケア機能 3) 家族システム理論		講義	
13	在宅療養者とその家族	4) 家族危機理論 5) 家族発達論		講義	
14	在宅療養者とその家族	6) 紙上事例		GW	
15	試験・まとめ				
評価方法	筆記試験（本試験：60 点以上を合格 不合格の場合は再試験を実施し、60 点以上を合格とする） 成績評価は 100 点満点とし、80 点以上を A、70 点以上を B、60 点以上を C、60 点未満を D で表し、A、B、C は合格、D は不合格とする。当該科目の出席時間数が規定時間数の 3 分の 2 以上であること（受験資格）				
教科書	1) 系統看護学講座 統合分野 在宅看護論 医学書院 2) 看護実践のための根拠がわかる 在宅看護技術 第 3 版 メジカルフレンド社				
備考 履修者への コメント					

授業要綱

科目名： 在宅看護援助論 I (日常生活の援助技術)		1 単位 30 時間	講義時期： 2 年 前期	
授業の目的： 在宅看護に必要な日常生活援助に関する援助技術を身につける。			担当講師： 山崎 寛子	
到達目標： 1. 在宅で療養する人々の心理を理解し、よい人間関係を作るために必要な技術・態度を考える 2. 基本的な看護技術を応用、創意工夫して在宅で活用できる			実務経験のある教員科目 病院で看護師として実務経験（5 年以上）を有している教員が、その実務経験をいかして、在宅看護に必要な日常生活援助に関する援助技術を教授する。	
回	授業項目	内 容	授業方法	担当者
1	訪問看護技術の基本	1) 態度・行動のもつ意味 2) 家庭訪問の心構え	講義	山崎
2	訪問看護技術の基本	3) 援助関係の基本 4) 指導・相談技術	講義	山崎
3	日常生活の援助技術	1) 介護用具の種類・価格調査	GW	山崎
4	日常生活の援助技術	2) 介護用具の種類・価格調査	GW	山崎
5	日常生活の援助技術	3) 療養環境	講義	山崎
6	日常生活の援助技術	4) 食事	講義	山崎
7	日常生活の援助技術	5) 排泄	講義	山崎
8	日常生活の援助技術	6) 清潔・衣生活	講義	山崎
9	日常生活の援助技術	7) 活動・リハビリテーション	講義	山崎
10	日常生活の援助技術	8) 休息・睡眠	講義	山崎
11	日常生活の援助技術	9) 作成した介護用具を利用した演習 価格調査発表	発表	山崎
12	日常生活の援助技術	10) 作成した介護用具を利用した演習 価格調査発表	発表	山崎
13	日常生活の援助技術	11) 演習（リフターの移動・入浴介助）	演習	山崎
14	日常生活の援助技術	12) 演習（丸首パジャマ交換）	演習	山崎
15	試験・まとめ			
評価方法	筆記試験（本試験：60 点以上を合格 不合格の場合は再試験を実施し、60 点以上を合格とする） 成績評価は 100 点満点とし、80 点以上を A、70 点以上を B、60 点以上を C、60 点未満を D で表し、A、B、C は合格、D は不合格とする。当該科目の出席時間数が規定時間数の 3 分の 2 以上であること（受験資格）			
教科書	1) 系統看護学講座 専門分野 在宅看護論 (医学書院) 2) 看護実践のための根拠がわかる 在宅看護技術 第 3 版 (メヂカルフレンド社)			
備考 履修者への コメント				

授業要綱

科目名：在宅看護援助論Ⅱ (医療技術・対象の特性)		1 単位 30 時間	講義時期： 2 年 前期	
授業の目的： 1. 在宅看護に必要な医療処置に関する援助技術を身につける。 2. 対象の特性をふまえ、在宅看護を行う上での健康課題を理解する			担当講師： 向井 直子	
到達目標： 1. 在宅看護で必要とされる医療処置やその対象にあった援助の方法を理解する 2. 在宅看護における対象の特徴を理解する 3. 在宅看護を行う上での健康課題を理解する			実務経験のある教員科目 病院で看護師として実務経験（5年以上） を有している教員が、その実務経験をいかして在宅看護に必要な医療処置に関する援助技術を教授する。対象の特性をふまえ、在宅看護を行う上での健康課題を学ぶ	
回	授業項目	内 容	授業方法	担当者
1	医療処置に伴う援助技術	経管栄養法・中心静脈栄養法・インスリンの自己注射	講義	向井
2	医療処置に伴う援助技術	腎瘻・膀胱瘻・間欠的自己導尿・膀胱留置カテーテル	講義	向井
3	医療処置に伴う援助技術	在宅酸素療法	講義	向井
4	医療処置に伴う援助技術	気管切開・吸引・人工呼吸器	講義	向井
5	医療処置に伴う援助技術	CAPD	講義	向井
6	対象の特性	在宅で療養する身体に障害のある 高齢者・寝たきり高齢者へのケア	講義	向井
7	対象の特性	在宅で生活する感染症療養者へのケア	講義	向井
8	対象の特性	在宅で療養する難病のある人へのケア	講義	向井
9	対象の特性	在宅で療養する終末期を迎えた人へのケア (老いて最期を迎える人)	講義	向井
10	対象の特性	在宅で療養する終末期を迎えた人へのケア (末期がん/疼痛コントロール)	講義	向井
11	対象の特性	死後の処置とグリーフケア	講義	向井
12	対象の特性	紙上事例	GW	向井
13	対象の特性	紙上事例	GW	向井
14	対象の特性	吸引	演習	向井
15	試験・まとめ			
評価 方法	筆記試験（本試験：60 点以上を合格 不合格の場合は再試験を実施し、60 点以上を合格とする） 成績評価は 100 点満点とし、80 点以上を A、70 点以上を B、60 点以上を C、60 点未満を D で表し、A、B、C は合格、D は不合格とする。当該科目の出席時間数が規定時間数の 3 分の 2 以上であること（受験資格）			
教科書	1) 系統看護学講座 統合分野 在宅看護論 (医学書院) 2) 看護実践のための根拠がわかる 在宅看護技術 第3版 メヂカルフレンド社			
備考 履修者 へのコ メント				

第23回生（2年生）授業要綱（後期）

授業要綱

科目名 社会福祉		1 単位 15 時間	講義時期 2 年後期
授業の目的：社会福祉とは何か、社会福祉の発達史を含め、社会福祉の基礎を身につけ、医療と福祉に関わる専門職としての役割を考察できるようにする。			担当講師 小林 明弘
到達目標： 保健医療における福祉の概念、社会福祉制度、社会保障、障害者福祉、高齢者福祉について学び、社会資源の活用について理解できる。			
回	授業項目	内 容	授業方法
1	社会福祉とは何か	社会福祉の理念・概念	講義
2	社会福祉の歴史の変遷	社会福祉の歴史的視点	講義
3	ソーシャルワークの専門技術	ソーシャルワーク実践の知識・技術	講義
4	公的扶助	生活保護	講義
5	障害者福祉	身体障害・知的障害・精神障害	講義
6	児童福祉・高齢者福祉	里親・虐待・介護保険・成年後見	講義
7	社会保障	憲法 25 条・社会保険	講義
	試 験		
評価方法	筆記試験（本試験：60 点以上を合格 不合格の場合は再試験を実施し、60 点以上を合格とする） 成績評価は 100 点満点とし、80 点以上を A、70 点以上を B、60 点以上を C、60 点未満を D で表し、A、B、C は合格、D は不合格とする。 当該科目の出席時間数が規定時間数の 3 分の 2 以上であること（受験資格） 第 1 回から第 7 回の講義と試験で 15 時間（講義を 5 回以上出席とする）		
教科書	系統看護学講座 専門基礎分野 健康支援と社会保障制度 [3] 社会保障と社会福祉 （医学書院）		
備考 履修者への コメント			

授業要綱

科目名	公衆衛生学	1 単位	3 0 時間	講義時期	2 年後期
授業の目的：公衆衛生の基本内容、生活者の健康増進に対応した法制度及び保健活動の進め方について理解する。				担当講師 高橋 美保子	
到達目標：健康観の変遷を学び、健康と疾病の概念を人間と環境との相互関係からとらえる。現代の人々の健康課題、健康状態を規定する諸因子を学び、健康増進と疾病予防の対策及び個人や集団を対象とする健康管理と保健活動の意義について理解を深める。					
回	授業項目	内 容			授業方法
1	公衆衛生の概念	公衆衛生の基本概念を理解し、公衆衛生の歴史や活動の特徴について学ぶ。			講義
2	疫学的方法による健康の理解	公衆衛生や基本的な方法である疫学について、考え方・方法を学ぶ			講義
3	健康に関連した指標（1） 人口静態統計、国勢調査	人口静態統計の仕組み、人口指標について学ぶ 日本の人口の現状を理解する			講義
4	健康に関連した指標（2） 人口動態統計	人口動態統計の仕組み、健康指標について学ぶ 5 事象（出生、死亡、婚姻、離婚、死産）の現状を理解する			講義
5	健康に関連した指標（3） 有病状況	国民生活基礎調査、患者調査等から得られる指標について学ぶ 国民の有病状況を理解する。			講義
6	感染症とその予防（1）	感染症の法制度や各種対策について学ぶ。 主な感染症について現状を理解する。			講義
7	感染症とその予防（2）	（感染症法、院内感染とその予防、予防接種、結核予防、 HIV 感染症、AIDS、新型インフルエンザ）			
8	生活環境の保全	生活環境と健康の関係を学ぶ。生活環境の安全を確保し健康に 過ごすための法制度と各種の対策について学ぶ。			講義
9	保健活動（1） 地域保健	地域住民が適切な保健サービスを受けられるよう、地域内に どのような医療資源と人的資源が用意されているか学ぶ。			講義
10	保健活動（2） 母子保健	母子保健の歴史、現在の母子保健サービスと法制度について学ぶ。 現在の母子保健の課題とその対策について学ぶ。			講義
11	保健活動（3） 学校保健 保健活動（4） 精神保健	学校保健の意義と内容、学童期の健康問題と対策について学ぶ。 精神保健福祉の現状と精神障害者の社会復帰対策について学ぶ。			講義
12	保健活動（5） 生活習慣病の 予防	主な生活習慣病の現状を理解する。 我が国における健康づくり施策について学ぶ。			講義
13	保健活動（6） がん対策 保健活動（7） 難病対策	がんの現状と対策について学ぶ。 難病対策の概要について学ぶ。			講義
14	保健活動（8） 職場の健康管理	労働による健康障害について学ぶ。 産業保健に関わる法制度と健康管理対策について学ぶ。			講義
15	試験・まとめ				
評価方法	筆記試験（本試験：60 点以上を合格 基準に満たない場合、再試験を 1 回行い 60 点以上を合格とする） 成績評価は 100 点満点とし、80 点以上を A、70 点以上を B、60 点以上を C、60 点未満を D で表し、A、B、C は合格、D は不合格とする。当該科目の出席時間数が規定時間数の 3 分の 2 以上であること（受験資格）				
教科書	系統看護学講座 専門基礎分野 社会支援と社会保障制度 [2] 公衆衛生 (医学書院)				
参考書	国民衛生の動向				
備考 履修者への コメント					

授業要綱

科目名 関係法規		1単位 15時間	講義時期 2年後期
授業の目的：医療の現場から我が国の保健・医療・福祉に関する諸制度の概要を理解し、そこにおいて、看護はどのような位置を占め、役割を受け持っているかを認識する。		担当講師 池澤 敏幸	
到達目標：法規の概念と保健、医療、看護に関する主な法律について知り、対象となる人々の生命と人権を守る看護師の法的責任と義務について理解できる。			
回	授業項目	内 容	授業方法
1	法の概念・法の分類について	法の概念、法の分類、衛生法と厚生行政の仕組みについて理解する。	講義
2	看護法について	保健師助産師看護師法についての定義、免許（資格）、業務について理解する。	講義
3	医事法について	医療法・医療関係資格法として医師法、歯科医師法等について理解する。	講義
4	保健衛生法について	地域保健法、精神保健及び精神障害者福祉に関する法、母子保健法について理解する。	講義
5	保健衛生法について	母体保護法、感染症・予防接種法等に関する法律について理解する。	講義
6	薬務法・環境衛生法・社会保険法について	薬事法、環境衛生法、社会保険法等について理解する。	講義
7	福祉法、労働法と社会基盤整備、環境法について	福祉法、労働基準法、環境法等について理解する。	講義
8	試験		
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			
評価方法	筆記試験（本試験：60点以上を合格 不合格の場合は再試験を実施し、60点以上を合格とする） 成績評価は100点満点とし、80点以上をA、70点以上をB、60点以上をC、60点未満をDで表し、A、B、Cは合格、Dは不合格とする。 当該科目の出席時間数が規定時間数の3分の2以上であること（受験資格）		
教科書	系統看護学講座 専門基礎分野 健康支援と社会保障制度 [4] 看護関係法令 （医学書院）		
備考 履修者への コメント			

授業要綱

科目名 成人看護援助論Ⅳ（終末期における対象の看護）		1 単位 30 時間	講義時期 2 年後期	
授業の目的：終末期にある対象のもつ健康上の問題を解決するための看護を理解する。			担当講師 白髭 英雄 加藤 静子 近藤 夏貴	
到達目標： 1. 終末期にある対象の身体的・心理的・社会的特徴を理解できる。 2. 主要症状、治療、処置、検査について理解し、それに伴う苦痛や身体への影響に対する看護を理解できる。 3. 終末期にある対象の健康上の問題をアセスメントし、問題を解決するための方法を理解できる。			実務経験のある教員科目 病院で看護師として実務経験（5 年以上）を有している教員が、その実務経験をいかして、終末期にある対象のもつ健康上の問題を解決するための看護を教授する。	
回	授業項目	内 容	授業方法	担当講師名
1	呼吸機能に障害のある対象の看護	1) 呼吸機能障害と日常生活への影響の把握	講義	白 髭
2	呼吸機能に障害のある対象の看護	2) 呼吸機能障害による症状に対する看護	講義	白 髭
3	呼吸機能に障害のある対象の看護	3) 呼吸機能の検査・治療に伴う看護	講義	白 髭
4	呼吸機能に障害のある対象の看護	4) 呼吸機能障害時の看護	講義	白 髭
5	感覚機能に障害のある対象の看護	1) 感覚機能障害による症状に対する看護	講義	加 藤
6	感覚機能に障害のある対象の看護	2) 感覚機能障害による検査・治療に伴う看護	講義	加 藤
7	生活障害に必要な看護技術	1) 生活障害に必要な看護技術（演習）	演習	白 髭
8	生活障害に必要な看護技術	同上	演習	白 髭
9	化学療法を受ける対象の看護	1) 血液・造血機能に障害をもつ患者の看護 (1) 血液・造血機能障害と日常生活への影響の把握	講義	白 髭
10	化学療法を受ける対象の看護	(2) 血液・造血機能の検査に伴う看護 (3) 血液・造血機能の治療（化学療法）に伴う看護	講義	白 髭
11	女性生殖器機能に障害のある対象の看護	1) 女性生殖器機能障害の把握と看護	講義	加 藤
12	終末期にある対象の看護	1) 緩和ケアを必要とする患者・家族への看護 (1)緩和ケア概論	講義	近 藤
13	終末期にある対象の看護	(2) 癌疾患を持つ患者の身体的苦痛の理解 (3) 癌疾患を持つ患者の身体的苦痛に対する看護 (4) 癌疾患を持つ患者の代表的な精神症状の理解	講義	近 藤
14	終末期にある対象の看護	(5) 看取り期における患者家族の理解 (6) 看取り期における患者・家族の看護	講義	近 藤
15	試験・まとめ			
評価方法	筆記試験（本試験：60 点以上を合格 不合格の場合は再試験を実施し、60 点以上を合格とする） 成績評価は 100 点満点とし、80 点以上を A、70 点以上を B、60 点以上を C、60 点未満を D で表し、A、B、C は合格、D は不合格とする。当該科目の出席時間数が規定時間数の 3 分の 2 以上であること（受験資格） 12～14 回 近藤の授業における出席確認は、授業時配布するアンケートの提出をもって出席とする			
教科書	系統看護学講座 専門分野 成人看護学 [1] 成人看護学総論、緩和ケア、呼吸器、眼、耳鼻咽喉、歯、口腔、女性生殖器、血液・造血器（医学書院）			
参考書	ナーシング・グラフィカ：成人看護学⑥ 緩和ケア がん疼痛の薬物療法に関するガイドライン 編集 特定非営利活動法人 日本緩和医療学会			
備考 履修者への コメント	成人看護学実習Ⅲ終末期実習に関連性がある科目であるため、授業前に該当箇所の解剖生理学および病態と治療の授業資料、教科書を読み、予習・復習を行い授業に臨むこと。 履修順序は、変更する場合がある。			

授業要綱

科目名 老年看護援助論Ⅲ		1 単位 1 5 時間	講義時期 2 年後期	
授業の目的： 加齢変化によって起こる生活機能の変化や、寝たきり予防の援助方法を理解する。		担当教員 星野 実央 山岸 瑞穂		
到達目標： 1. 老年期にある対象の加齢変化によって起こる生活機能の変化をアセスメントし、看護を展開する方法を学ぶ。 2. 高齢者の QOL を考えた援助方法を理解する。		実務経験のある教員科目 病院で看護師として実務経験（5 年以上）を有している教員が、その実務経験をいかして、加齢変化によって起こる生活機能の変化、寝たきり予防の援助方法や看護過程の展開を教授する。		
回	授業項目	内 容	授業方法	担当者
1	看護過程の展開①	加齢変化と生活機能 生理的加齢変化と生活機能のアセスメント	グループ ワーク	星 野 山 岸
2	看護過程の展開②	加齢変化と生活機能 生理的加齢変化と生活機能のアセスメント	グループ ワーク	星 野 山 岸
3	看護過程の展開③	加齢変化と生活機能 生理的加齢変化と生活機能のアセスメント	グループ ワーク	星 野 山 岸
4	看護過程の展開④	加齢変化と生活機能 生理的加齢変化と生活機能のアセスメント	グループ ワーク	星 野 山 岸
5	寝たきり防止への看護①	1) 寝たきりとは 2) 寝たきり防止のための援助	講義	星 野
6	寝たきり防止への看護②	3) 廃用症候群予防の呼吸機能を高めるための援助 寝たきりの高齢者を抱える家族への援助	講義	星 野
7	寝たきり防止への看護③	廃用症候群のリスクアセスメント（演習） 紙上事例のリスクアセスメント	グループ ワーク	星 野 山 岸
8	試験・まとめ			
評価方法	筆記試験・レポート課題 筆記試験：40 点、レポート課題：60 点 （本試験：60 点以上を合格 不合格の場合は再試験を実施し、60 点以上を合格とする） 成績評価は 100 点満点とし、80 点以上を A、70 点以上を B、60 点以上を C、60 点未満を D で表し、A、B、C は合格、D は不合格とする。 当該科目の出席時間数が規定時間数の 3 分の 2 以上であること（受験資格）			
教科書	系統看護学講座 専門分野 老年看護学 （医学書院） 専門分野 老年看護 病態・疾病論 （医学書院）			
参考書	カラーで学ぶ高齢者の看護技術 第 2 版 （医歯薬出版株式会社）			
備考 履修者への コメント	老年看護学概論、援助論Ⅰ・Ⅱの学習内容をもとに、加齢変化によって起こる生活機能の変化や、寝たきり予防の援助を学習する。グループワーク中心に授業が展開していくため、グループワークへの積極的な参加を求める。			

授業要綱

科目名 小児看護援助論Ⅲ		1 単位 30 時間	講義時期 2 年後期	
授業の目的 1. 健康問題のあるこどもに対する基本的な援助方法を習得する。 2. 健康問題のあるこどもの回復過程を理解できる。			担当講師 藤崎 照代 浅香 洋美 佐藤 祐美	
到達目標 1. 症状を示すこどもの看護を理解できる。 2. 検査・処置を受けるこどもの看護、基本的な看護技術を習得できる。 3. 健康問題のあるこどもの回復過程の経過を理解する。			実務経験のある教員科目 病院で看護師として実務経験(5年以上)を有している教員が、その実務経験をいかして、健康問題のあるこどもに対する基本的な援助方法、健康問題のあるこどもの回復過程を教授する。	
回	授業項目	内 容	授業方法	担当者
1	Ⅰ.小児看護技術	1) 痛み	講義	藤崎
2		2) 呼吸・循環器症状 (呼吸困難・チアノーゼ・ショック)		
3		3) 発熱		
4		4) 消化器症状 (嘔吐・下痢・便秘) 5) 水分・電解質異常(脱水・浮腫) 6) 血液 (出血・貧血) 7) 神経・筋症状 (けいれん・意識障害) 8) 発疹 9) 黄疸		
5	小児看護技術	1) 小児のバイタル測定・身体計測	演習	藤崎 浅香 佐藤
6	－演習－	2) 検査・処置をうける小児の看護		
7	Ⅱ. 症状を示す小児の 援助方法	1) 生活制限のある小児の看護 (1) 活動制限【隔離を含む】 (2) 食事制限	講義	藤崎
8		2) 検査・処置を受ける小児の看護 (1) 抑制・固定 (2) 検体採取(採血・採尿・吸引・腰椎穿刺) (3) 罂法 (4) 排泄 (5) 経管栄養 (6) 呼吸症状の緩和(吸引・吸入・酸素療法) (7) 蘇生法 (8) 予薬 (9) 輸液管理		
9				
10				
11		3) 小児のバイタルサイン 4) 身体計測(身長・体重・頭囲・胸囲)		
12	Ⅲ. 入院中の小児の経過 の理解	1) 入院する小児の経過をとらえる	講義	藤崎 浅香
13		(1) 病態の理解		
14		(2) 観察の記録		
15		(3) 変化の気づきと理解		
評価方法	筆記試験：75 点・レポート課題：25 点 (本試験：60 点以上を合格 不合格の場合は再試験を実施し、60 点以上を合格とする) 成績評価は 100 点満点とし、80 点以上を A、70 点以上を B、60 点以上を C、60 点未満を D で表し、A、B、C は合格、D は不合格とする。 当該科目の出席時間数が規定時間数の 3 分の 2 以上であること(受験資格)			
教科書	系統看護学講座 専門分野 小児看護学[1] 小児看護学概論 小児看護臨床総論(医学書院) 系統看護学講座 専門分野 小児看護学[2] 小児臨床看護各論(医学書院) 写真でわかる小児看護技術 監修：山元恵子(インターメディカ)			
参考書	パーフェクト臨床実習ガイド 小児看護 第2版 筒井真優美(照林社)			
備考履修者へのコメント	・小児期特有の症状を示すこどもの看護について講義を通し学び、疾患、症状の観察を事例の展開に繋げる。また、検査・処置の基本的な看護技術について講義、演習を習得し、領域別実習における学習に繋げてほしい。			

授業要綱

科目名 母性看護援助論Ⅱ		1 単位 30 時間	講義時期 2 年後期	
授業の目的：母性各期の健康に影響を及ぼす因子を理解し、疾病予防及び対象が役割を果たすために必要な看護を学ぶ。			担当講師 関 口 恵 瀧 由美子	
到達目標： 1. 妊・産・褥婦に起こりうる異常を理解できる。 2. 妊・産・褥婦の異常の予防及び健康障害時の看護を理解できる。			実務経験のある教員科目 病院で助産師として実務経験（5 年以上）を有している教員が、その実務経験をいかして、母性各期の健康に影響を及ぼす因子を理解し、疾病予防及び対象が役割を果たすために必要な看護を教授する。	
回	授業項目	内 容	授業方法	担当者
1	ハイリスク妊娠及び異常妊娠の看護①	1) ハイリスク妊娠 2) 異常妊娠 (1) 流・早産の看護 (2) 妊娠悪阻の看護	講義	関 口
2	ハイリスク妊娠及び異常妊娠の看護②	(3) 妊娠性高血圧症候群 (4) 前・早期破水	講義	関 口
3	ハイリスク妊娠及び異常妊娠の看護③	(5) 前置胎盤の看護 (6) 常位胎盤早期剥離の看護	講義	関 口
4	ハイリスク妊娠及び異常妊娠の看護④	(7) 子宮内胎児発育遅延の看護 (8) 多胎妊娠の看護 (9) 妊娠の合併症と看護（DM）	講義	関 口
5	ハイリスク妊娠及び異常妊娠の看護⑤	(10) 血液型不適合妊娠の看護 (11) 胞状奇胎の看護 (12) 子宮外妊娠の看護	講義	関 口
6	異常分娩の看護①②	1) 帝王切開をうける産婦の看護・看護過程 ※グループワーク	演習	瀧
7				
8	異常分娩の看護③	2) 骨盤位分娩の看護	講義	瀧
9	異常分娩の看護④	3) 分娩時の産道損傷の看護	講義	瀧
10	異常分娩の看護⑤	4) 分娩第 3 期の異常の看護	講義	瀧
11	異常産褥の看護①	1) 子宮復古不全の看護	講義	瀧
12	異常産褥の看護②	2) 産褥熱の看護	講義	瀧
13	異常産褥の看護③	3) 乳腺炎の看護	講義	瀧
14	異常産褥の看護④	4) 死産児を出産した褥婦の看護	講義	瀧
15	異常新生児の看護	1) 新生児仮死児の看護 2) 光線療法を受ける児の看護 3) 低出生体重児の看護	講義	瀧
	試 験			
評価方法	筆記試験（本試験：60 点以上を合格 不合格の場合は再試験を実施し、60 点以上を合格とする） 成績評価は 100 点満点とし、80 点以上を A、70 点以上を B、60 点以上を C、60 点未満を D で表し、A、B、C は合格、D は不合格とする。 当該科目の出席時間数が規定時間数の 3 分の 2 以上であること（受験資格）			
教科書	系統看護学講座 専門分野 母性看護学 [2] 母性看護学 各論 (医学書院)			
参考書	ナーシンググラフィカ 母性看護学② 母性看護の実践 【2022 年版】 母性看護学③ 母性看護 技術 【2022 年版】			
備考 履修者への コメント				

授業要綱

科目名 母性看護援助論Ⅲ		1 単位 30 時間	講義時期 2 年後期	
授業の目的 1. 妊婦・産婦・褥婦および新生児の看護技術を理解し、実施する能力を養う。 2. 産褥 3 日目の褥婦の身体的変化を理解し、観察・分析・報告ができる能力を養う。 3. 褥婦の保健指導の必要性を理解し、実施できる能力を養う。 4. 感染症の妊婦・不妊症の患者の看護を理解し、心理面への配慮を習得させる。		担当講師 瀧 由美子 加藤 順子		
到達目標： 1. 妊・産・褥婦および新生児の看護技術を理解し、実施できる。 2. 看護過程を活用し、妊産婦に必要な看護を理解できる。 3. 母性における保健指導の実施方法が理解できる。 4. 感染症に罹患している妊婦の看護が理解できる。 5. 不妊治療を受けている患者の看護が理解できる。		実務経験のある教員科目 病院で助産師として経験（5 年以上）を有している教員が、その実務経験をいかして、妊婦・産婦・褥婦および新生児の看護技術を理解し、実施する能力、産褥 3 日目の褥婦の身体的変化を理解し、観察・分析・報告ができる能力、褥婦の保健指導の必要性を理解し、実施できる能力、感染症の妊婦・不妊症の看護を理解し、心理面への配慮について教授する。		
回	授業項目	内 容	授業方法	担当者
1	看護過程①	1) 実習での看護を考える (1) 援助したい看護・ポートフォリオを活用し 妊産褥婦に必要な看護を考える ※ グループワーク	演習	瀧
2	新生児の看護	1) 新生児の看護技術 (1) 沐浴 (2) オムツ交換・衣類の着脱の方法 抱き方・寝かせ方	演習	瀧
3				
4	看護過程②	1) 実習での看護を考える (1) 援助したい看護 ※ グループワーク	演習	瀧
5	妊婦の看護	1) 妊婦の看護技術 (1) 子宮底測定 (2) レオポルドの触診法	演習	瀧
6	看護過程③	1) 実習での看護を考える (1) 援助したい看護 ※ グループワーク	演習	瀧
7	エイズ・不妊症患者の看護	1) エイズ患者の看護 (1) 病態 (2) 看護	講義	加藤
8		2) 不妊治療を受けている患者の看護 (1) 病態 (2) 治療 (3) 看護		
9	褥婦の看護	1) SMC 式乳房マッサージと圧迫法	演習	瀧
10	産婦の看護 指導技術① (指導案の作成)	1) 産婦の看護技術 (1) 呼吸法 (2) 補助動作 2) 指導技術 (1) パンフレットの作成 (2) 指導案の作成 (3) 保健指導の内容	演習	瀧
11	褥婦の看護	1) 褥婦の看護技術 (1) 子宮復古状態の観察 (2) 悪露交換の方法	演習	瀧
12	看護過程④⑤	1) 実習での看護を考える (1) 援助したい看護 ※ グループワーク	演習	瀧
13				
14	指導技術 (指導案の作成)	2) 指導技術 (1) パンフレットの作成 (2) 指導案の作成 (3) 保健指導の内容	演習	瀧
15	技術試験	1) 呼吸法の指導 (試験)	講義	瀧
	試 験			
評価方法	筆記試験（本試験：60 点以上を合格 不合格の場合は再試験を実施し、60 点以上を合格とする） 技術試験：呼吸法の指導（10 点）再試験で加算する 成績評価は 100 点満点とし、80 点以上を A、70 点以上を B、60 点以上を C、60 点未満を D で表し、A、B、C は合格、D は不合格とする。 当該科目の出席時間数が規定時間数の 3 分の 2 以上であること（受験資格）			
教科書	系統看護学講座 専門分野 母性看護学 [2] 母性看護学 各論 (医学書院)			
参考書	ナーシンググラフィカ 母性看護学② 母性看護の実践【2022 年版】			
備考 履修者への コメント				

授業要綱

科目名 精神看護援助論Ⅲ		1 単位 1 5 時間	講義時期 2 年後期	
授業の目的： 精神障害をもつ対象への看護援助の展開を理解する。			担当講師 田邊 由鶴 山田 和美 原島 健太 長澤 友和 馬場 洋子	
到達目標： 精神を障害された対象の看護過程を展開できる。			実務経験のある教員科目 病院で看護師として実務経験（5年以上）を有している教員が、その実務経験をいかして、精神障害を持つ対象への看護援助の展開を教授する。	
回	授業項目	内 容	授業方法	担当者
1	精神に障害をもつ対象への看護過程の展開	統合失調症の人に対する看護過程の展開 (紙上事例を用いて看護過程を展開)	講義	田邊
2				山田
3				原島 長澤 馬場 田邊 山田
4				
5				
6				
7				
8	まとめ・講評	事例のまとめ	講義	田邊 山田
評価方法	レポート課題（紙上事例） 本試験：60 点以上を合格 不合格の場合は、紙上事例の内容を再指導し、その後再提出（再試験）させ、60 点以上を合格とする 成績評価は 100 点満点とし、80 点以上を A、70 点以上を B、60 点以上を C、60 点未満を D で表し、 A、B、C は合格、D は不合格とする。 当該科目の出席時間数が規定時間数の 3 分の 2 以上であること（受験資格）			
教科書	新体系 看護学全書 精神看護学 [1] 精神看護学概論 精神保健 (メヂカルフレンド社) 精神看護学 [2] 精神障害をもつ人の看護 (メヂカルフレンド社)			
参考書	精神神経疾患 ビジュアルブック (学研)			
備考 履修者への コメント	ヘンダーソンの理論を用いて看護計画の立案までを紙上事例で看護展開（個人ワーク）をする。対象の取り組むべき課題を見出し、理論を用いながらさまざまな視点から対象をアセスメントする（抗精神病薬が身体にどう影響を及ぼすのかなども重要）。4つのグループに分かれ教員が1グループずつ担当する。 計画的に看護展開の学習をすること。			

授業要綱

科目名： 在宅看護援助論Ⅲ		1 単位 15 時間	講義時期： 2 年 後期	
授業の目的： 在宅看護を展開するための援助方法を習得する。			担当講師： 向井 直子 山崎 寛子	
到達目標： 事例をとおして、在宅療養者と家族の看護上の問題を考え、看護過程を展開することができる。			実務経験のある教員科目 病院で看護師として実務経験（5年以上） を有している教員が、その実務経験をいかして、在宅看護を展開するための援助 方法や考え方を教授する。	
回	授業項目	内 容	授業方法	担当者
1	看護過程の展開	1) 在宅看護過程の特徴 2) 訪問看護過程の展開 3) 紙上事例をもとに看護過程の展開	講義	
2	看護過程の展開	紙上事例をもとに看護過程の展開	GW	
3	看護過程の展開	紙上事例をもとに看護過程の展開	GW	
4	看護過程の展開	紙上事例をもとに看護過程の展開	GW	
5	看護過程の展開	紙上事例をもとに看護過程の展開	GW	
6	看護過程の展開	発表（ロールプレイング）	発表	
7	看護過程の展開	発表（ロールプレイング）	発表	
8	試験			
評価 方法	紙上事例展開・レポート課題 60点 筆記試験 40点 (本試験：60点以上を合格 不合格の場合は紙上事例・レポート課題の修正を実施し、60点以上を合格とする) 成績評価は100点満点とし、80点以上をA、70点以上をB、60点以上をC、60点未満をDで表し、A、B、Cは合格、 Dは不合格とする。当該科目の出席時間数が規定時間数の3分の2以上であること（受験資格）			
教科書	1) 系統看護学講座 統合分野 在宅看護論 (医学書院) 2) 看護実践のための根拠がわかる 在宅看護技術 第3版 (メヂカルフレンド社)			
備考 履修者への コメント				

第 22 回生（3 年生）授業要綱（前期）

授業要綱

科目名 基礎看護学概論Ⅱ（看護と倫理・看護研究）		1単位 30時間	講義時期	3年前期
<p>授業の目的：</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 看護の倫理について学び、看護の役割を学ぶ。 2. 対象を総合的に捉え、看護過程を系統立てて実施することにより、理論と事実の結びつきを理解し、質の高い看護を追究する能力を養う。 3. 看護に必要な研究的態度や習慣を身につける。 4. 自己の看護観を養う。 		<p>担当講師</p> <p>藤山 トキ 村上 由美子 早川 千鶴</p>		
<p>到達目標：看護の倫理について学び、あらゆる判断や行為を導く方法を理解できる。 看護研究の基礎的知識、研究の進め方、倫理的配慮を理解し、臨地実習で受け持った対象の看護を科学的根拠（文献活用）に従い、看護の振り返りができる。また、論文形式にまとめ、発表の技術を用いて自己の看護を発表できる。</p>				
回	授業項目	内 容	授業方法	担当者
1	看護研究とは	1) 看護における研究の目的と分野 2) 研究の基本的知識を学ぶ	講義	村上
2	看護研究の種類	1) 看護研究の種類 2) データの種類と収集法	講義	村上
3	看護研究の進め方	1) 看護研究の進め方、倫理的配慮 2) 論文作法	講義	村上
4	文献検索	1) 文献検索のポイント 2) 文献検索の実際	演習	早川
5	ケーススタディとは	1) 看護におけるケーススタディ 2) ケーススタディの方式	講義	村上
6	ケーススタディの進め方	1) ケーススタディの計画 2) レポートのまとめ方	講義	村上
7	看護と倫理	1) 道徳・倫理・法 2) 職業としての看護倫理 3) 倫理原則	講義	藤山
8	倫理が重要視されるようになった歴史的経緯	1) 看護倫理をめぐる社会的背景 2) ICN, JNA の倫理綱領	講義	藤山
9	1. 倫理的問題の事例検討 2. 倫理に関する用語	1) 倫理的ジレンマの事例検討 2) 臨床で遭遇する倫理に関する内容	講義 演習	藤山
10	ケーススタディのまとめ 担当教員との調整	1) ケーススタディのまとめを行う 2) 担当教員と調整し、論文をまとめる	演習	村上
11				
12				
13				
14	ケーススタディ発表会	1) 学生がまとめた論文を発表し、意見交換を行う 2) 他学生の看護観を聞き、自己の看護観を考える	発表会	村上
	試験			
評価方法	<p>筆記試験（30点）、発表会：研究論文（70点）を加算して評価 本試験：60点以上を合格 不合格の場合は再試験（筆記試験：100点）を実施し、60点以上を合格とする 成績評価は100点満点とし、80点以上をA、70点以上をB、60点以上をC、60点未満をDで表し、A、B、Cは合格、Dは不合格とする。当該科目の出席時間数が規定時間数の3分の2以上であること（受験資格）</p>			
教科書	系統看護学講座 専門分野 基礎看護学 [1] 看護学概論（医学書院）			
参考書	看護のためのわかりやすいケーススタディの進め方（照林社）			
備考 履修者への コメント	<p>専門職業人として研究に取り組むことは必然的課題です。3年次、実習で受け持った患者さんの実習記録から、論文にまとめる過程で、実習中には気づけなかった患者への思いがキーワードとして抽出されてきます。これらがすなわちあなたの「看護観」につながっていきます。初めて体験する論文作成は文章化の難しさで苦労しますが、発表後は何とも言いえない充実感を体感するはず。未知への挑戦へ気概をもって取り組んでください。</p>			

授業要綱

科目名 看護の統合 I		1 単位 30 時間	講義時期 3 年前期	
授業の目的：医療安全対策や診療の補助業務場面や療養上の世話における医療事故を理解し、 患者の安全・安楽を考慮した事故防止の基礎的能力を養う。			担当講師 平山 章 青木 正康	
到達目標： 1. 医療安全対策や診療の補助業務場面や療養上の世話における医療事故を理解できる。 2. 患者の安全・安楽を考慮した事故防止について理解できる。			実務経験のある教員科目 病院で看護師として実務経験（5 年以上）を有している教員が、その実務経験をいかして、医療安全対策や診療の補助業務場面や療養上の世話における医療事故を理解し、患者の安全・安楽を考慮した事故防止の基礎的能力について教授する。	
回	授業項目	内 容	授業方法	担当者
1	1. 医療安全の意義と医療事故	1) 医療安全を学ぶことの意義 2) 医療事故と看護業務	講義	平 山
2	2. 診療の補助業務に伴う医療事故 1	1) 業務特性からみた患者に投与する業務における事故防止	講義	平 山
3		2) 注射業務と事故防止	講義	平 山
4		3) 輸血業務と事故防止 4) 内服与薬業務と事故防止	講義	平 山
5		5) 経管栄養（注入）業務と事故防止	講義	平 山
6	3. 診療の補助業務に伴う医療事故 2	1) チューブ管理における事故防止	講義	平 山
7	4. 療養上の世話における事故防止	1) 療養上の世話における事故防止の発生	講義	平 山
8		2) 転倒・転落事故防止	講義	平 山
9	5. 診療・療養上の世話以外における事故防止	1) 業務領域をこえて共通する患者間違い 2) 情報伝達の混乱と情報共有不足	講義	青 木
10		3) 間違いを誘発するタイムプレッシャーと途中中断 4) 新人特有の危険な思い込みと行動パターン	講義	青 木
11	6. 組織的な安全管理体制とわが国の医療安全対策の展望	1) 組織としての医療安全対策 2) 国の医療安全対策	講義	青 木
12	7. 医療安全場面における演習	1) 注射に関する演習 (1) 重量単位、容量単位、投与単位の数値、ガンマの理解 (2) 注射薬の単位と指示された指示量（アンプルとバイアル）の計算 (3) 指示薬剤量の液量「ml」に換算事例：成人と小児	演習	平 山
13		2) 1 規格とは限らない注射薬と規格間違いの注意 3) 類似した輸液ボトルの間違い、輸液ボトル名の語尾の違い	演習	平 山
14		4) 正しく使おう三方活栓（実際に実物を提示して考える） 5) 輸液ポンプの演習 6) シリンジポンプの演習	演習	平 山 (向 井) (山 崎)
15				
	試 験			
評価方法	筆記試験（本試験：60 点以上を合格 不合格の場合は再試験を実施し、60 点以上を合格とする） 成績評価は 100 点満点とし、80 点以上を A、70 点以上を B、60 点以上を C、60 点未満を D で表し、A、B、C は合格、D は不合格とする。 当該科目の出席時間数が規定時間数の 3 分の 2 以上であること（受験資格）			
教科書 参考書	系統看護学講座 総合分野 看護の統合と実践 [2] 医療安全（医学書院） 川村治子 医療安全ワークブック（医学書院）			
備考 履修者への コメント	・即、臨床の現場で求められる知識・技術です。計算も必要となります。 ・疑問を持ちこさないように、積極的に講義に望んでください。			

第 22 回生（3 年生）授業要綱（後期）

授業要綱

科目名 看護の実践		1 単位 30 時間	講義時期	3 年後期
授業の目的： 複数の事例を設定し、必要な援助の優先順位を考え、実施することで、看護技術の総合的な評価を行う。			担当講師 平山 章 加藤 静子 白髭 英雄 山田 和美 星野 実央 山岸 瑞穂	
到達目標： 1. 事例を理解し、援助計画を立案できる。 2. 事例の援助計画に沿い、対象の安全・安楽を考慮した看護技術を実施できる。			実務経験のある教員科目 病院で看護師として実務経験（5 年以上）を有している教員が、その実務経験をいかして、複数の事例を設定し、必要な援助の優先順位を考え、実施することで、総合的な看護技術を教授する。	
回	授業項目	内 容	授業方法	担当者
1	1. 事例紹介と演習の進め方	1) 事例の理解と演習の進め方 援助計画の立案（個人）	講義	平 山
2	2. 援助計画の立案	1) 援助計画の立案（個人）	演習	全 員
3		1) 援助計画の立案（グループ） 個人の援助計画をもとにグループ間でまとめる	演習	全 員
4		1) 援助計画の立案（グループ） 個人の援助計画をもとにグループ間でまとめる	演習	全 員
5 6	3. 援助技術の練習と習得	1) 事例に対する援助技術の練習と習得	演習	全 員
7 8		1) 事例に対する援助技術の練習と習得	演習	全 員
9 10	4. 援助計画と技術の発表	1) 援助計画の発表 2) 援助技術の発表 ※グループで考えた計画・技術を発表	演習	全 員
11	5. 援助技術の振り返り	1) 援助技術の振り返り ※不足した技術の再習得をはかる	演習	全 員
12 13	6. 基本的技術の振り返り	1) 基本的技術の振り返り ※技術の到達度・不足した技術の再習得をはかる	演習	全 員
14 15	技術試験	1) 技術試験		全 員
評価方法		1) 課題：記録（事例）※課題の提出をもって技術試験を受けることができる 2) 技術試験（事例に対する看護技術） 技術試験・本試験：60 点以上を合格 不合格の場合は再試験を実施し、60 点以上を合格とする 成績評価は 100 点満点とし、80 点以上を A、70 点以上を B、60 点以上を C、60 点未満を D で表し、A、B、C は合格、D は不合格とする。 当該科目の出席時間数が規定時間数の 3 分の 2 以上であること（受験資格）		
教科書		系統看護学講座 専門分野 基礎看護学 [4] 臨床看護総論 （医学書院）		
参考書		看護過程に沿った対象看護 （学研） 看護が見える vol1 看護が見える vol2 （メディックメディア）		
備考 履修者への コメント		・紙上事例を通して、看護を考えます。個人で考えたものをグループで意見交換し、よりよい看護を考えてください。 ・発表会を通してクラス全体で看護を考えられるように、積極的に講義に参加してください。		

授業要項

科目名	看護の統合Ⅱ	1 単位	3 0 時間	講義時期	3 年後期
授業の目的： 災害看護の基礎的知識を学ぶとともに、トリアージ体験や救急処置・搬送などの演習を取り入れ実践できる能力を養う。				担当講師 平 山 章 長谷部 靖子	
到達目標： 1. 災害看護の基礎的知識を理解できる。 2. トリアージ体験や救急処置・搬送などの演習を通し、看護技術を実践できる。				実務経験のある教員科目 病院で看護師として実務経験（5年以上）を有している教員が、その実務経験をいかして、災害看護の基礎的知識を教授する。また、トリアージ体験や救急処置・搬送などの演習を取り入れ実践できる能力についても教授する。	
回	授業項目	内 容		授業方法	担当者
1	1. 災害看護	1)災害の歴史と災害看護 (1) 災害の歴史 (2) 災害看護の発展 (3) 日本および世界の災害発生と救護活動		講義	平 山
2		(4) 災害への備え (5) 災害看護の必要性		講義	平 山
3		2)災害とは (1) 災害の定義、災害看護の定義と役割 (2) 災害の種類と疾病構造		講義	平 山
4		(3) 災害が与える影響 (4) 災害情報と避難行動		講義	平 山
5		3)災害サイクルと看護の実際 (1) 災害サイクルと看護活動 (2) 災害急性期の看護 (3) 災害中長期の看護		講義	平 山
6		(4) 地域住民と共同する防災活動 (5) 被災者の心理過程 (6) こころのケア		講義	平 山
7		4)災害への備え (1) 災害初動体制の仕組み (2) 災害対応マニュアルの作成と人材育成		講義	平 山
8	2. DMAT (災害派遣医療チーム)	1)DMAT とは 2)埼玉 DMAT とは 3)災害拠点病院とは		講義	長谷部
9	3. トリアージ	1)災害急性期看護 (1) 被災者傷病者の緊急度判定 (2) トリアージ (3) 搬送		講義	長谷部
10		(4) 心肺蘇生法 (5) 応急処置 2)国際災害看護とは		講義	長谷部
11	4. トリアージ (演習)	3)災害訓練 (1) トリアージ (2) 搬送 (3) 心肺蘇生法 (4) 応急処置		演習	平 山
12					(向 井)
13					(根 岸)
14					
15	試験・まとめ				
評価方法	筆記試験（本試験：60 点以上を合格 不合格の場合は再試験を実施し、60 点以上を合格とする） 成績評価は 100 点満点とし、80 点以上を A、70 点以上を B、60 点以上を C、60 点未満を D で表し、A、B、C は合格、D は不合格とする。 当該科目の出席時間数が規定時間数の 3 分の 2 以上であること（受験資格）				
教科書	系統看護学講座：統合分野 看護の統合と実践 3 災害看護学・国際看護学（医学書院）				
備考 履修者への コメント	・演習では、バイタルサイン測定や救急蘇生など、既習の看護技術を行います。復習をして授業に望んでください。 ・災害時の被災者役を演じていただきます。災害時の被災者の特徴を授業で学び、演習で演じてください。				

授業要綱

科目名 看護の統合Ⅲ		1 単位 15 時間	講義時期 3 年後期	
<p>授業の目的：</p> <p>既習の医療・医療保険（診療報酬）の知識をもとに医療チームの一員として看護サービスが実践できる基礎を身につける。</p> <p>チーム医療及び他職種との協働の中で、看護師としてのメンバーシップやリーダーシップを発揮し、看護をマネジメントできる基礎的能力を養う。</p> <p>看護管理の概要を理解させ、専門職業人としての意義を高める。</p> <p>国際社会での格差・異文化の違いを通し、国際看護の必要性や役割を理解し、国際看護場面で必要とされる知識・技術がわかる。</p>		<p>担当講師</p> <p>原嶋 弥生</p> <p>瀧 由美子</p>		
<p>到達目標：</p> <p>1. 医療・医療保険（診療報酬）の知識を理解し、医療チームの一員として看護サービスが実践できる。</p> <p>2. チーム医療及び他職種との協働の中で、看護師としてのメンバーシップやリーダーシップを発揮し、看護をマネジメントできる。</p> <p>3. 看護管理の概要を理解し、専門職業人としての意義を高めることができる。</p> <p>4. 国際社会での格差・異文化の違いを通し、国際看護の必要性や役割を理解できる。</p> <p>また、国際看護場面で必要とされる知識・技術を述べるができる。</p>		<p>実務経験のある教員科目</p> <p>病院で看護師として実務経験（5年以上）を有している教員が、その実務経験をいかして、既習の医療・医療保険（診療報酬）の知識をもとに医療チームの一員として看護サービスが実践できる基礎を教授する。チーム医療及び他職種との協働の中で、看護師として看護をマネジメントできる基礎的能力、看護管理の概要を理解し、専門職業人としての意義を高める。</p>		
回	授業項目	内 容	授業方法	担当者
1	1. 看護とマネジメント	1) マネジメントとは 2) 看護におけるマネジメント 3) 看護サービスのマネジメント 4) 技術のマネジメント	講義	原嶋
2				
3	2. 医療チームの一員としてのマネジメント	1) 看護師のチームワークとコミュニケーション 2) 他職種チームワークとコミュニケーション 3) ストレスマネジメント 4) タイムマネジメント 5) 看護師自身の健康管理	講義	原嶋
4	1. 国際看護総論	1) 国際看護の概念 2) 国際看護と異文化看護 3) なぜ、国際看護が必要とされるのか 4) 国際協力と開発の思想 5) 日本の看護職による国際協力	講義	瀧
5				
6	2. 国際看護対象論	1) 世界の人々の健康に関わる諸要因 2) 保健医療の現状と分析	講義	瀧
7	3. 国際看護方法論	1) 国際協力に必要なとされる能力 2) 開発途上国で必要とされる看護の知識と技術 3) 文化の違いを考慮した看護	講義	瀧
8	試 験			
評価方法	筆記試験（本試験：60点以上を合格 不合格の場合は再試験を実施し、60点以上を合格とする） 成績評価は100点満点とし、80点以上をA、70点以上をB、60点以上をC、60点未満をDで表し、A、B、Cは合格、Dは不合格とする。 当該科目の出席時間数が規定時間数の3分の2以上であること（受験資格）			
教科書	1) 系統看護学講座：統合分野 看護の統合と実践1 看護管理（医学書院） 2) 国際看護学入門：国際看護研究会 編（医学書院）			
備考 履修者への コメント				

臨地実習 授業要綱

基礎看護学実習Ⅰ
基礎看護学実習Ⅱ
成人看護学実習Ⅰ（急性期）
成人看護学実習Ⅱ（慢性・回復）
成人看護学実習Ⅲ（終末期）
老年看護学実習Ⅰ
老年看護学実習Ⅱ
小児看護学実習
母性看護学実習
精神看護学実習
在宅看護学実習
統合実習

授 業 要 綱

科目名	基礎看護学実習 I	1 単位	45 時間	講義時期	1 年前・後期
実習の目的 <基礎看護学実習 I - A> 病院の概要を知り、看護の対象と看護活動を理解する。 <基礎看護学実習 I - B> 入院している対象の日常生活および基本的ニーズを理解し、対象が必要としている日常生活援助を実践するための能力を習得する。				担当教員 吉田 富美子	
				実務経験のある教員科目 病院で看護師として実務経験（5 年以上）を有している教員が、その実務経験をいかして、病院の概要を知り、看護の対象と看護活動を教授する。入院している対象の日常生活および基本的ニーズを理解し、対象が必要としている日常生活援助を実践するための能力を習得できるよう教授する。	
<基礎看護学実習 I - A> 1. 病院の構造、設備を知ることができる。 2. 医療従事者の種類と役割を理解できる。 3. 入院している対象の生活、環境の場を理解できる。 4. 入院している対象に行われている看護活動を理解できる。 <基礎看護学実習 I - B> 1. 対象および家族とコミュニケーションを図ることができる。 2. 対象の入院生活の援助の必要性を考慮することができる。 3. 対象に適した日常生活の援助方法を考えることができる。 4. 対象の安全、安楽を配慮した援助を、指導を受けながら実施することができる。 5. 実施した援助を振り返り、看護の魅力を発見できる。					
実習方法ならびに内容					
実習期間	<基礎看護学実習 I - A> 1 週間				
実習方法	1. 学内で全体オリエンテーションを行う。 2. スケジュール表、学生配置表に基づき、施設見学、病棟見学実習を行う。 1) 施設説明 : 看護部、医務部、栄養部、薬剤部、臨床検査科・採血室、 2) 病棟見学：看護師 1 名につき、学生 1～2 名を担当し、日常生活援助を見学する。 3) 実習の振り返り：実習での学びをグループごとにまとめ発表する。				
実習内容	・基礎看護学実習 I - A は、1 年次前期に病院の概要を知り、看護の対象と看護活動を理解することをねらいに見学実習を行う。 ・学生にとっては初めての実習であり、看護を学ぶことへの動機付けとする。				
実習場所	埼玉医科大学病院				
実習期間	<基礎看護学実習 I - B> 2 週間				
実習方法	1. 日常生活に援助を必要とする成人・老年期の患者を 1 名受け持つ。 前週の金曜日までに担当教員から受け持ち患者を紹介してもらい、事前学習をする。 学生は受け持ちとなる対象の疾患、看護について事前学習を行う。 2. 基本的な看護技術は、実習指導者または担当教員より指導を受け実施する。 ＊実施可能な看護技術：コミュニケーション、環境整備、ベッドメイキング、バイタルサイン測定、食事介助、排泄介助、体位変換、移送、清潔援助、電法				
実習内容	3. 対象に必要な援助項目を抽出し、基本技術の原則に基づいて日常生活援助を実施する。 4. 教員の指導のもと、毎日カンファレンスを行い、1 日の実習のまとめ、予備学習の機会とする。 ・実習を通して学んだこと、気づいたこと ・実習で困ったこと、わからないこと ・基礎看護学実習 I - B は、学内で看護の基本技術、日常生活援助技術、診療の補助技術の学習が進んでいる段階の 1 年次後期に、基本的欲求に基づく援助技術の習得をする。 ・学内で得た知識、技術を実際の対象に行うことにより、援助することへの様々な気づきができる。				
実習場所	埼玉医科大学病院 丸木記念福祉メディカルセンター				

評価方法	<p><基礎看護学実習 I - A></p> <p>1) 基礎看護学実習 I - A 評価表に準ずる</p> <p>2) 提出物：レポート2種類、その他</p> <p><基礎看護学実習 I - B></p> <p>1) 基礎看護学実習 I - B 評価表に準ずる</p> <p>2) 提出物：病棟実習記録一式、その他</p> <p>*60 点以上を合格とし、不合格の場合は補習実習を実施し、60 点以上を合格とする</p> <p>成績評価は 100 点満点とし、80 点以上を A、70 点以上を B、60 点以上を C、60 点未満を D で表し、A、B、C は合格、D は不合格とする</p> <p>*科目実習時間数の 5 分の 4 以上出席した者を評価の対象とする</p>
教科書	<p>1) 系統看護学講座 専門分野 I 基礎看護技術 I・II (医学書院)</p> <p>2) 看護が見える Vol1 基礎看護技術 (メディックメディア)</p> <p>3) 看護が見える Vol2 臨床看護技術 (メディックメディア)</p>
履修にあたってのコメント	<p>実習要項をよく読み、実習目的・実習方法を理解して臨みましょう。</p> <p>(I - A) 病院の概要を知るために各施設を見学します。病棟実習では看護の対象と看護活動を理解するために看護師に付き見学実習を行います。はじめての実習となるので、積極的に参加しましょう。</p> <p>(I - B) 電子カルテやコミュニケーションを通して情報収集をしていきます。学内で得た知識、技術を受け持ち患者に行い、援助することで様々な気づきができるようにしましょう。受け持ちとなる対象の疾患、看護について事前学習を行い、日常生活援助技術の練習をしっかりと行ってください。また、実習開始前までにすべての技術試験(ベットメイキング・バイタルサイン・清拭・洗髪)合格が必須となります。</p>

授 業 要 綱

科目名	基礎看護学実習Ⅱ	2 単位	90 時間	講義時期	2年後期
実習の目的	看護過程の構成要素を理解し、看護過程を展開する基礎的能力を習得する。			担当教員	吉田 富美子
実習の到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 対象の基本的ニード・発達段階・疾病を理解できる。 2. 対象の情報収集をし、関連づけて分析・解釈できる。 3. 対象の看護問題を抽出することができる。 4. 対象の看護計画を立案できる。 5. 立案した看護計画に基づいた実施ができる。 6. 実施した看護を評価、修正することができる。 7. 実施した援助について報告ができる。 			実務経験のある教員科目 病院で看護師として実務経験（5年以上）を有している教員が、その実務経験をいかして、看護過程の構成要素と看護過程を展開する基礎的能力について教授する。	
実習方法ならびに内容					
実習期間	3週間				
実習方法	<ol style="list-style-type: none"> 1. 日常生活の援助を必要とする成人・老年期の患者を1名受け持つ。 実習初日、病棟へ行った際に受け持ち患者を紹介してもらい、午後は実践活動外学習を行う。 2. 担当教員または実習指導者より、指導を受けて基本的な看護技術を実施する。 3. 毎日、カンファレンスを行う。1日の実習のまとめ、予備学習の機会とする。 <ul style="list-style-type: none"> ・コミュニケーションの振り返り ・実習を通して学んだこと、気づいたこと ・実習で困ったこと、わからないこと 4. 行動計画に基づき報告を行う。 5. 所定の実習記録用紙に記録し、整理する。実習記録の最終提出は、実習終了翌週の月曜日とする。 				
実習内容	<ul style="list-style-type: none"> ・基礎看護学実習Ⅱは、看護過程の展開を行う。 ・科学的思考や問題解決能力など、これからの専門看護学実習の基礎とする。 				
実習場所	埼玉医科大学病院 丸木記念福祉メディカルセンター				
評価方法	<ol style="list-style-type: none"> 1) 基礎看護学実習Ⅱ評価表に準ずる 2) 提出物：病棟実習記録一式、その他 <ul style="list-style-type: none"> *60点以上を合格とし、不合格の場合は補習実習を実施し、60点以上を合格とする 成績評価は100点満点とし、80点以上をA、70点以上をB、60点以上をC、60点未満をDで表し、A、B、Cは合格、Dは不合格とする *科目実習時間数の5分の4以上出席した者を評価の対象とする 				
教科書	<ol style="list-style-type: none"> 1) 第4版 看護過程を使ったヘンダーソン看護論の実践（ヌーヴェルヒロカワ） 2) 第4版 ヘンダーソンの基本的看護に関する看護問題リスト（ヌーヴェルヒロカワ） 3) 看護の基本となるもの（日本看護協会出版会） 4) 系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護学技術Ⅰ・Ⅱ（医学書院） 5) 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学（※該当教科書）（医学書院） 				
備考 履修者への コメント	<p>実習要項をよく読みましょう。実習ではじめての看護過程の展開となるので、基礎的能力を習得するためにも、紙上事例やテキストを参考に復習しておきましょう。また、実習場所の特徴を把握し受けもちとなる患者の病態をしっかりと事前学習を行いましょう。</p>				

授 業 要 綱

科目名	成人看護学実習Ⅰ（急性期）	2 単位	90 時間	講義時期	2年後期
実習の目的	<p>＜手術見学実習＞</p> <p>手術を見学し、手術を受ける対象を身体的・心理的側面から理解する。</p> <p>＜病棟実習＞</p> <p>急性期にある対象の特徴を理解し、対象の障害の変化に応じた援助ができる。</p>			<p>担当教員</p> <p>加藤 静子</p>	
実習の到達目標	<p>＜手術見学実習＞</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 手術を受ける対象の身体的側面を理解できる。 2. 手術を受ける対象の心理的側面を理解できる。 3. 手術室看護の基本について理解できる。 <p>＜病棟実習＞</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 生命徴候が著しく変化しているか、または変化すると予測される対象を身体的、心理的、社会的側面から理解できる。 2. 対象とその家族に起こりうる問題を明確にできる。 3. 対象の望ましい状態を予測できる。 4. 急性期にある対象に行われる検査、治療時の援助ができる。 5. 対象とその家族に対し、適切な援助ができる。 6. 対象とその家族に対し、支持的な態度をとることができる。 7. 実施した看護の振り返りができる。 			<p>実務経験のある教員科目</p> <p>病院で看護師として実務経験(5年以上)を有している教員が、その実務経験をいかして、急性期にある対象の特徴、対象の障害の変化に応じた援助について教授する。手術を見学し、手術を受ける対象を身体的・心理的側面についても教授する。</p>	
実 習 方 法 な ら び に 内 容					
実習期間	手術見学実習：1週間、病棟実習：2週間				
実習方法	<ol style="list-style-type: none"> 1. 1グループ6～7名の学生で、実習をする。 2. 第1週目を手術見学実習とする（病棟実習は2週間とする）。 3. 対象となる患者を1名受けもち、看護過程を展開する。 4. 対象は原則として成人期にある人とする。 <p>*急性期とは</p> <ul style="list-style-type: none"> ・健康状態の急激な変化があり、生体その変化に適応するために様々な反応を起こしている時期であり、生命の安全を優先する時期。 ・手術後の全身管理を必要とする時期。 				
実習内容	<ul style="list-style-type: none"> ・成人看護学実習Ⅰ（急性期）は、手術を受ける対象の看護を通して、生命の維持、改善への援助、苦痛の援助、家族への援助などを学ぶ。 ・受け持ち患者を通して看護計画の立案、実施、評価を行う。 ・実際に手術見学を通して、手術や麻酔にともなう生体反応・侵襲を学ぶ。 ・グループ毎にカンファレンスを開き、他のグループメンバーの受け持ち患者の看護についても情報交換することにより、より幅広い疾患・看護を学ぶ。 				
実習場所	埼玉医科大学病院				
評価方法	<ol style="list-style-type: none"> 1) 成人看護学実習評価表に準ずる 2) 提出物：病棟実習記録一式、その他 <p>*60点以上を合格とし、不合格の場合は補習実習を実施し、60点以上を合格とする</p> <p>成績評価は100点満点とし、80点以上をA、70点以上をB、60点以上をC、60点未満をDで表し、A、B、Cは合格、Dは不合格とする</p> <p>*科目実習時間数の5分の4以上出席した者を評価の対象とする</p>				
教科書	<ol style="list-style-type: none"> 1) 系統看護学講座 別巻 臨床看護総論・臨床看護各論（医学書院） 2) 系統看護学講座 別巻 救急看護学（医学書院） 3) 系統看護学講座 専門分野 成人看護学（※該当教科書）（医学書院） 				
備考 履修者への コメント	<p>事前課題があるため、必ず取り組み実習に臨むこと。</p> <p>成人看護援助論および解剖生理学、病態と治療、基礎看護技術の予習・復習を行い実習に臨むこと。</p>				

授 業 要 綱

科目名	成人看護学実習Ⅱ（慢性期・回復期）	2 単位	90 時間	講義時期	3 年前・後期
実習の目的	慢性期・回復期にある対象の特徴を理解し、障害に応じた援助や症状の自己管理の指導が、日常生活の自立と社会復帰に向けての援助ができる。			担当教員	白髭 英雄
実習の到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 慢性の経過をたどる疾患をもつ対象や回復期にある対象を身体的、心理的、社会的側面から理解できる。 2. 対象とその家族に起こりうる問題を明確にできる。 3. 対象の望ましい状態を予測できる。 4. 慢性期・回復期にある対象に行われる検査、治療時の援助ができる。 5. 対象とその家族に対し、適切な援助ができる。 6. 対象とその家族に対し、支持的な態度をとることができる。 7. 実施した看護の振り返りができる。 			実務経験のある教員科目 病院で看護師として実務経験（5年以上）を有している教員が、その実務経験をいかして、慢性期・回復期にある対象の特徴、障害に応じた援助や症状の自己管理、日常生活の自立と社会復帰に向けての援助について教授する。	
実 習 方 法 な ら び に 内 容					
実習期間	3 週間				
実習方法	<ol style="list-style-type: none"> 1. 1 グループ 6～7 名の学生で、実習をする。 2. 対象となる患者を 1 名受けもち、看護過程を展開する。 3. 対象は原則として成人期にある人とする。 <p>*慢性期・回復期とは</p> <ul style="list-style-type: none"> ・慢性の経過をたどる疾病で長期の療養を必要とし、症状の変化が少ない時期。 ・一定の治療、ケアを必要とする症状の安定した時期であり、セルフケア能力を高めるための教育や指導を必要とする時期。 ・疾病や外傷、手術などによって生命の危機的状況にある急性期から脱し、身体が回復に向かって進行している時期。 ・機能障害のある対象が、日常生活、社会生活への復帰に向けて、自立できるような援助が必要な時期。 				
実習内容	<ul style="list-style-type: none"> ・成人看護学実習Ⅱ（慢性期・回復期）は、生涯にわたり疾病の自己管理が必要な対象および家族に対し、日常生活自立のための教育・指導、社会生活適応への援助、家族への指導などを学ぶ。 ・障害を持ちながら生活していく対象および家族に対し残存機能の維持、拡大への援助、継続看護のあり方、他職種との連携などについて学ぶ。 ・受け持ち患者を通して看護計画の立案、実施、評価を行う。 ・グループ毎にカンファレンスを開き、他のグループメンバーの受け持ち患者の看護についても情報交換することにより、より幅広い疾患・看護を学ぶ。 				
実習場所	埼玉医科大学病院				
評価方法	<ol style="list-style-type: none"> 1) 成人看護学実習評価表に準ずる 2) 提出物：病棟実習記録一式、その他 <p>*60 点以上を合格とし、不合格の場合は補習実習を実施し、60 点以上を合格とする</p> <p>成績評価は 100 点満点とし、80 点以上を A、70 点以上を B、60 点以上を C、60 点未満を D で表し、A、B、C は合格、D は不合格とする</p> <p>*科目実習時間数の 5 分の 4 以上出席した者を評価の対象とする</p>				
教科書	<ol style="list-style-type: none"> 1) 系統看護学講座 専門分野 成人看護学 [1] 成人看護学総論（医学書院） 2) 系統看護学講座 別巻 リハビリテーション看護（医学書院） 3) 系統看護学講座 専門分野 成人看護学（※該当教科書）（医学書院） 				
備考 履修者への コメント	<p>事前課題があるため、必ず取り組み実習に臨むこと。</p> <p>成人看護援助論および解剖生理学、病態と治療、基礎看護技術の予習・復習を行い実習に臨むこと。</p>				

授 業 要 綱

科目名	成人看護学実習Ⅲ（終末期）	2 単位	90 時間	講義時期	3 年前・後期
実習の目的	終末期にある対象の特徴を理解し、対象および家族の苦痛緩和と QOL 実現のための援助ができる。			担当教員	白髭 英雄
実習の到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 終末期にある対象を身体的、心理的、社会的側面から理解できる。 2. 対象とその家族に起こりうる問題を明確にできる。 3. 対象の望ましい状態を予測できる。 4. 終末期にある対象に行われる検査、治療時の援助ができる。 5. 対象とその家族に対し、適切な援助ができる。 6. 対象とその家族に対し、支持的な態度をとることができる。 7. 実施した看護の振り返りができる。 			実務経験のある教員科目 病院で看護師として実務経験（5年以上）を有している教員が、その実務経験をいかして、終末期にある対象の特徴、対象および家族の苦痛緩和と QOL 実現のための援助について教授する。	
実 習 方 法 な ら び に 内 容					
実習期間	3 週間				
実習方法	<ol style="list-style-type: none"> 1. 1 グループ 6～7 名の学生で、実習をする。 2. 対象となる患者を 1 名受けもち、看護過程を展開する。 3. 対象は原則として成人期にある人とする。 <p>*終末期とは</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 疾病または老化により治療を行っても身体の回復は期待できず確実に死に至る過程の最後の時期。 ・ 近い将来に死をまぬがれず、身体的・心理的苦痛が大きく、全身管理とともに精神的援助を必要とする時期。 				
実習内容	<ul style="list-style-type: none"> ・ 成人看護学実習Ⅲ（終末期）は、治療困難な疾患をもつ対象とその家族に対しその人らしく人生をまっとうできるように QOL をふまえた援助を学ぶ。 ・ 受け持ち患者を通して看護計画の立案、実施、評価を行う。 ・ グループ毎にカンファレンスを開き、他のグループメンバーの受け持ち患者の看護についても情報交換することにより、より幅広い疾患・看護を学ぶ。 				
実習場所	埼玉医科大学病院				
評価方法	<ol style="list-style-type: none"> 1) 成人看護学実習評価表に準ずる 2) 提出物：病棟実習記録一式、その他 <p>*60 点以上を合格とし、不合格の場合は補習実習を実施し、60 点以上を合格とする</p> <p>成績評価は 100 点満点とし、80 点以上を A、70 点以上を B、60 点以上を C、60 点未満を D で表し、A、B、C は合格、D は不合格とする</p> <p>*科目実習時間数の 5 分の 4 以上出席した者を評価の対象とする</p>				
教科書	<ol style="list-style-type: none"> 1) 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学 [1] 成人看護学総論（医学書院） 2) 系統看護学講座 別巻 緩和ケア（医学書院） 3) 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学（※該当教科書）（医学書院） 				
備考 履修者への コメント	<p>事前課題があるため、必ず取り組み実習に臨むこと。</p> <p>成人看護援助論および解剖生理学、病態と治療、基礎看護技術の予習・復習を行い実習に臨むこと。</p>				

授 業 要 綱

科目名	老年看護学実習 I	2 単位	90 時間	講義時期	2 年後期
実習の目的	<p>1. 対象の健康の保持、増進への援助を理解できる。</p> <p>2. 対象の老化および健康障害に伴う日常生活の障害を知り、対象に応じた援助ができる。</p>			<p>担当教員</p> <p>星野 実央</p> <p>山岸 瑞穂</p>	
<p><老人福祉センター> 1. 地域で生活している高齢者を理解し、高齢者の健康を支える援助を学ぶことができる。</p> <p><介護老人保健施設> 1. 介護老人保健施設の機能と役割を理解し、看護の役割を学ぶことができる。</p> <p><丸木記念福祉メディカルセンター> 1. 老化および健康障害に伴う変化への助成と QOL 充足のための援助ができる。</p>				<p>実務経験のある教員科目 病院で看護師として実務経験（5年以上）を有している教員が、その実務経験をいかして、対象の老化および健康障害に伴う日常生活の障害、対象に応じた援助、対象の健康の保持、増進への援助について教授する。</p>	
実 習 方 法 な ら び に 内 容					
実習期間	3 週間				
実習方法	<p>1. 老人福祉センター、介護老人保健施設は、2 日間の見学実習を行う。丸木記念福祉メディカルセンターは、2 週間実習を行い、老年期にある対象を 1 名受け持ち、看護過程を展開する。</p> <p>2. 学生人数は 1 グループ 6 ～ 7 名。</p> <p>3. 交通手段は電車、自家用車、徒歩。服装は、老人福祉センター、介護老人保健施設については、学校指定のポロシャツ、紺または黒のジャージのズボンとする。</p> <p>4. 丸木記念福祉メディカルセンターについてはユニフォームとする。</p>				
実習内容	<ul style="list-style-type: none"> ・老年看護学実習 I では、老人福祉センター、中間施設である介護老人保健施設、丸木記念福祉メディカルセンターにおいて行う。 ・老人福祉センターにおいては、地域で生活する健康な高齢者とかわる。生活の様子や生き甲斐、健康観について理解することにより、学生が入院前または在宅復帰後の高齢者をイメージできるとともに対象それぞれの価値観を尊重した対応ができることをねらいとし、レクリエーションや活動と一緒に参加または見学する。 ・介護老人保健施設では、病院と在宅との中間施設として、在宅へ移行するまでの看護の役割と対象の自立を目指した支援、機能訓練など介護老人保健施設としての役割を学ぶ。また、高齢者に適用されている保健や福祉が現実にどのように活用されているか、高齢者福祉の在り方を考える機会とする。 ・自宅での介護が困難な対象が入院している丸木記念福祉メディカルセンターでは、受け持ち患者を 1 名持ち、看護過程を展開する。2 週間の実習となるため、特に寝たきりによる日常生活の障害やその影響を知り、個性をふまえた展開ができる。 ・これらの施設、病棟での実習をとおして、疾患や加齢変化による生活機能の変化を理解し、対象の生活を少しでも豊かなものとなるよう援助する技術を身につける。 				
実習場所	老人福祉センター、介護老人保健施設、丸木記念福祉メディカルセンター				
評価方法	<p>1) 老年看護学実習 I 評価表に準ずる</p> <p>2) 提出物：介護老人福祉施設記録一式、老人福祉センター記録一式、病棟実習記録一式、その他</p> <p>*60 点以上を合格とし、不合格の場合は補習実習を実施し、60 点以上を合格とする</p> <p>成績評価は 100 点満点とし、80 点以上を A、70 点以上を B、60 点以上を C、60 点未満を D で表し、A、B、C は合格、D は不合格とする</p> <p>*科目実習時間数の 5 分の 4 以上出席した者を評価の対象とする</p>				
教科書	<p>1) 系統看護学講座 専門分野 老年看護学 (医学書院)</p> <p>2) 系統看護学講座 専門分野 老年看護・病態・疾患論 (医学書院)</p>				
参考書	3) 写真でわかる高齢者ケア 高齢者の心と体を理解し、生活の営みを支える (インターメディカ)				
備考 履修者への コメント	看護過程に必要な疾患の病態・看護や施設の特徴、及び実習に必要な看護技術についての事前学習を提示するのでまとめて実習に臨む事。				

授 業 要 綱

科目名	老年看護学実習Ⅱ	2 単位	90 時間	講義時期	2年後期
実習の目的	老年期にある対象の特徴を理解し、健康上の問題を統合的に捉え、看護過程の展開ができる。			担当教員	星野 実央 山岸 瑞穂
実習の到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 老年期にある対象を身体的・心理的・社会的側面から把握できる。 2. 収集した情報を統合させ、分析・解釈し、看護問題を抽出できる。 3. 看護計画を立案し、実施することができる。 4. 実施した看護を振り返ることができる。 5. 老年看護における基本的技術と看護の役割を理解できる。 			実務経験のある教員科目 病院で看護師として実務経験（5年以上）を有している教員が、その実務経験をいかして、老年期にある対象の特徴、健康上の問題を総合的に捉え、看護過程の展開ができるよう教授する。	
実習方法ならびに内容					
実習期間	3週間				
実習方法	<ol style="list-style-type: none"> 1. 実習は大学病院で3週間行う。 2. 1グループ6～7名の学生で、実習をする。 3. 老年期にある対象（70歳以上）を1名受け持ち、看護過程を展開する。 				
実習内容	<ul style="list-style-type: none"> ・老年看護学実習Ⅱは大学病院において行う。 ・急性期から終末期まであらゆる健康レベルにある高齢者を受け持ち、看護過程を展開する。 ・看護過程を展開するうえで、高齢者特有の病態生理、家族を含めた環境、心理的側面を理解する。 ・老年看護における基本技術と看護の役割を身につけることができる。 				
実習場所	埼玉医科大学病院				
評価方法	<ol style="list-style-type: none"> 1) 老年看護学実習Ⅱ評価表に準ずる 2) 提出物：病棟実習記録一式、その他 <ul style="list-style-type: none"> *60点以上を合格とし、不合格の場合は補習実習を実施し、60点以上を合格とする <p>成績評価は100点満点とし、80点以上をA、70点以上をB、60点以上をC、60点未満をDで表し、A、B、Cは合格、Dは不合格とする</p> <p>*科目実習時間数の5分の4以上出席した者を評価の対象とする</p>				
教科書	<ol style="list-style-type: none"> 1) 系統看護学講座 専門分野 老年看護学（医学書院） 2) 系統看護学講座 専門分野 老年看護・病態・疾患論（医学書院） 				
参考書	3) 写真でわかる高齢者ケア 高齢者の心と体を理解し、生活の営みを支える（インターメディカ）				
備考 履修者への コメント	看護過程に必要な疾患の病態・看護及び実習に必要な看護技術についての事前学習を提示するので しっかりまとめて実習に臨む事。				

授 業 要 綱

科目名	小児看護学実習	2 単位	90 時間	講義時期	3 年前・後期
実習の目的	小児各期の特徴を理解し、こどもの成長・発達に応じた養育と対象に応じた看護援助が理解できる。			担当教員	藤崎 照代 浅香 洋美
実習の到達目標	<p>＜保育園＞</p> <p>1. 健康な幼児期の成長・発達を理解し、集団生活における保育のあり方を学ぶことができる。</p> <p>＜小児病棟＞</p> <p>1. 健康問題のある子どもに対する適切な援助方法を理解できる。</p> <p>2. 健康問題のある子どもの特徴を理解することができる。</p> <p>3. 子どもの家族の心理を理解し、小児看護における看護師と家族の役割を理解できる。</p> <p>＜重症心身障害児施設＞</p> <p>1. 障害をもつ子どもを理解し、障害の程度に合わせた日常生活の援助ができる。</p>			実務経験のある教員科目 病院で看護師として実務経験（5年以上）を有している教員が、その実務経験をいかして、小児各期の特徴、こどもの成長・発達に応じた養育と対象に応じた看護援助について教授する。	
実 習 方 法 な ら び に 内 容					
実習期間	3 週間（保育園：1 週間、小児病棟：1 週間、重症心身障害児施設：1 週間）				
実習方法	<p>1. 学生人数は1 グループ6～7名とする。</p> <p>2. 病棟実習は、受け持ち患者を1名受け持ち、こどもに必要な基本的技術を行う。</p> <p>3. 保育園実習は、健康なこどもの保育を体験する。</p> <p>4. 重症心身障害児施設では、障害のあるこどもへの日常生活の援助を行う。</p>				
実習内容	<ul style="list-style-type: none"> ・実習は、保育園・小児病棟・重症心身障害児施設の3ヶ所で行い、あらゆる健康レベルにある子どもを総合的に理解できる。 ・保育園実習においては、健康なこどもの保育を通し、子どもの成長・発達とその段階に応じた養育を学ぶ。 ・小児病棟においては、健康問題のある子どもの特徴および家族の心理を理解し、小児看護に必要な基本的技術を学ぶ。 ・重症心身障害児施設においては、障害をもつ子どもの日常生活援助を通して、成長・発達の維持・増進に向けた援助の方法とその必要性を理解する。 				
実習場所	埼玉医科大学病院、保育園めぐみ、日高キャンパス託児所あすなろ、光の家療育センター				
評価方法	<p>1) 小児看護学実習評価表に準ずる</p> <p>2) 提出物：病棟実習・施設実習・保育園実習記録一式、その他</p> <p>＊60点以上を合格とし、不合格の場合は補習実習を実施し、60点以上を合格とする</p> <p>成績評価は100点満点とし、80点以上をA、70点以上をB、60点以上をC、60点未満をDで表し、A、B、Cは合格、Dは不合格とする</p> <p>＊科目実習時間数の5分の4以上出席した者を評価の対象とする</p>				
教科書	<p>1) 系統看護学講座 専門分野 小児看護学概論 小児臨床看護総論 小児看護学 [1] (医学書院)</p> <p>2) 系統看護学講座 専門分野 小児臨床看護各論 小児看護学 [2] (医学書院)</p> <p>3) 写真でわかる小児看護技術 (インターメディカ)</p> <p>4) 写真でわかる重症心身障害児 (者) のケア (インターメディカ)</p> <p>5) 看護のための人間発達学 第5版 (医学書院)</p>				
参考書	パーフェクト臨床実習ガイド 小児看護 第2班 筒井 真優美 (照林社)				
備考 履修者への コメント	あらゆる健康状態にあるこどもの発達段階を理解し観察することができ、成長・発達、健康への維持・増進に向けた援助を学んでほしい。				

授 業 要 綱

科目名 母性看護学実習	2 単位 90 時間	講義時期 3 年前・後期
実習の目的 1. 妊婦・産婦・褥婦および新生児とその家族を理解し、対象に応じた看護を実施する能力を養う。 2. 低出生体重児の身体的状況・治療状況や看護が理解できる。また、低出生体重児のおかれている状況を理解した上で妊娠期の胎児の発育状況（切迫早産）や妊婦の抱える不安を考えることができる。 低出生体重児を抱える家族の思いがわかる。 3. 既習学習の想起、事前学習、ビデオ学習等の学習を通し、実習のイメージ化を図るとともに学びを深めるための準備ができる。 4. 女性生殖器疾患（病態、症状、検査、治療）・不妊（原因、検査、治療）と対象の身体的・精神的苦痛を理解し、看護の役割・対応がわかる	担当教員 瀧 由美子	
実習の到達目標 外来病棟 1. 妊娠期の母体と胎児およびその家族に対する看護の必要性を理解し、妊婦の看護を実施できる。 2. 産褥経過に伴う褥婦の変化を理解し、褥婦に応じた看護を実施できる。 病棟 3. 妊娠期の母体と胎児および家族に対する看護の必要性を理解し、妊婦の看護を実施できる。 4. 分娩経過に伴う産婦の変化を理解し、産婦の看護を実施できる。 5. 産褥経過に伴う褥婦の変化を理解し、褥婦に応じた看護を実施できる。 N I C U 6. 新生児の生理的特徴を理解し、児に応じた看護を実施できる。 7. 低出生体重児の身体的状況・治療内容・児に応じた看護を理解できる。	実務経験のある教員科目 病院で助産師として実務経験（5年以上）を有している教員が、その実務経験をいかして、妊婦・産婦・褥婦および新生児とその家族と看護について教授する。	
実 習 方 法 な ら び に 内 容		
実習期間 実習方法	3 週間 1. 外来実習 1) 妊婦健診で来院した対象を1名受け持つ。 2) 産婦人科外来・超音波外来及び不妊症外来を見学する。 2. 病棟実習 1) 分娩から産褥期までの対象を1名受け持つ または、妊婦を受け持つ。 2) 分娩を見学する（1件）。 3) 褥婦を受け持った学生は、新生児室に毎日入室する。 4) 病棟で行われている保健指導を見学する（授乳・調乳・沐浴・退院指導）。 5) 新生児のバイタルサインなどの観察を行う。 3. N I C U 実習 1) N I C U の特色・役割・主な疾患・治療内容・看護内容を知る（事前学習・見学時）。 2) 看護師から N I C U 看護の説明を受ける（見学）。 3) 低出生体重児を出産した母親の心理（不安など）を知る（事前学習・見学時）。 4) コットに収容されている新生児の観察（バイタルサイン：実施）・授乳・オムツ交換を見学する。 * 1 名 受 け 持 っ	

<p>実習内容</p> <p>実習場所</p>	<p>4. 実践活動外学習</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 事前オリエンテーション（外来・病棟）を受ける。 2) 母性看護学実習の目的・目標・方法の説明を受ける。 3) 妊婦健診の観察技術（子宮底測定、レオポルドの触診法）を実施する。 4) ビデオ学習を通し、母性看護学実習の対象と看護をイメージする。 <ul style="list-style-type: none"> ・母性看護学実習の妊婦の看護では、妊婦に必要な日常生活指導ができることをねらいに産科外来・病棟で実習する（健康診査を受けている妊婦の看護）。 ・産婦の看護では、出産に立会い、産婦の苦痛緩和の援助を通し、生命誕生の神秘や生命の尊重について考える。 ・褥婦・新生児の看護では、褥婦の母性としての健康生活の維持と母子関係成立の援助や新生児の胎外生活適応への援助ができる。 ・看護過程では、できるかぎり分娩から退院までの期間1名の褥婦を受け持ち、その母子に対する看護過程を展開する。 ・NICU実習では、低出生体重児の身体的状況・治療・看護を理解し、妊娠期の胎児の発育状況や妊婦の抱える不安や家族の思いを考える。 ・産婦人科外来、超音波外来、不妊症外来を見学し、病態・症状・検査・治療や対象の身体的・精神的苦痛を理解し、看護の役割や対応を考えられる。 <p>埼玉医科大学病院</p> <p>埼玉医科大学総合医療センター</p>
<p>評価方法</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1) 母性看護学実習（褥婦用・妊婦用）評価表に準ずる 2) 提出物：病棟実習・外来実習記録一式、その他 <p>*60点以上を合格とし、不合格の場合は補習実習を実施し、60点以上を合格とする</p> <p>成績評価は100点満点とし、80点以上をA、70点以上をB、60点以上をC、60点未満をDで表し、A、B、Cは合格、Dは不合格とする</p> <p>*科目実習時間数の5分の4以上出席した者を評価の対象とする</p>
<p>教科書 参考書</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1) 系統看護学講座 専門分野 母性看護学各論 母性看護学 [2] (医学書院) 2) ナーシンググラフィカ 母性看護学② 母性看護の実践 (第1版) 母性看護学③ 母性看護技術 (第4版)
<p>備考 履修者への コメント</p>	

授 業 要 綱

科目名	精神看護学実習	2 単位	90 時間	講義時期	3 年前・後期
実習の目的	精神障害を持つ対象の特性を理解し、対象に応じた知識、技術、態度を習得する。			担当教員	田邊 由鶴 山田 和美
実習の到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 精神科入院治療を受けている対象の生活環境や生活上の規制について理解する。 2. 精神障害を持つ対象の特性を理解し関わることができる。 3. 精神を障害された対象に行われる治療、検査について学ばせ、日常生活に与える影響を考慮することができる。 4. 精神障害を持つ対象を身体、精神、社会的側面からとらえ看護問題を把握することができる。 5. 看護計画の立案ができる。 6. 看護計画にそって実施、評価をすることができる。 7. 精神障害を持つ対象の理解を深めてケアの目的を持って関わることができる。 8. 精神を障害された対象の社会復帰について看護者の役割を理解できる。 9. 施設実習を通して、社会資源の現状と看護の役割を理解できる。 			実務経験のある教員科目 病院で看護師として実務経験（5年以上）を有している教員が、その実務経験をいかして、精神障害を持つ対象の特性、対象に応じた知識、技術、態度について教授する。	
実 習 方 法 な ら び に 内 容					
実習期間	3 週間				
実習方法	<ol style="list-style-type: none"> 1. 病棟実習 <ol style="list-style-type: none"> 1) 1 グループ 6～7 名の学生で実習する。 2) 3 週間、患者を 1 名受けもち、看護過程を展開する。 2. 社会復帰施設実習 <ol style="list-style-type: none"> 1) 病棟実習実施中、社会復帰施設 2 カ所にて各 1 日の体験、見学実習を行う。 				
実習内容	<ul style="list-style-type: none"> ・精神看護学実習では、精神の安定を担う看護を必要としている対象や、精神障害を持つ対象に接し、精神症状が、日常生活にどのような影響を及ぼすのかを理解したうえで、人間全体を包括的に理解し、治療的環境の中での、看護師 - 患者関係の発展過程や来談者中心療法に基づいた援助的コミュニケーションの基本的態度、技術を実践の中で学ぶ。 ・病棟実習を 3 週間行い、一人の受け持ち患者を通して、精神障害をもつ対象の看護を学ぶ。 ・施設実習においては、社会における精神障害者の問題点や支持的な関わり方を経験から学ぶ。 				
実習場所	病棟：埼玉医科大学病院 丸木記念福祉メディカルセンター 社会復帰施設：ディケアセンターのぞみ 障害者自立支援施設やすらぎ				
評価方法	<ol style="list-style-type: none"> 1) 精神看護学実習評価表に準ずる 2) 提出物：実習記録一式、その他 <ul style="list-style-type: none"> * 60 点以上を合格とし、不合格の場合は補習実習を実施し、60 点以上を合格とする 成績評価は 100 点満点とし、80 点以上を A、70 点以上を B、60 点以上を C、60 点未満を D で表し、A、B、C は合格、D は不合格とする * 科目実習時間数の 5 分の 4 以上出席した者を評価の対象とする 				
教科書	<ol style="list-style-type: none"> 1) 新体系看護学全書 精神看護学 [1] 精神看護学概論・精神保健（メヂカルフレンド社） 2) 新体系看護学全書 精神看護学 [2] 精神障害をもつ人の看護（メヂカルフレンド社） 				
備考 履修者への コメント	実習要項を良く読み、実習目的・目標を理解してから実習に参加すること。授業で配布した資料や教科書、参考書をもとに、対象に必要な援助、理論、技術、社会資源とは何かを常に考えながら関わる。 施設実習では白のポロシャツ、上着は白のトレーナー（ワンポイント可）もしくは実習用のカーディガン。 ズボンにはジャージもしくはチノパンで実習をおこなう。 倫理観・人権の視点を含めて説明できるよう事前学習の見直しをしてからの実習をすることで学びが深まる。				

授 業 要 綱

科目名	統合実習	2 単位	90 時間	講義時期	3 年後期
実習の目的：				担当教員	
<p>専門分野の実習を踏まえ、実務に即した実習を経験することにより、看護実践能力に必要とされる知識・技術を習得し、専門職業人としての責任と役割を培う。</p>				平山 章	
実習の到達目標：				実務経験のある教員科目	
<ol style="list-style-type: none"> 1. 病棟における看護管理の実際を体験し、その役割を理解できる。 2. 看護チームにおけるリーダーやメンバーの責任と役割を理解できる。 3. 診療の補助技術を体験し、看護師の役割を理解できる。 4. 複数の患者を受け持ち、優先順位や時間管理、医療安全を考慮した行動ができる。 5. 夜間における看護師の役割を理解できる。 6. 自己の課題を明らかにするとともに、専門職業人としての責任と役割を理解できる。 				<p>病院で看護師として実務経験（5年以上）を有している教員が、その実務経験をいかして、看護実践能力に必要とされる知識・技術を教授する。専門分野の実習を踏まえ、実務に即した実習を経験することにより、専門職業人としての責任と役割を教授する。</p>	
実 習 内 容 な ら び に 方 法					
実習期間	3 週間				
実習方法	<ol style="list-style-type: none"> 1. 1 グループ 6～7 名の学生で、実習をする。 2. チームリーダー業務実習、チームメンバー実習、複数患者受け持ち実習、夜勤実習をそれぞれ実習計画に基づきローテーションする。 3. チームリーダー業務実習では、病棟看護師長ならびにリーダーに付き添い、業務の実際を見学する。 4. チームメンバー実習では、診察や検査、処置などを体験できるよう、担当の看護師に付き添い、行動する。 5. 複数患者受け持ち実習では、看護師に付き添い、2 名以上の患者を受け持ち、実際に看護を提供する。 (一勤務帯実習とし、8:30～17:00) 6. 夜勤実習では、夜勤の看護師に付き添い、一緒に行動し、看護を提供する。 7. 毎日カンファレンスを行い、学びを共有する（15:30～16:00）。 				
実習内容	<ul style="list-style-type: none"> ・看護チームの一員として、看護管理の実際、リーダーやメンバーの責任と役割を理解できるよう、チームリーダー業務実習とチームメンバー実習を行う。特に、チームメンバー実習では、診療の補助技術を中心に体験し、技術の習得を目指す。 ・複数の患者を受け持ち、一勤務帯を通して、優先順位や時間管理、医療安全を考慮した行動が取れるよう、複数患者受け持ち実習を行う。 ・夜間における看護師の役割を理解できるよう夜間実習を行う。 ・毎日のカンファレンスでは、日々の学びを学生同士で共有することにより、看護師としての自覚と責任を身につける。また、実習の集大成として、知識・技術の到達度が確認できるよう、技術確認試験を行う。 				
実習場所	埼玉医科大学病院				
評価方法	<ol style="list-style-type: none"> 1) 統合実習評価表に準ずる 2) 統合実習技術試験の評価項目に準ずる 3) 提出物：病棟実習記録一式、その他 <p>*60 点以上を合格とし、不合格の場合は補習実習を実施し、60 点以上を合格とする 成績評価は 100 点満点とし、80 点以上を A、70 点以上を B、60 点以上を C、60 点未満を D で表し、A、B、C は合格、D は不合格とする *科目実習時間数の 5 分の 4 以上出席した者を評価の対象とする</p>				
教科書 参考書	<ol style="list-style-type: none"> 1) 看護過程に沿った対症看護（学研） 2) 看護が見える 1・2（メディックメディア） 3) 系統看護学講座 専門分野 成人看護学（※該当教科書）（医学書院） 				
備考 履修者への コメント	<ul style="list-style-type: none"> ・臨地実習の集大成です。各領域での実習の学びをもとに実務を体験します。 ・積極的に看護業務を体験してください。 ・実習の開始時間と終了時間が、多少異なります。各自、確認してください。 				